

向日市人権教育・啓発推進計画に関する
市民意識調査
調査結果報告書

2025年（令和7年）3月

向日市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の方法	2
3	回収状況	2
4	報告書の見方	3
II	調査結果のまとめ	5
III	市民意識調査の調査結果	10
1	回答者自身について	11
(1)	性別	11
(2)	年齢	11
(3)	職業	12
2	人権に関する考え方や認識について	13
(1)	人権尊重に関する考え方	13
(2)	人権尊重の感じ方	15
(3)	人権課題に関する尊重度	19
3	人権に関する法律について	22
(1)	人権に関する法律の認知度	22
(2)	障がいがある人の人権に対する問題	28
(3)	ヘイトスピーチに対する認知度	32
(4)	ヘイトスピーチを見聞きした体験	34
(5)	ヘイトスピーチに対する認識	36
(6)	部落差別（同和問題）を知ったきっかけ	39
(7)	部落差別（同和問題）に対する認識	42
(8)	L G B T等、性的少数者の人権	48
4	差別や人権侵害などに関する考え方について	50
(1)	人権侵害された経験の有無	50
(2)	人権侵害された経験の内容	52

(3) 人権侵害への対応	55
(4) 人権相談窓口の認知度	57
(5) 身近な人権問題に関する考え方	58
(6) 結婚相手の判断条件	63
(7) インターネットによる人権侵害	67
(8) インターネットによる人権侵害への対応	70
5 人権問題を理解するための取組について	72
(1) 人権研修等への参加状況	72
(2) 啓発事業参加後の人権問題に関する理解の変化	74
(3) 効果的な人権啓発手法	75
6 人権が尊重される社会づくりに求められることについて	78
(1) 人権が尊重される社会づくりに向けた施策	78
(2) 向日市の人権教育・啓発に対する意見等	81
IV 調査票	84

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第3次向日市人権教育・啓発推進計画」を策定するにあたり、皆様の状況やご意見等をお伺いし、今後の計画策定の基礎資料とすることを目的に実施した。

2 調査の方法

(1) 調査対象及び標本数

18歳以上の向日市在住の者3,000人

(2) 抽出方法

住民基本台帳による無作為抽出

(3) 調査方法

郵送による配布・回収およびWEBによる回答

(4) 調査期間

2025年（令和7年）1月31日（金）～2月14日（金）

(5) 調査内容

- ①人権に関する考え方や認識について
- ②人権に関する法律について
- ③差別や人権侵害などに関する考え方について
- ④人権問題を理解するための取組について
- ⑤人権が尊重される社会づくりに求められることについて

3 回収状況

配布数	回収数	回収率
3,000 人	871 人	29.0%

4 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（%）を表している。1人の対象者に2以上の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は100.0%を超える。
- (2) 百分比（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比（%）は、すべて各分類項目の該当対象数を100.0%として算出した。表中に次のような表示などがある場合は、複数回答を依頼した質問を示している。
 - ・MA% (MultipleAnswer)：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・3LA% (3LimitedAnswer)：回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
 - ・2LA% (2LimitedAnswer)：回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合
- (4) 図表にある「n」は、集計対象票数（あるいは、分類別の該当対象数）を示し、比率は「n」を100.0%として表した。

Ⅱ 調査結果のまとめ

1 人権に関する考え方や認識について

- (1) 人権尊重に関する考え方についてみると「差別されない、平等であること」(78.6%)が最も高く、次いで「個人として尊重されること」(71.8%)、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができること」(60.8%)となっている。性別にみても男性と女性の間で目立つ差異のある項目はなく、男女ともに日常生活における問題の認識は共通している。年齢別では、「健康で文化的な最低限度の生活を送ること」は60歳以上でおよそ6～7割で、他の年齢層と比べて高くなっている。
- (2) 向日市民一人ひとりの人権意識は10年前と比べて高くなっていると思うかについては、「そう思う」(28.1%)、「そう思わない」(8.2%)となっている。向日市では人権が尊重された豊かな社会になっていると思うかについては、「そう思う」(30.9%)、「そう思わない」(10.1%)となっている。いずれも肯定的意見の方が多い一方で、どちらともいえない、わからないといった中立的な意見が合わせておよそ6割を占めており、向日市内における人権意識の変化に対して曖昧である回答が多数みられた。
- (3) 尊重されていると思う人権課題は、「子どもの人権」(73.0%)が最も高く、次いで「高齢者の人権」(72.0%)となっている。一方で尊重されていないと思う人権課題は、「犯罪被害者とその家族の人権」(34.5%)が最も高く、次いで「ホームレスの人権」(33.7%)となっている。「ハンセン病・HIV感染症・難病患者の人権」「犯罪被害者とその家族の人権」「ホームレスの人権」「刑を終えて出所した人の人権」「アイヌの人々の人権」については「わからない」と回答した者が5割以上と多く、関心や理解度が特に低いことがわかる。また、年齢別にみると、若年層の方が高齢層よりも「尊重されている」と思う割合が高い傾向にあり、「LGBT等、性的少数派の人権」「刑を終えて出所した人の人権」については特に世代間における割合の差が大きくなっている。

2 人権に関する法律について

- (1) 人権に関する法律の認知度は「LGBT理解増進法」(61.9%)が最も高く、理解度を問わず内容を知っている者の割合についても24.1%と、5項目のうち最も高くなっている。一方で「情報流通プラットフォーム対処法」は76.3%が名称も知らない結果となっている。年齢別にみると、「LGBT等理解増進法」の認知度は年齢が高いほど低い傾向にあり、18～29歳と80歳以上では32.9ポイントの差がみられた。
- (2) 障がいのある人の人権に対する問題について、「そう思う」と回答した割合は「補助犬を連れていることを理由に、入店を断られることは問題である」(87.8%)、「精神に障がいのある人に対しては、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる」(65.9%)、「企業は利潤が第一なのだから、知的障がい者や精神障がい者の雇用が進まなくても仕方がない」(21.6%)となっている。精神障がいあるいは知的障がいのある人に対するイメージや社会参加について否定的な意見が少なからずみられるため、障がい特性や障がいのある人がおかれる状況を正しく認識できるよう、啓発が必要である。

- (3) ヘイトスピーチに対する認知度は「知っている」(68.2%)、「知らない」(28.1%)となっている。性別にみると、男性の方が女性より認知度が高く、14.4ポイントの差がみられた。年齢別では、中高年層で認知度が高い傾向にあり、特に50～59歳は78.7%と全年齢層の中で最も高くなっている。
- (4) ヘイトスピーチを知っている人のうち、ヘイトスピーチの存在をどこで見聞きしたかについて、「テレビ・ラジオや新聞などの報道で見たり聞いたりしたことがある」(82.5%)が最も高く、次いで「デモ等の様子をインターネットなどで見たことがある」(37.2%)、「啓発ポスターや啓発冊子等でそのような行為があることを見たことがある」(15.8%)となっている。性別にみると「デモ等の様子をインターネットなどで見たことがある」は、男性の方が女性よりも11.0ポイント高く、年齢別では、年齢が高いほどテレビ・ラジオ・新聞の報道、啓発ポスター・冊子などで見聞きした割合が高くなり、インターネットなどを通じて見聞きした割合は60歳以上で大きく減少している。
- (5) ヘイトスピーチの存在を見聞きしてどのように思ったかについて、「特定の人々を排除するのは、許せないと思った」(55.4%)が最も高く、次いで「日本に対する印象が悪くなると思った」(24.6%)、「ヘイトスピーチをする側の主張も一理あると思った」(23.9%)となっている。性別でみると複数の項目で男性の方が女性よりも高く、特に「ヘイトスピーチされる側にも問題があると思った」は8.0ポイント高くなっている。年齢別では「ヘイトスピーチをする側の主張も一理あると思った」の割合は、50歳未満では3割以上と高く、70歳以上では2割未満と低くなっている。
- (6) 部落差別（同和問題）について初めて知ったきっかけについて、「学校の授業で教わった」(36.3%)が最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」(21.8%)、「部落差別（同和問題）について、知っているが、きっかけは覚えていない」(11.8%)となっている。年齢別にみると、70歳以上の回答は、全体の結果ではきっかけとして最も回答が多かった「学校の授業で教わった」は1割と低く、家族から聞いた、または知っているがきっかけは覚えていないとの回答が主となっている。
- (7) 現在、それぞれの状況において部落差別（同和問題）があると思うかについて、「ある」と回答した割合は「結婚について」(35.7%)が最も高く、次いで「インターネットを介した差別的な情報の拡散」(32.3%)となっている。一方、「ない」と回答した割合は「日常の交流や交際」(57.9%)が最も高くなっている。「インターネットを介した差別的な情報の拡散」についてみると、「ある」(32.3%)、「ない」(20.7%)、「わからない」(44.1%)で、およそ半数の人は判断が曖昧となっている。
- (8) L G B T等の人権について、どのようなことが問題であると思うかについて、「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」(41.0%)が最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(37.5%)、「就職・職場での不利な扱いを受けること」(34.8%)となっている。性別にみると、女性の方が男性よりも「パートナーとの関係が公に認められないこと」の割合が9.8ポイント高く、一方で「差別的な言動をされること」の割合は男性の方が女性よりも5.0ポイント高くなっている。年齢別にみると、70歳未満の、現在も在学あるいは就業している年齢層において「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」が4～5割と高くなっている。

3 差別や人権侵害などに関する考え方について

- (1) 過去5年間に自分の人権を侵害されたと感じたことの有無は、「ある」(12.3%)、「ない」(75.0%)となっており、性別による差はみられなかった。年齢別では、人権を侵害されたとする人のうち、30～39歳は2割と他の年齢層よりも高くなっている。
- (2) 人権を侵害されたと感じたことがある人のうち、どのような人権侵害をされたかについて、「パワーハラスメント(職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ)」(46.7%)が最も高く、次いで「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」(30.8%)となっている。性別では、複数の項目で男性の方が女性よりも回答の割合が高く、特に「パワーハラスメント(職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ)」は17.8ポイント、「公的機関による不当な扱い」は14.4ポイントの大きな差がみられた。
- (3) 人権侵害を受けたと感じた際に、何らかの対応をした場合の対応内容(「何もしないでそのままにした」を除いた結果)について、「家族や友人など信頼できる人に相談した」(44.9%)が最も高く、次いで「相手に対して人権侵害であると注意したり、抗議した」(22.4%)、「公的機関(法務局・府・向日市等の人権相談窓口、警察等)に相談した」(10.3%)となっている。性別にみると、男性の方が女性よりも「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が40.4ポイント低く、一方で「何もしないでそのままにした」は21.4ポイント高くなっていることから、男性が相談しやすい窓口等の設置、または周知などの取組の推進が必要である。
- (4) 国やNPO法人等の民間団体において人権相談の窓口が開かれていることの認知度は、「知っている」(34.4%)、「知らない」(64.3%)で、性別による差はみられなかった。年齢別では60～69歳が4割と他の年齢層と比べて高くなっている。
- (5) 人権の尊重や侵害など、様々な人権問題に対する考え方について賛成としているものは「親の介護が必要になったとき、女性の役割だと決めつけるのはよくない」(87.9%)が最も高く、次いで「学校や企業などは、障がいのある人の特性や困りごとを配慮して、教育や就業機会の提供に努めるべきである」(83.2%)、「犯罪被害者について、報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなることは問題である」(83.0%)となっている。年齢別では、複数の項目において若年層と高齢層の間で人権問題に対する考え方に相違がみられ、特に「刑を終えて出所した人は、更生した後も、インターネットなどで過去の犯罪歴を調べられることがあってもやむを得ない」については、18～39歳はおよそ7割、40～59歳はおよそ半数が賛成しているが、60歳以上は3割未満にとどまっている。
- (6) 回答者に子どもがいた場合、子どもが結婚しようとする相手に「障がいのある人」「外国人」「被差別部落(同和地区)出身者」のいずれかの条件があるとした際、いずれも「親としては気になるが、子どもの意思を尊重する」が4～6割で最も高くなっている。年齢別では、いずれの条件においても、「何も気にしない」の割合は他の年齢と比べて80歳以上がいずれの条件においても最も低くなっている。

- (7) インターネットにより、現在どのような人権侵害が起きていると思うかについて、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」(87.8%)が最も高く、次いで「SNS (LINEやX (旧Twitter) など) による交流が犯罪を誘発する場となっている」(71.0%)、「プライバシーに関する情報が掲載されること」(65.7%)となっている。性別にみると、複数の項目で女性の方が男性より割合が高く、特に「ネットポルノが存在していること」は12.3ポイントの大きな差がみられた。年齢別では、30～39歳は複数の項目で他の年齢層よりも割合が高く、18～29歳は「特定の地域が被差別部落 (同和地区) である、または、あったと示唆するような情報が掲載されること」「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること」の割合は他の年齢層と比べて10.0ポイント以上低いことから、項目により世代間で問題であるとする認識の違いがみられる。
- (8) インターネットによる人権侵害を改善するためにするとよいと思う対応として、「インターネットを利用するときのルールやマナーについての教育、啓発を推進する」(74.6%)が「不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する」(69.1%)、「プロバイダ等に対し積極的に削除を求める」(51.3%)となっている。年齢別では、若年層ほど「表現の自由に関わる問題であり、慎重に対応する必要がある」の割合が高くなっている。

4 人権問題を理解するための取組について

- (1) 最近 (5年間) 人権問題に関する研修会や講演会等の行事への参加状況は、「参加したことがある」(12.1%)、「参加したことがない」(83.8%)で、参加率は低くなっている。年齢別にみると、50～69歳は参加率が比較的高く、15.0%以上となっている。
- (2) 最近 (5年間) 人権問題に関する研修会や講演会等の行事に参加した人が、人権や人権問題に対する理解・認識は「深まった」(88.6%)との回答が多くなっている。性別にみると、男性の方が女性よりも「変わらない」の割合が11.0ポイント高くなっている。
- (3) 人権問題について理解や認識を深めるために効果的な手法として、「小・中学校など学校での人権教育」(71.4%)が最も高く、次いで「職場や職種・業界団体等による研修会、講演会等」(30.1%)、「テレビ・ラジオ・映画・DVD・ビデオ」(27.4%)となっている。年齢別にみると、年齢が低いほど「インターネット (SNS (LINEやX (旧Twitter)))」「動画配信サイト」などオンライン上での対応が効果的であるとの回答が多くなっている。

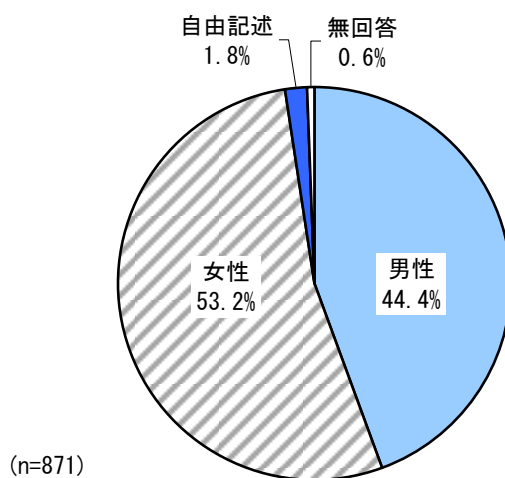
5 人権が尊重される社会づくりに求められることについて

人権が尊重される社会づくりに必要と思う施策について、「学校等における人権教育を充実させる」(78.1%)が最も高く、次いで「企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する」(34.4%)、「行政が人権尊重の視点に立って様々な施策を行う」(22.5%)となっており、学校や職場等での「人権教育の充実」が、他の施策に比べて圧倒的に必要とされている。年齢別にみると、年齢が高いほど「行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を推進する」「公務員等人権との関わりの深い職業に従事する人の人権意識を高める」など、職業等の立場を問わず、向日市民一人ひとりの人権意識を高めることが必要であるとの回答が多くなっている。

Ⅲ 市民意識調査の調査結果

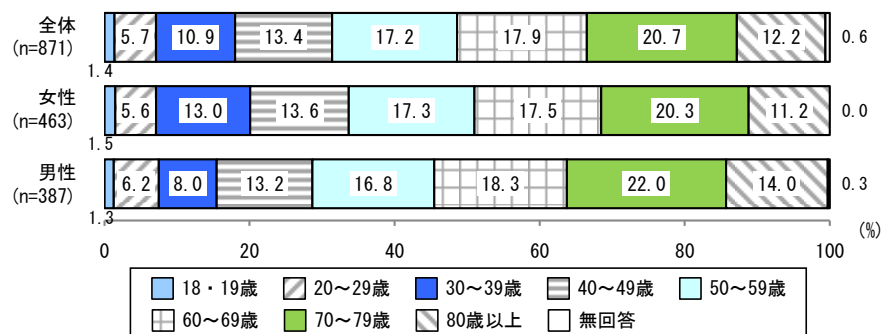
1 回答者自身について

(1) 性別



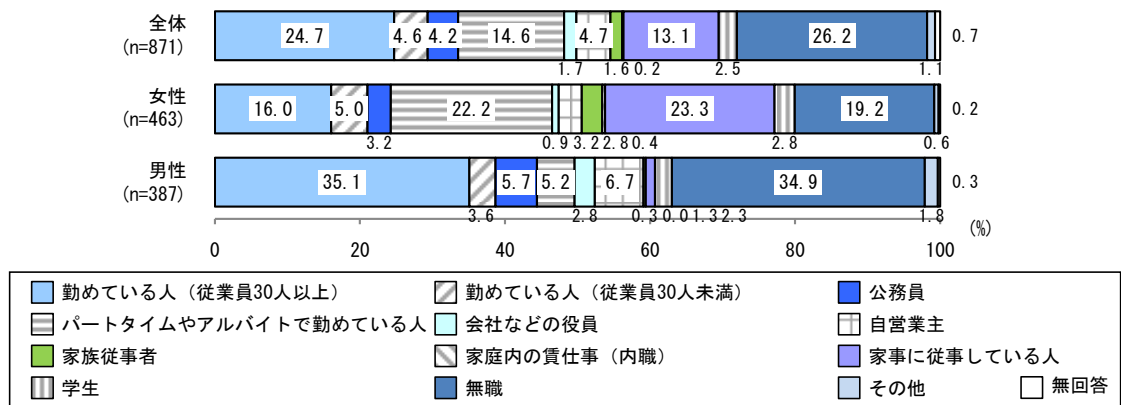
女性が53.2%、男性が44.4%となっている。

(2) 年齢



「70～79歳」が20.7%と最も高く、次いで「60～69歳」が17.9%、「50～59歳」が17.2%となっている。性別にみても、男性・女性ともに同様の傾向がみられた。

(3) 職業



「無職」が26.2%と最も高く、次いで「勤めている人 (従業員30人以上)」が24.7%、「パートタイムやアルバイトで勤めている人」が14.6%となっている。

性別にみると、女性は「家事に従事している人」が23.3%、男性は「勤めている人 (従業員30人以上)」が35.1%で、それぞれ最も高くなっている。

【年齢別】

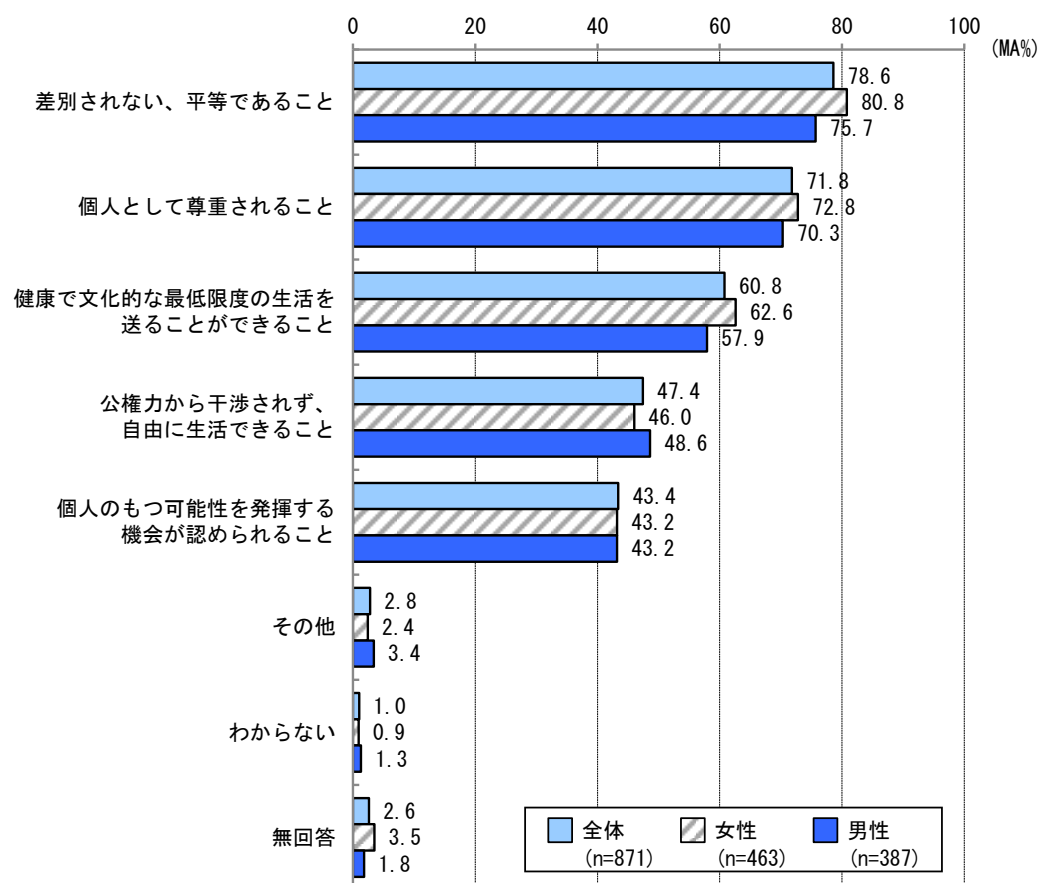
	全 体	3 勤 め て い る 人 (従 業 員 3 0 人 以 上)	3 勤 め て い る 人 (従 業 員 3 0 人 未 満)	公 務 員	パ ー ト タ イ ム や ア ル バ イ ト で 勤 め て い る 人	会 社 な ど の 役 員	自 営 業 主	家 族 従 事 者	(家 庭 内 の 賃 仕 事) 内 職	家 事 に 従 事 し て い る 人	学 生	無 職	そ の 他	無 回 答
上段：実数 下段：%														
全体	871 100.0	215 24.7	40 4.6	37 4.2	127 14.6	15 1.7	41 4.7	14 1.6	2 0.2	114 13.1	22 2.5	228 26.2	10 1.1	6 0.7
18～29歳	62 100.0	23 37.1	2 3.2	5 8.1	4 6.5	1 1.6	-	-	-	1 1.6	22 35.5	4 6.5	-	-
30～39歳	95 100.0	41 43.2	8 8.4	11 11.6	11 11.6	2 2.1	4 4.2	1 1.1	-	12 12.6	-	5 5.3	-	-
40～49歳	117 100.0	48 41.0	10 8.5	12 10.3	24 20.5	2 1.7	5 4.3	2 1.7	1 0.9	11 9.4	-	2 1.7	-	-
50～59歳	150 100.0	62 41.3	11 7.3	6 4.0	36 24.0	3 2.0	7 4.7	4 2.7	-	11 7.3	-	8 5.3	2 1.3	-
60～69歳	156 100.0	40 25.6	7 4.5	3 1.9	29 18.6	3 1.9	11 7.1	2 1.3	1 0.6	24 15.4	-	35 22.4	1 0.6	-
70～79歳	180 100.0	1 0.6	2 1.1	-	23 12.8	3 1.7	9 5.0	2 1.1	-	35 19.4	-	103 57.2	2 1.1	-
80歳以上	106 100.0	-	-	-	-	1 0.9	5 4.7	3 2.8	-	20 18.9	-	71 67.0	5 4.7	1 0.9

年齢別にみると、18～69 歳では「勤めている人 (従業員 30 人以上)」が最も高いが、70 歳以上では「無職」がおよそ 6～7 割と、他の年齢層と比べて高くなっている。

2 人権に関する考え方や認識について

(1) 人権尊重に関する考え方

問1 あなたは「人権が尊重されている」とはどういうことだと思いますか。
(○はいくつでも)



「差別されない、平等であること」が78.6%と最も高く、次いで「個人として尊重されること」が71.8%、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができること」が60.8%となっている。
性別にみても、男性・女性ともに同様の傾向がみられた。

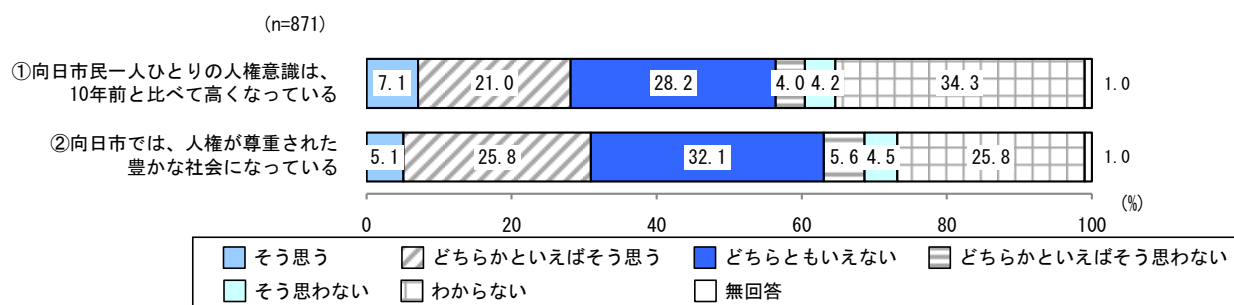
【年齢別】

上段：実数 下段：％	全 体	差別 でない、 平等であること	個人として 尊重されること	健康で文化的な最低 限度の生活を送ること	公権力から干渉され ず、自由に生活できること	個人の持つ可能性を 発揮する機会が認められ ること	その他	わからない	無回答
全体	871 100.0	685 78.6	625 71.8	530 60.8	413 47.4	378 43.4	24 2.8	9 1.0	23 2.6
18～29歳	62 100.0	42 67.7	43 69.4	34 54.8	30 48.4	22 35.5	1 1.6	－ －	2 3.2
30～39歳	95 100.0	71 74.7	76 80.0	51 53.7	39 41.1	39 41.1	5 5.3	1 1.1	2 2.1
40～49歳	117 100.0	88 75.2	89 76.1	65 55.6	54 46.2	54 46.2	1 0.9	－ －	3 2.6
50～59歳	150 100.0	121 80.7	111 74.0	86 57.3	63 42.0	76 50.7	3 2.0	－ －	5 3.3
60～69歳	156 100.0	127 81.4	114 73.1	109 69.9	80 51.3	74 47.4	7 4.5	2 1.3	1 0.6
70～79歳	180 100.0	146 81.1	117 65.0	118 65.6	89 49.4	69 38.3	4 2.2	3 1.7	7 3.9
80歳以上	106 100.0	86 81.1	71 67.0	64 60.4	54 50.9	41 38.7	2 1.9	3 2.8	3 2.8

年齢別にみると、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができること」の割合は、60 歳以上で 6 割を超えており、特に 60～69 歳は 69.9%と他の年齢層と比べて高くなっている。

(2) 人権尊重の感じ方

問2 人権を取り巻く社会の状況について、あなたはどのように思いますか。
(①と②のそれぞれに○は1つずつ)



① 向日市民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている

『そう思う』(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は28.1%、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合)は8.2%で、肯定的意見の方が否定的意見よりも割合が高くなっている。

② 向日市では、人権が尊重された豊かな社会になっている

『そう思う』(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は30.9%、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合)は10.1%で、肯定的意見の方が否定的意見よりも割合が高くなっている。

【性別】

① 向日市民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている

	全 体	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	62 7.1	183 21.0	246 28.2	35 4.0	37 4.2	299 34.3	9 1.0
女性	463 100.0	29 6.3	91 19.7	128 27.6	18 3.9	19 4.1	173 37.4	5 1.1
男性	387 100.0	31 8.0	90 23.3	111 28.7	16 4.1	17 4.4	118 30.5	4 1.0

性別にみると、『そう思う』(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は、男性が31.3%、女性が26.0%で、男性の方が女性よりも5.3ポイント高くなっている。

② 向日市では、人権が尊重された豊かな社会になっている

	全 体	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	44 5.1	225 25.8	280 32.1	49 5.6	39 4.5	225 25.8	9 1.0
女性	463 100.0	18 3.9	114 24.6	146 31.5	25 5.4	24 5.2	130 28.1	6 1.3
男性	387 100.0	25 6.5	108 27.9	129 33.3	21 5.4	13 3.4	88 22.7	3 0.8

性別にみると、『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は、男性が34.4%、女性が28.5%で、男性の方が女性よりも5.9ポイント高くなっている。

【年齢別】

① 向日市民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている

	全 体	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	62 7.1	183 21.0	246 28.2	35 4.0	37 4.2	299 34.3	9 1.0
18～29歳	62 100.0	2 3.2	11 17.7	10 16.1	4 6.5	2 3.2	33 53.2	－ －
30～39歳	95 100.0	6 6.3	9 9.5	24 25.3	2 2.1	1 1.1	53 55.8	－ －
40～49歳	117 100.0	4 3.4	18 15.4	34 29.1	7 6.0	4 3.4	49 41.9	1 0.9
50～59歳	150 100.0	6 4.0	25 16.7	58 38.7	3 2.0	9 6.0	49 32.7	－ －
60～69歳	156 100.0	12 7.7	27 17.3	55 35.3	8 5.1	7 4.5	46 29.5	1 0.6
70～79歳	180 100.0	20 11.1	49 27.2	43 23.9	7 3.9	11 6.1	49 27.2	1 0.6
80歳以上	106 100.0	10 9.4	43 40.6	22 20.8	4 3.8	3 2.8	19 17.9	5 4.7

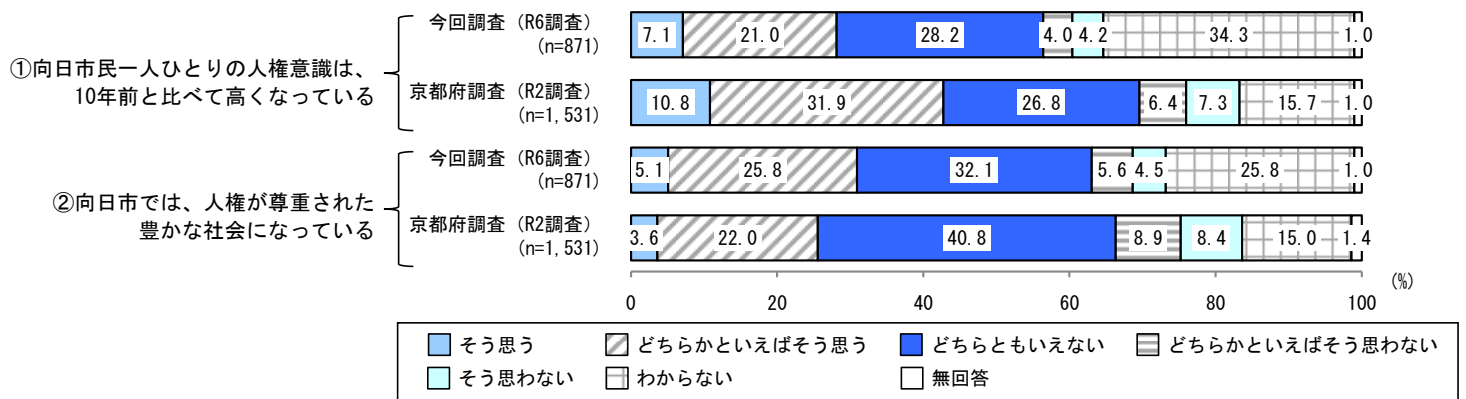
年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにつれて『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は増加傾向にあり、80歳以上では5割を占めている。

② 向日市では、人権が尊重された豊かな社会になっている

	全 体	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	44 5.1	225 25.8	280 32.1	49 5.6	39 4.5	225 25.8	9 1.0
18～29歳	62 100.0	7 11.3	21 33.9	12 19.4	3 4.8	— —	19 30.6	— —
30～39歳	95 100.0	4 4.2	21 22.1	26 27.4	4 4.2	4 4.2	36 37.9	— —
40～49歳	117 100.0	3 2.6	29 24.8	42 35.9	8 6.8	6 5.1	28 23.9	1 0.9
50～59歳	150 100.0	6 4.0	37 24.7	56 37.3	6 4.0	8 5.3	37 24.7	— —
60～69歳	156 100.0	6 3.8	30 19.2	56 35.9	8 5.1	8 5.1	47 30.1	1 0.6
70～79歳	180 100.0	8 4.4	44 24.4	61 33.9	13 7.2	11 6.1	41 22.8	2 1.1
80歳以上	106 100.0	9 8.5	42 39.6	27 25.5	6 5.7	2 1.9	16 15.1	4 3.8

18～29歳、80歳以上では、『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）はおおよそ4～5割と高い一方、その他の年齢層においてはいずれも20.0%台と低くなっている。

【京都府調査との比較】



① 向日市民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている

京都府調査の『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は42.7%で、今回調査（向日市）と比べて14.6ポイント高くなっている。「わからない」の割合は、京都府調査が15.7%であるのに対し、今回調査（向日市）は34.3%で倍以上高くなっている。

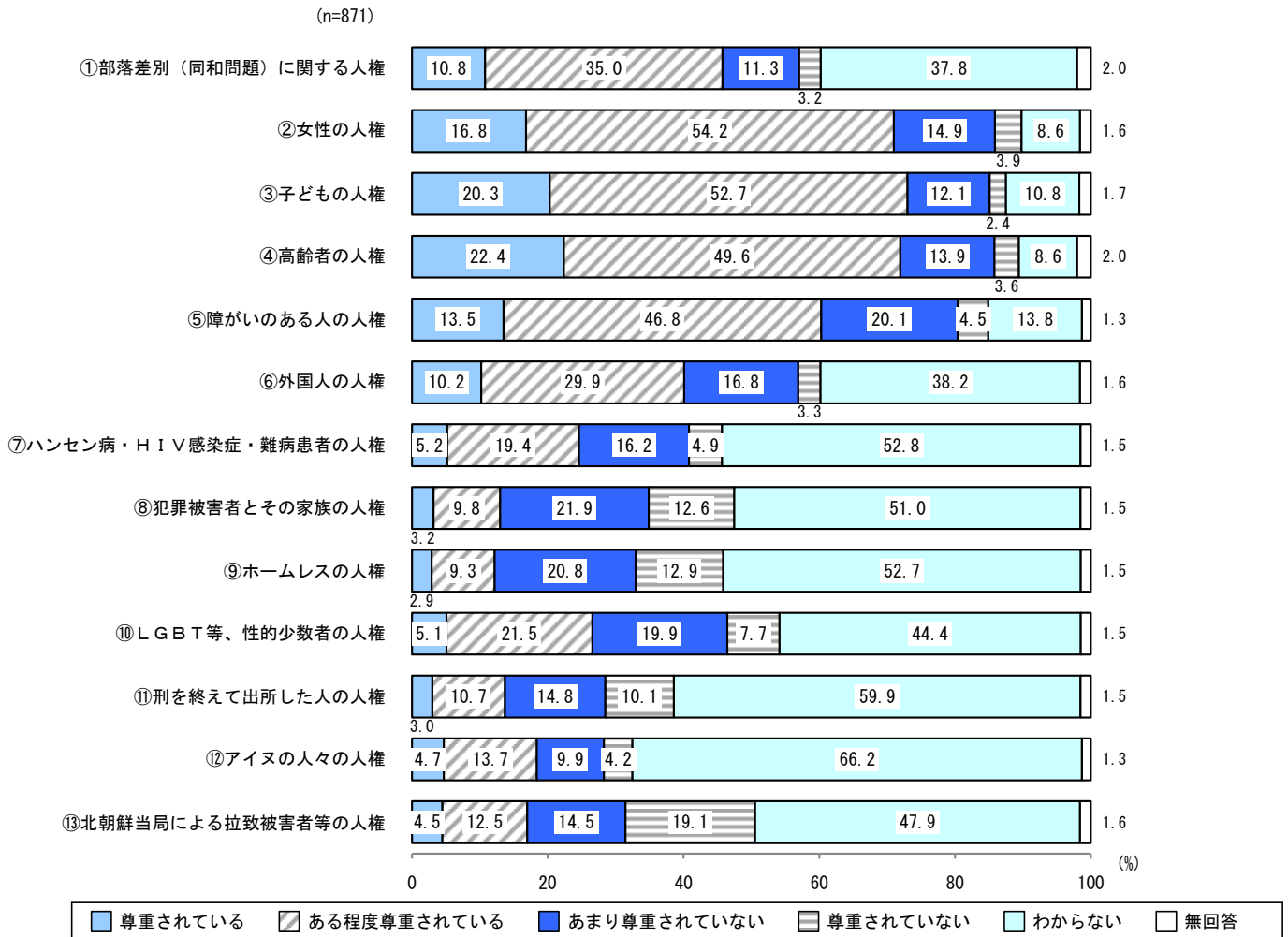
② 向日市では、人権が尊重された豊かな社会になっている

京都府調査の『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は25.6%、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合）は17.3%で、今回調査（向日市）と比べて肯定的意見は低く、否定的意見は高くなっている。「わからない」の割合は、『①向日市民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている』と同様の傾向で、今回調査（向日市）が京都府調査よりも10.8ポイント高くなっている。

注）京都府調査では①「府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている」、②「京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている」

(3) 人権課題に関する尊重度

問3 あなたは、次にあげた人権が尊重されていると思いますか。
(①～⑬のそれぞれに○は1つずつ)



『尊重されている』（「尊重されている」「ある程度尊重されている」を合わせた割合）は、「③子どもの人権」が73.0%と最も高く、『尊重されていない』（「あまり尊重されていない」「尊重されていない」を合わせた割合）は、「⑧犯罪被害者とその家族の人権」が34.5%と最も高くなっている。

【性別】

上段：実数 下段：％	全 体	① 人問部 権題）落 に差 関へ同 す和	② 女性 の人 権	③ 子 ども の人 権	④ 高 齢 者 の 人 権	⑤ 障 が い の あ る 人 の 人 権	⑥ 外 国 人 の 人 権	⑦ 難 病 患 者 の 人 権 ・ ハン セン 病 感 染 症 ・
全体	871 100.0	399 45.8	618 71.0	636 73.0	627 72.0	526 60.4	349 40.1	214 24.6
女性	463 100.0	205 44.3	313 67.6	331 71.5	323 69.8	261 56.4	170 36.7	101 21.8
男性	387 100.0	191 49.4	297 76.7	295 76.2	291 75.2	254 65.6	172 44.4	112 28.9

上段：実数 下段：％	全 体	⑧ そ の 犯 罪 被 害 者 の 人 と 権	⑨ ホ ー ム レ ス の 人 権	⑩ 性 的 少 数 派 の 人 権 L G B T 等、	⑪ し 刑 を 終 え の 人 て 権 出 所	⑫ 人 ア イ ヌ の 人 々 の 人 権	⑬ 人 拉 北 権 致 朝 被 害 者 等 に よ る 局 の 人 権	無 回 答
全体	871 100.0	113 13.0	106 12.2	231 26.5	119 13.7	160 18.4	148 17.0	98 11.3
女性	463 100.0	57 12.3	52 11.2	115 24.8	64 13.8	86 18.6	72 15.6	52 11.2
男性	387 100.0	56 14.5	54 14.0	112 28.9	54 14.0	74 19.1	76 19.6	39 10.1

性別に、『尊重されている』（「尊重されている」「どちらかといえば尊重されている」を合わせた割合）をみると、すべての項目において男性の方が女性よりも高く、特に「⑤障がいのある人の人権」は9.2ポイント、「②女性の人権」は9.1ポイント高くなっており、性別による差がみられた。

【年齢別】

	全 体	① 人権 問題 (差別 に 関 する 和 差)	② 女 性 の 人 権	③ 子 ど も の 人 権	④ 高 齢 者 の 人 権	⑤ 人 障 が い の あ る 人 の 人 権	⑥ 外 国 人 の 人 権	⑦ 難 民 ・ H I V 感 染 病 者 の 人 権
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	399 45.8	618 71.0	636 73.0	627 72.0	526 60.4	349 40.1	214 24.6
18～29歳	62 100.0	38 61.3	46 74.2	50 80.6	51 82.3	43 69.4	31 50.0	23 37.1
30～39歳	95 100.0	38 40.0	70 73.7	71 74.7	83 87.4	64 67.4	56 58.9	26 27.4
40～49歳	117 100.0	42 35.9	84 71.8	87 74.4	88 75.2	70 59.8	57 48.7	19 16.2
50～59歳	150 100.0	69 46.0	108 72.0	119 79.3	123 82.0	97 64.7	67 44.7	48 32.0
60～69歳	156 100.0	75 48.1	108 69.2	110 70.5	106 67.9	87 55.8	57 36.5	34 21.8
70～79歳	180 100.0	79 43.9	122 67.8	125 69.4	105 58.3	97 53.9	50 27.8	41 22.8
80歳以上	106 100.0	57 53.8	79 74.5	72 67.9	69 65.1	65 61.3	30 28.3	23 21.7

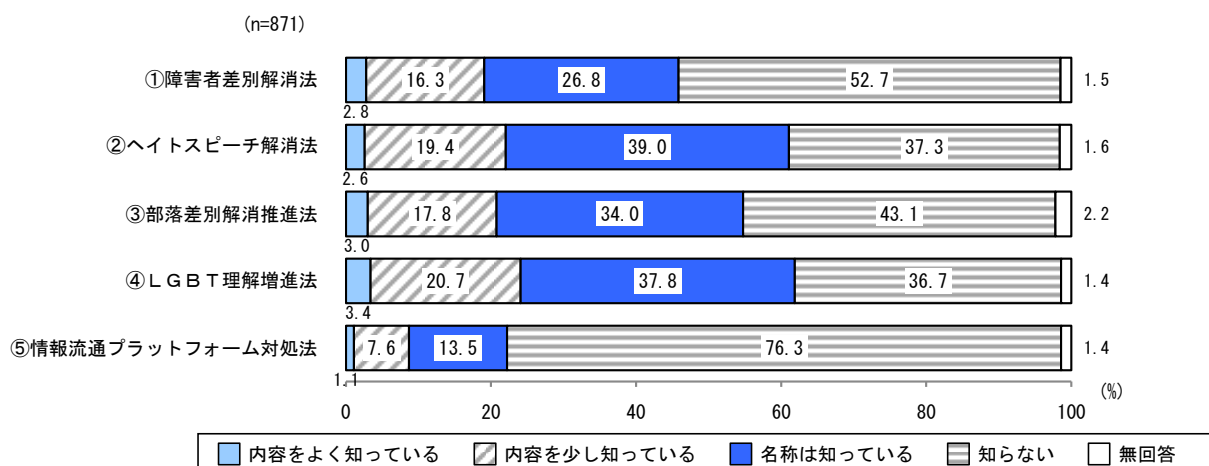
	全 体	⑧ そ の 犯 罪 家 族 害 の 者 と 人 権	⑨ ホ ー ム レ ス の 人 権	⑩ 性 的 少 数 派 の 人 権	⑪ 刑 を 終 え て 出 所 した 人 の 人 権	⑫ 人 ア イ ヌ の 人 々 の 人 権	⑬ 人 拉 致 北 朝 鮮 被 害 者 等 に よ る 人 権	無 回 答
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	113 13.0	106 12.2	231 26.5	119 13.7	160 18.4	148 17.0	98 11.3
18～29歳	62 100.0	16 25.8	17 27.4	29 46.8	22 35.5	17 27.4	12 19.4	4 6.5
30～39歳	95 100.0	16 16.8	20 21.1	30 31.6	22 23.2	26 27.4	16 16.8	5 5.3
40～49歳	117 100.0	15 12.8	15 12.8	37 31.6	17 14.5	18 15.4	17 14.5	13 11.1
50～59歳	150 100.0	18 12.0	17 11.3	52 34.7	17 11.3	32 21.3	25 16.7	14 9.3
60～69歳	156 100.0	18 11.5	17 10.9	43 27.6	18 11.5	18 11.5	24 15.4	17 10.9
70～79歳	180 100.0	20 11.1	12 6.7	21 11.7	14 7.8	29 16.1	32 17.8	33 18.3
80歳以上	106 100.0	10 9.4	8 7.5	18 17.0	9 8.5	20 18.9	22 20.8	10 9.4

年齢別に、『尊重されている』（「尊重されている」「どちらかといえば尊重されている」を合わせた割合）をみると、「②女性の人権」「⑬北朝鮮当局による拉致被害者等の人権」を除く項目においては、概ね年齢が高くなるにつれて割合は低くなる傾向がみられた。18～29歳と80歳以上の割合の差をみると、「⑩LGBT等、性的少数派の人権」は29.8%、「⑪刑を終えて出所した人の人権」は27.0%と特に大きくなっている。

3 人権に関する法律について

(1) 人権に関する法律の認知度

問4 あなたは、次のような人権に関する法律を知っていますか。
(①～⑤のそれぞれに○は1つつ)



『知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」「名称は知っている」を合わせた割合）は、「④LGBT理解増進法」が61.9%と最も高く「知らない」は、「⑤情報流通プラットフォーム対処法」が76.3%と最も高くなっている。

【性別】

① 障害者差別解消法

	全 体	る 内 容 を よ く 知 っ て い る	る 内 容 を 少 し 知 っ て い る	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	24 2.8	142 16.3	233 26.8	459 52.7	13 1.5
女性	463 100.0	11 2.4	71 15.3	129 27.9	243 52.5	9 1.9
男性	387 100.0	13 3.4	67 17.3	101 26.1	202 52.2	4 1.0

性別にみても、『知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」「名称は知っている」を合わせた割合）は、男性の方が女性よりも1.2ポイントとわずかに高いのみで、男性・女性ともに「知らない」の割合は5割以上と認知度は低く、性別による差はみられなかった。

② ヘイトスピーチ解消法

	全 体	る 内 容 を よ く 知 っ て い	る 内 容 を 少 し 知 っ て い	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	23 2.6	169 19.4	340 39.0	325 37.3	14 1.6
女性	463 100.0	9 1.9	71 15.3	183 39.5	191 41.3	9 1.9
男性	387 100.0	14 3.6	95 24.5	150 38.8	123 31.8	5 1.3

『内容を知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた割合）は、男性・女性ともに3割未満と低い、男性の方が女性よりも10.2ポイント高く、男性の方が内容の認知度が高い傾向がみられた。

③ 部落差別解消推進法

	全 体	る 内 容 を よ く 知 っ て い	る 内 容 を 少 し 知 っ て い	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	26 3.0	155 17.8	296 34.0	375 43.1	19 2.2
女性	463 100.0	9 1.9	75 16.2	160 34.6	208 44.9	11 2.4
男性	387 100.0	17 4.4	78 20.2	130 33.6	154 39.8	8 2.1

『知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」「名称は知っている」を合わせた割合）は、男性・女性ともに5割以上を占めており、男性の方が女性よりも5.5ポイント高くなっている。

④ L G B T理解増進法

	全 体	る 内 容 を よ く 知 っ て い	る 内 容 を 少 し 知 っ て い	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	30 3.4	180 20.7	329 37.8	320 36.7	12 1.4
女性	463 100.0	15 3.2	91 19.7	177 38.2	173 37.4	7 1.5
男性	387 100.0	15 3.9	86 22.2	144 37.2	137 35.4	5 1.3

『知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」「名称は知っている」を合わせた割合）は、男性・女性ともに6割以上と高く、「知らない」の割合においても2.0ポイントのわずかな差で、性別による認知度の差はみられなかった。

⑤ 情報流通プラットフォーム対処法

	全 体	る 内 容 を よ く 知 っ て い	る 内 容 を 少 し 知 っ て い	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	10 1.1	66 7.6	118 13.5	665 76.3	12 1.4
女性	463 100.0	2 0.4	31 6.7	57 12.3	366 79.0	7 1.5
男性	387 100.0	8 2.1	33 8.5	59 15.2	282 72.9	5 1.3

男性・女性ともに「知らない」の割合はおよそ7～8割と高く、「名称を知っている」の割合においても、1割台と低くなっており、性別にかかわらず認知度が低い傾向がみられた。

【年齢別】

① 障害者差別解消法

	全 体	い る 内 容 を よ く 知 っ て	知 内 容 を 少 し 知 っ て い る	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	24 2.8	142 16.3	233 26.8	459 52.7	13 1.5
18～29歳	62 100.0	6 9.7	15 24.2	14 22.6	27 43.5	—
30～39歳	95 100.0	4 4.2	19 20.0	24 25.3	48 50.5	—
40～49歳	117 100.0	3 2.6	17 14.5	27 23.1	69 59.0	1 0.9
50～59歳	150 100.0	5 3.3	15 10.0	44 29.3	86 57.3	—
60～69歳	156 100.0	4 2.6	28 17.9	35 22.4	89 57.1	—
70～79歳	180 100.0	—	22 12.2	58 32.2	93 51.7	7 3.9
80歳以上	106 100.0	2 1.9	23 21.7	31 29.2	46 43.4	4 3.8

年齢別にみると、『知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」「名称は知っている」を合わせた割合）はいずれの年齢層でもおよそ4～5割と高いが、『内容を知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた割合）は、18～29歳のみ33.9%と高く、その他の年齢層では低くなっている。

② ヘイトスピーチ解消法

上段：実数 下段：%	全 体	い 内 容 を よ く 知 っ て	知 内 容 を 少 し 知 っ て い る	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全体	871 100.0	23 2.6	169 19.4	340 39.0	325 37.3	14 1.6
18～29歳	62 100.0	6 9.7	10 16.1	21 33.9	25 40.3	-
30～39歳	95 100.0	4 4.2	18 18.9	30 31.6	43 45.3	-
40～49歳	117 100.0	3 2.6	26 22.2	41 35.0	45 38.5	2 1.7
50～59歳	150 100.0	3 2.0	32 21.3	64 42.7	51 34.0	-
60～69歳	156 100.0	6 3.8	30 19.2	62 39.7	58 37.2	-
70～79歳	180 100.0	1 0.6	35 19.4	76 42.2	61 33.9	7 3.9
80歳以上	106 100.0	-	16 15.1	46 43.4	40 37.7	4 3.8

いずれの年齢層でも『内容を知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた割合）は3割未満と低く、概ね年齢が高くなるにつれて割合が低くなっている。「内容をよく知っている」については、80歳以上では回答がみられなかった。

③ 部落差別解消推進法

上段：実数 下段：%	全 体	い 内 容 を よ く 知 っ て	知 内 容 を 少 し 知 っ て い る	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全体	871 100.0	26 3.0	155 17.8	296 34.0	375 43.1	19 2.2
18～29歳	62 100.0	6 9.7	12 19.4	17 27.4	27 43.5	-
30～39歳	95 100.0	5 5.3	15 15.8	22 23.2	52 54.7	1 1.1
40～49歳	117 100.0	2 1.7	19 16.2	37 31.6	59 50.4	-
50～59歳	150 100.0	2 1.3	28 18.7	56 37.3	64 42.7	-
60～69歳	156 100.0	6 3.8	27 17.3	54 34.6	69 44.2	-
70～79歳	180 100.0	1 0.6	26 14.4	72 40.0	69 38.3	12 6.7
80歳以上	106 100.0	4 3.8	27 25.5	38 35.8	32 30.2	5 4.7

概ね年齢が高くなるにつれて「知らない」の割合は低くなり、認知度が高くなっている。『知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」「名称は知っている」を合わせた割合）はいずれの年齢層でもおよそ4～6割と高いが、『内容を知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた割合）は3割未満となっている。

④ L G B T 理解増進法

	全 体	い る 内 容 を よ く 知 っ て	知 内 容 を 少 し 知 っ て い る	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	30 3.4	180 20.7	329 37.8	320 36.7	12 1.4
18～29歳	62 100.0	10 16.1	18 29.0	19 30.6	15 24.2	－ －
30～39歳	95 100.0	3 3.2	28 29.5	36 37.9	28 29.5	－ －
40～49歳	117 100.0	4 3.4	30 25.6	41 35.0	41 35.0	1 0.9
50～59歳	150 100.0	2 1.3	40 26.7	61 40.7	47 31.3	－ －
60～69歳	156 100.0	8 5.1	30 19.2	58 37.2	60 38.5	－ －
70～79歳	180 100.0	2 1.1	21 11.7	71 39.4	79 43.9	7 3.9
80歳以上	106 100.0	1 0.9	12 11.3	43 40.6	47 44.3	3 2.8

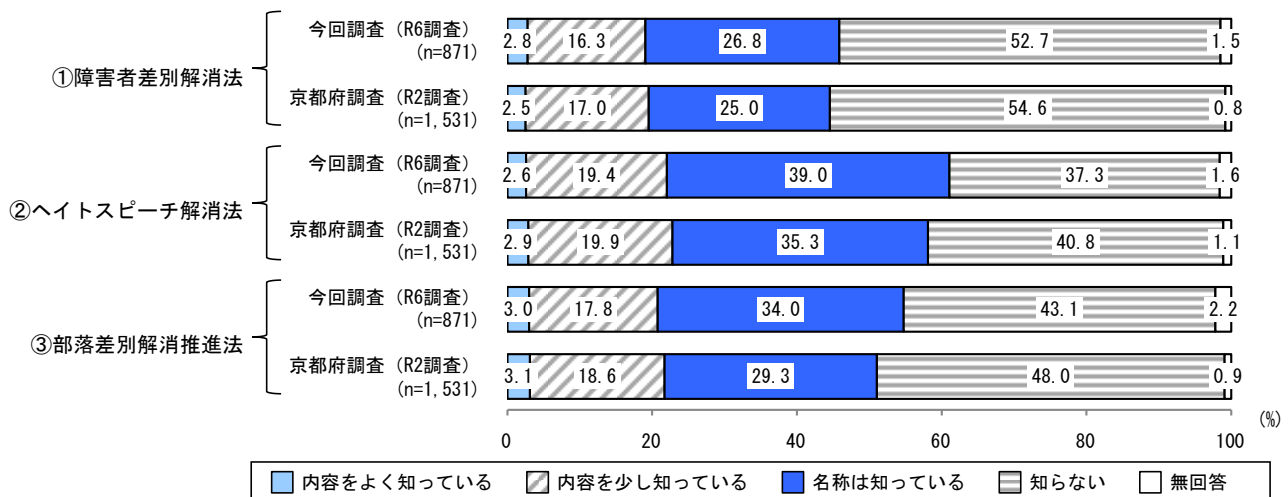
概ね年齢が高くなるにつれて「知らない」の割合は高くなり、認知度が低くなっている。『知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」「名称は知っている」を合わせた割合）はいずれの年齢層でもおよそ5～7割と高いが、『内容を知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた割合）は年齢が低くなるにつれて低くなり、18～29歳と80歳以上では32.9ポイントの差がみられた。

⑤ 情報流通プラットフォーム対処法

	全 体	い る 内 容 を よ く 知 っ て	知 内 容 を 少 し 知 っ て い る	名 称 は 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	10 1.1	66 7.6	118 13.5	665 76.3	12 1.4
18～29歳	62 100.0	5 8.1	5 8.1	6 9.7	46 74.2	－ －
30～39歳	95 100.0	－ －	7 7.4	9 9.5	79 83.2	－ －
40～49歳	117 100.0	3 2.6	9 7.7	12 10.3	93 79.5	－ －
50～59歳	150 100.0	1 0.7	16 10.7	29 19.3	103 68.7	1 0.7
60～69歳	156 100.0	1 0.6	12 7.7	19 12.2	123 78.8	1 0.6
70～79歳	180 100.0	－ －	9 5.0	26 14.4	138 76.7	7 3.9
80歳以上	106 100.0	－ －	7 6.6	16 15.1	81 76.4	2 1.9

いずれの年齢層においても「知らない」の割合はおよそ7～8割と高く、認知度が低くなっている。『内容を知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた割合）は18～29歳は16.2%と比較的高いが、「内容をよく知っている」の割合は8.1%と低く、30～39歳・70歳以上では回答がみられなかった。

【京都府調査との比較】

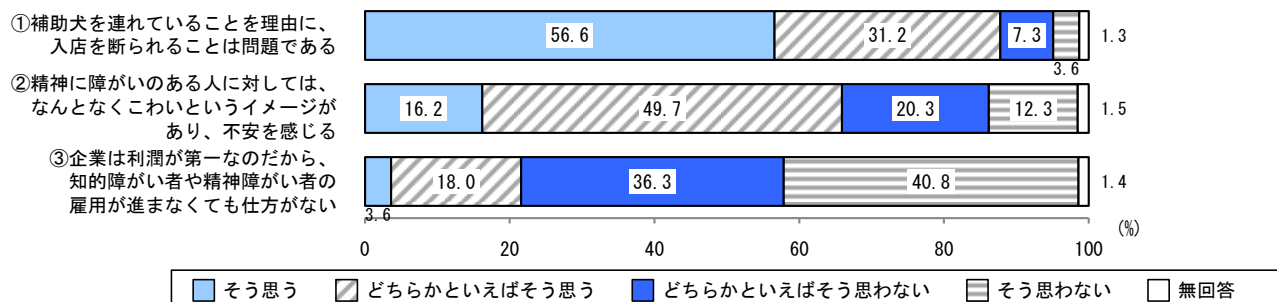


『知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」「名称は知っている」を合わせた割合）は、全ての項目で今回調査（向日市）の方が京都府調査よりも高くなっている。しかし、『内容を知っている』（「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた割合）は、京都府調査、今回調査（向日市）ともに2割前後と低くなっている。

(2) 障がいがある人の人権に対する問題

問5 障がいのある人の人権に関する、次のあげた事項についてどう思いますか。
(①～③のそれぞれに○は1つずつ)

(n=871)



『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は、「①補助犬を連れていくことを理由に、入店を断られることは問題である」が87.8%、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合）は、「③企業は利潤が第一なのだから、知的障がい者や精神障がい者の雇用が進まなくても仕方がない」が77.1%で、それぞれ最も高くなっている。

【性別】

① 補助犬を連れていくことを理由に、入店を断られることは問題である

	全 体	そう 思う	う ど ち ら か と い え ば そ	う ど ち ら か と い え ば そ	そう 思 わ な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	493 56.6	272 31.2	64 7.3	31 3.6	11 1.3
女性	463 100.0	264 57.0	154 33.3	26 5.6	12 2.6	7 1.5
男性	387 100.0	219 56.6	108 27.9	37 9.6	19 4.9	4 1.0

性別にみると、『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は男性・女性ともに8～9割を占め、女性の方が男性よりも5.8ポイント高くなっている。

② 精神に障がいのある人に対しては、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる

	全 体	そう 思う	う ど ち ら か と い え ば そ	う ど ち ら か と い え ば そ	そう 思 わ な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	141 16.2	433 49.7	177 20.3	107 12.3	13 1.5
女性	463 100.0	68 14.7	248 53.6	95 20.5	43 9.3	9 1.9
男性	387 100.0	69 17.8	174 45.0	80 20.7	60 15.5	4 1.0

『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は男性・女性ともに6割を占め、女性の方が男性よりも5.5ポイント高くなっている。

③ 企業は利潤が第一なのだから、知的障がい者や精神障がい者の雇用が進まなくても仕方がない

	全 体	そう 思う	う ど ち ら か と い え ば そ	う ど ち ら か と い え ば そ	そう 思 わ な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	31 3.6	157 18.0	316 36.3	355 40.8	12 1.4
女性	463 100.0	10 2.2	85 18.4	169 36.5	191 41.3	8 1.7
男性	387 100.0	20 5.2	66 17.1	138 35.7	159 41.1	4 1.0

『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合）は男性・女性ともに75.0%以上と高いが、1.0ポイントの差があるのみで、性別による差はみられなかった。

【年齢別】

① 補助犬を連れてくることを理由に、入店を断られることは問題である

	全 体	そう 思う	う ど ち ら か と い え ば そ	う ど ち ら か と い え ば そ	そう 思 わ ない	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	493 56.6	272 31.2	64 7.3	31 3.6	11 1.3
18～29歳	62 100.0	30 48.4	19 30.6	12 19.4	1 1.6	－
30～39歳	95 100.0	48 50.5	32 33.7	12 12.6	3 3.2	－
40～49歳	117 100.0	62 53.0	45 38.5	6 5.1	4 3.4	－
50～59歳	150 100.0	88 58.7	42 28.0	11 7.3	8 5.3	1 0.7
60～69歳	156 100.0	98 62.8	51 32.7	5 3.2	2 1.3	－
70～79歳	180 100.0	106 58.9	52 28.9	9 5.0	6 3.3	7 3.9
80歳以上	106 100.0	59 55.7	29 27.4	9 8.5	7 6.6	2 1.9

年齢別にみると、『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）はいずれの年齢層でもおよそ8割から9割を占めており、特に60～69歳は95.5%と、最も高くなっている。

② 精神に障がいのある人に対しては、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる

	全 体	そう 思う	う ど ち ら か と い え ば そ	う ど ち ら か と い え ば そ	そう 思 わ ない	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	871 100.0	141 16.2	433 49.7	177 20.3	107 12.3	13 1.5
18～29歳	62 100.0	11 17.7	25 40.3	13 21.0	13 21.0	－
30～39歳	95 100.0	29 30.5	42 44.2	16 16.8	8 8.4	－
40～49歳	117 100.0	24 20.5	58 49.6	24 20.5	11 9.4	－
50～59歳	150 100.0	22 14.7	71 47.3	30 20.0	25 16.7	2 1.3
60～69歳	156 100.0	25 16.0	84 53.8	28 17.9	19 12.2	－
70～79歳	180 100.0	17 9.4	100 55.6	40 22.2	16 8.9	7 3.9
80歳以上	106 100.0	12 11.3	51 48.1	26 24.5	14 13.2	3 2.8

『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は、18～29歳と80歳以上を除く年齢層ではおよそ6割を占めており、特に30～49歳、60～69歳は7割前後と高くなっている。

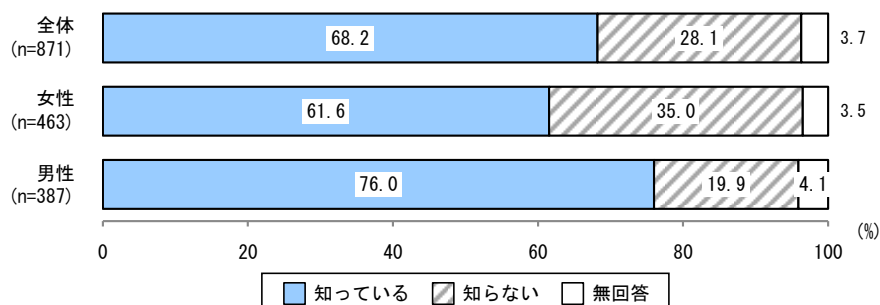
③ 企業は利潤が第一なのだから、知的障がい者や精神障がい者の雇用が進まなくても仕方がない

上段：実数 下段：%	全 体	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
全体	871 100.0	31 3.6	157 18.0	316 36.3	355 40.8	12 1.4
18～29歳	62 100.0	6 9.7	17 27.4	18 29.0	20 32.3	1 1.6
30～39歳	95 100.0	9 9.5	26 27.4	36 37.9	24 25.3	－
40～49歳	117 100.0	6 5.1	28 23.9	50 42.7	33 28.2	－
50～59歳	150 100.0	4 2.7	25 16.7	60 40.0	60 40.0	1 0.7
60～69歳	156 100.0	1 0.6	19 12.2	63 40.4	73 46.8	－
70～79歳	180 100.0	2 1.1	19 10.6	56 31.1	96 53.3	7 3.9
80歳以上	106 100.0	3 2.8	21 19.8	32 30.2	48 45.3	2 1.9

『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は、概ね年齢が上がるにつれて低くなる傾向があるが、80歳以上では70～79歳と比べて10.9ポイント高くなっている。

(3) ヘイトスピーチに対する認知度

問6 あなたは、デモ、集会、街宣活動等やインターネット上で行われている特定の民族や国籍の人々を排斥する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）の存在を知っていますか。（どちらかに○は1つ）



「知っている」が68.2%、「知らない」が28.1%となっている。

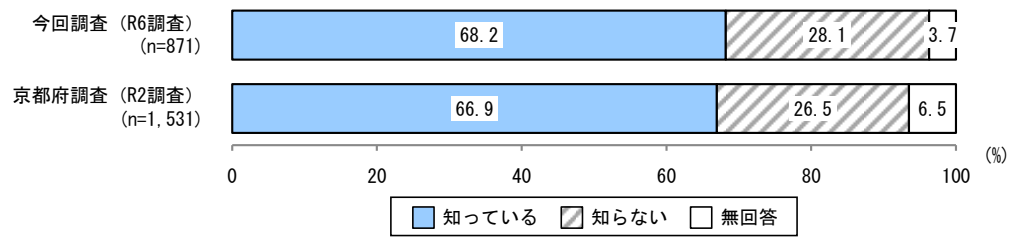
性別にみると、男性の方が女性より「知っている」の割合が14.4ポイント高くなっている。

【年齢別】

	全 体	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%				
全体	871 100.0	594 68.2	245 28.1	32 3.7
18～29歳	62 100.0	38 61.3	22 35.5	2 3.2
30～39歳	95 100.0	63 66.3	32 33.7	— —
40～49歳	117 100.0	83 70.9	32 27.4	2 1.7
50～59歳	150 100.0	118 78.7	29 19.3	3 2.0
60～69歳	156 100.0	107 68.6	43 27.6	6 3.8
70～79歳	180 100.0	121 67.2	50 27.8	9 5.0
80歳以上	106 100.0	62 58.5	35 33.0	9 8.5

年齢別にみると、いずれの年齢層においても「知っている」が過半数を占めており、50～59歳が78.7%で最も高く、次いで40～49歳が70.9%、60～69歳が68.6%となっている。

【京都府調査との比較】

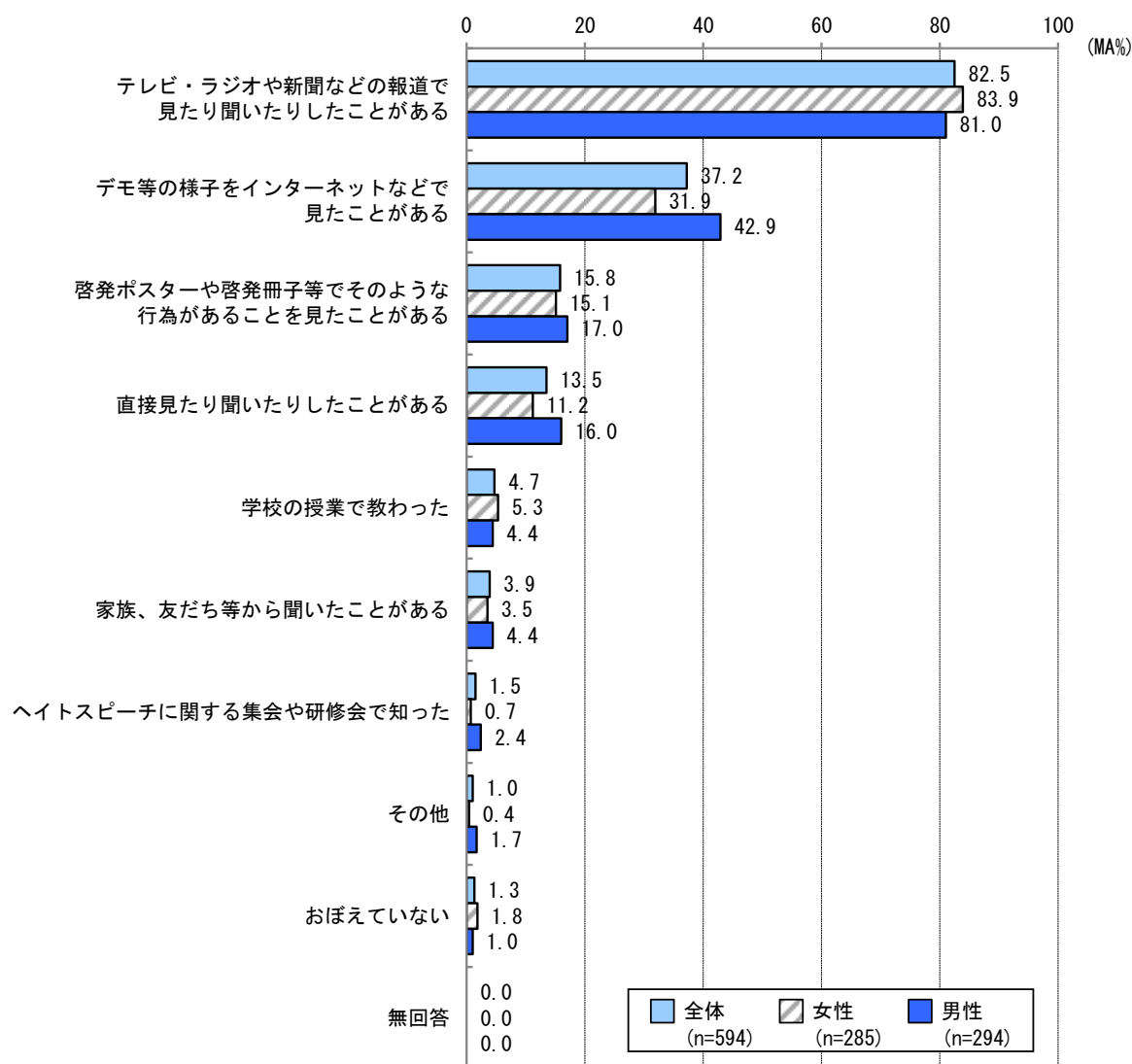


京都府調査と今回調査（向日市）を比べると、今回調査（向日市）の方が「知っている」の割合が1.3ポイント、「知らない」の割合が1.6ポイント高いのみで、大きな差が見られなかったことから、京都府全体と向日市における認知度には同様の傾向がみられた。

(4) ヘイトスピーチを見聞きした体験

＜問6で「知っている」を選んだ方にお聞きします。＞

問7 あなたは、ヘイトスピーチの存在をどこで見聞きしたことがありますか。
(〇はいくつでも)



「テレビ・ラジオや新聞などの報道で見たり聞いたりしたことがある」が82.5%と最も高く、次いで「デモ等の様子をインターネットなどで見たことがある」が37.2%、「啓発ポスターや啓発冊子等でそのような行為があることを見たことがある」が15.8%となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「デモ等の様子をインターネットなどで見たことがある」が11.0ポイント高くなっている。

【年齢別】

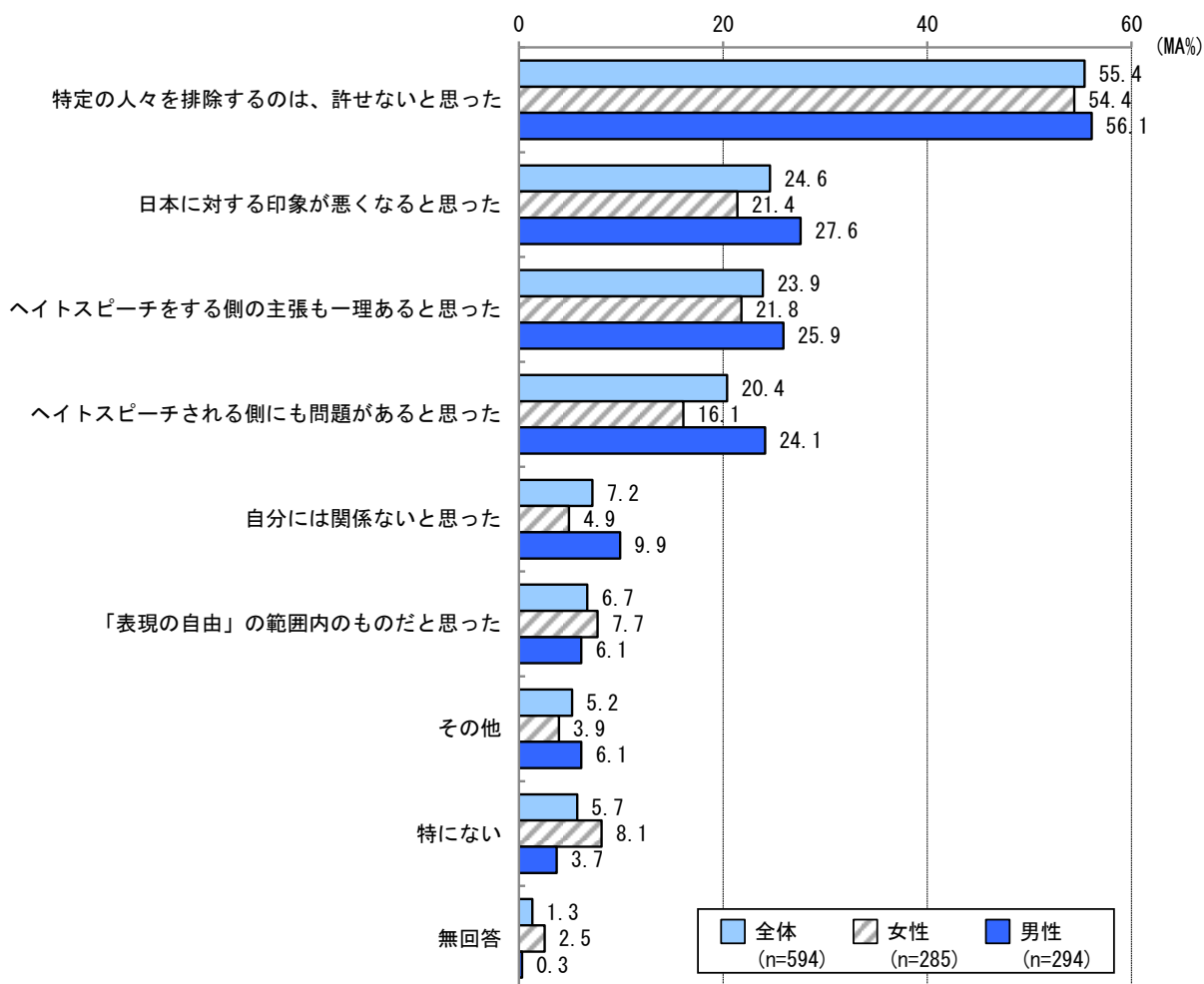
	全 体	こ と が あ る	見 た り 聞 い た り し た	新 聞 な ど の 報 道 で	テ レ ビ ・ ラ ジ オ や	で 見 た こ と が あ る	デ モ の 様 子 を	た こ と が あ る	行 為 が あ る こ と を 見	冊 子 等 の よ う な 啓 発	し た こ と が あ る 啓 発	直 接 見 た り 聞 い た り	学 校 の 授 業 で	家 族 、 友 だ ち 等 か ら	関 知 つ た 集 会 や 研 修 に 会	ヘ イ ト ス ピー チ に	そ の 他	お ぼ え て い ない	無 回 答
上段：実数 下段：%																			
全体	594 100.0	490 82.5	221 37.2	94 15.8	80 13.5	28 4.7	23 3.9	9 1.5	6 1.0	8 1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18～29歳	38 100.0	15 39.5	18 47.4	3 7.9	6 15.8	13 34.2	1 2.6	-	-	2 5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	63 100.0	43 68.3	39 61.9	9 14.3	10 15.9	4 6.3	2 3.2	1 1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40～49歳	83 100.0	60 72.3	40 48.2	10 12.0	12 14.5	2 2.4	-	1 1.2	3 3.6	1 1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50～59歳	118 100.0	99 83.9	51 43.2	11 9.3	12 10.2	3 2.5	6 5.1	-	1 0.8	1 0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60～69歳	107 100.0	100 93.5	32 29.9	21 19.6	12 11.2	1 0.9	5 4.7	2 1.9	2 1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70～79歳	121 100.0	114 94.2	28 23.1	23 19.0	13 10.7	3 2.5	3 2.5	2 1.7	2 1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
80歳以上	62 100.0	58 93.5	12 19.4	16 25.8	14 22.6	2 3.2	6 9.7	3 4.8	-	2 3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにつれ「テレビ・ラジオや新聞などの報道で見たり聞いたりしたことがある」の割合が高くなり、18～29歳では39.5%と30歳以上と比べておよそ30.0ポイント以上低くなっている。

（５）ヘイトスピーチに対する認識

＜問６で「知っている」を選んだ方にお聞きします。＞

問８ あなたは、ヘイトスピーチの存在を見聞きしてどのように思いましたか。
(〇はいくつでも)



「特定の個人を排除するのは、許せないと思った」が55.4%と最も高く、次いで「日本に対する印象が悪くなったと思った」が24.6%、「ヘイトスピーチをする側の主張も一理あると思った」が23.9%となっている。

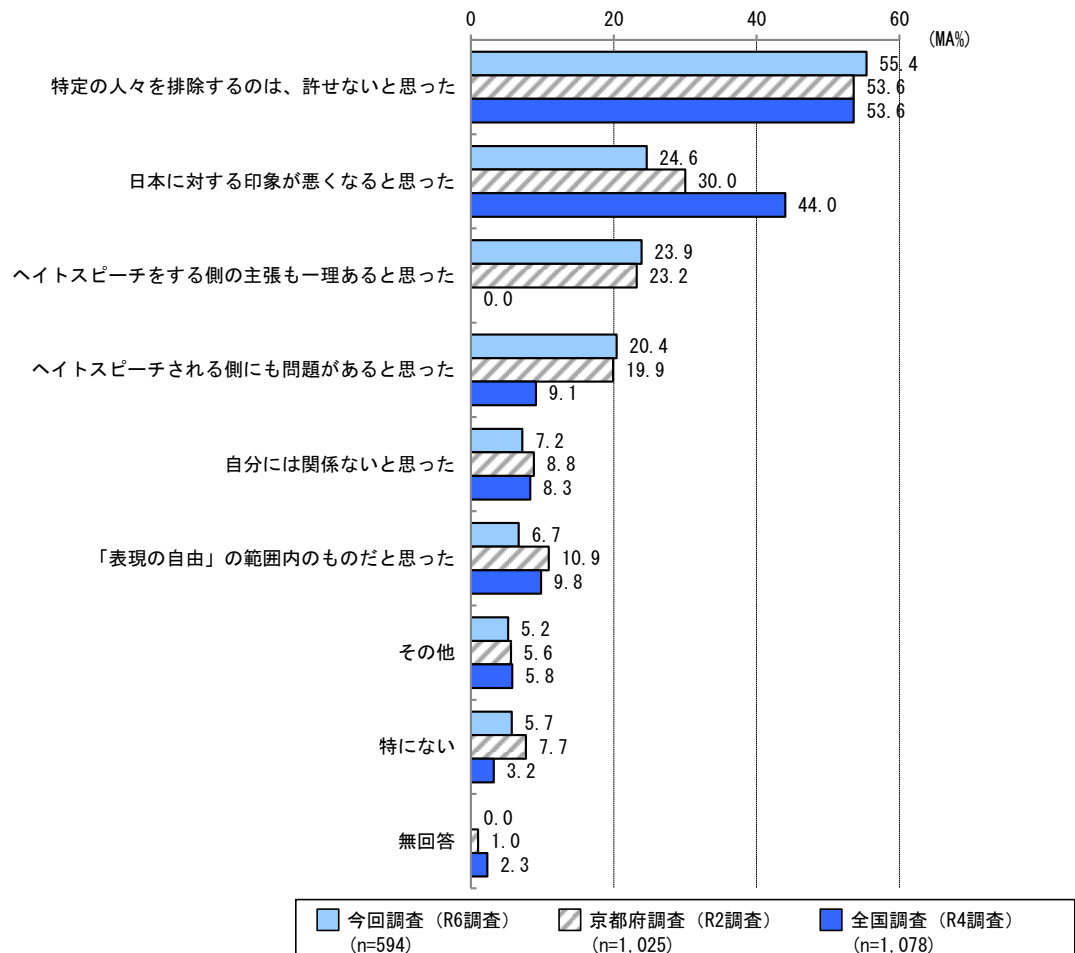
性別にみると、男性の方が女性よりも「ヘイトスピーチされる側にも問題があると思った」の割合が8.0ポイント高く、「日本に対する印象が悪くなったと思った」「自分には関係ないと思った」についても、男性が5.0ポイント以上高くなっている。

【年齢別】

	全 体	特定の 人々を 排除す ると思 った	日本に 対する 印象が 悪くな ると思 った	ヘイト スピー チをす る側の 主張も 一理あ ると思 った	ヘイト スピー チされ る側にも 問題が あるれ と思っ た	自分 には関 係ない と思っ た	「表現 の自由 」の範 囲内 の自由 だと思 った	その他	特 に な い	無 回 答
上段：実数 下段：%										
全体	594 100.0	329 55.4	146 24.6	142 23.9	121 20.4	43 7.2	40 6.7	31 5.2	34 5.7	8 1.3
18～29歳	38 100.0	16 42.1	7 18.4	13 34.2	9 23.7	2 5.3	5 13.2	3 7.9	2 5.3	- -
30～39歳	63 100.0	24 38.1	22 34.9	20 31.7	11 17.5	8 12.7	7 11.1	4 6.3	2 3.2	- -
40～49歳	83 100.0	35 42.2	30 36.1	28 33.7	18 21.7	7 8.4	5 6.0	8 9.6	4 4.8	- -
50～59歳	118 100.0	63 53.4	20 16.9	30 25.4	25 21.2	11 9.3	9 7.6	6 5.1	10 8.5	2 1.7
60～69歳	107 100.0	71 66.4	24 22.4	22 20.6	18 16.8	6 5.6	5 4.7	6 5.6	4 3.7	2 1.9
70～79歳	121 100.0	82 67.8	31 25.6	16 13.2	22 18.2	8 6.6	5 4.1	3 2.5	9 7.4	3 2.5
80歳以上	62 100.0	37 59.7	12 19.4	12 19.4	17 27.4	1 1.6	4 6.5	1 1.6	3 4.8	1 1.6

年齢別にみると、いずれの年齢層においても「特定の人々を排除するのは、許せないと思った」が最も高く、60歳以上になるとおよそ6割となっている。また、「ヘイトスピーチをする側の主張も一理あると思った」の割合は、50歳未満では3割と高い一方で、70歳以上では2割未満と低くなっている。

【京都府調査・全国調査との比較】

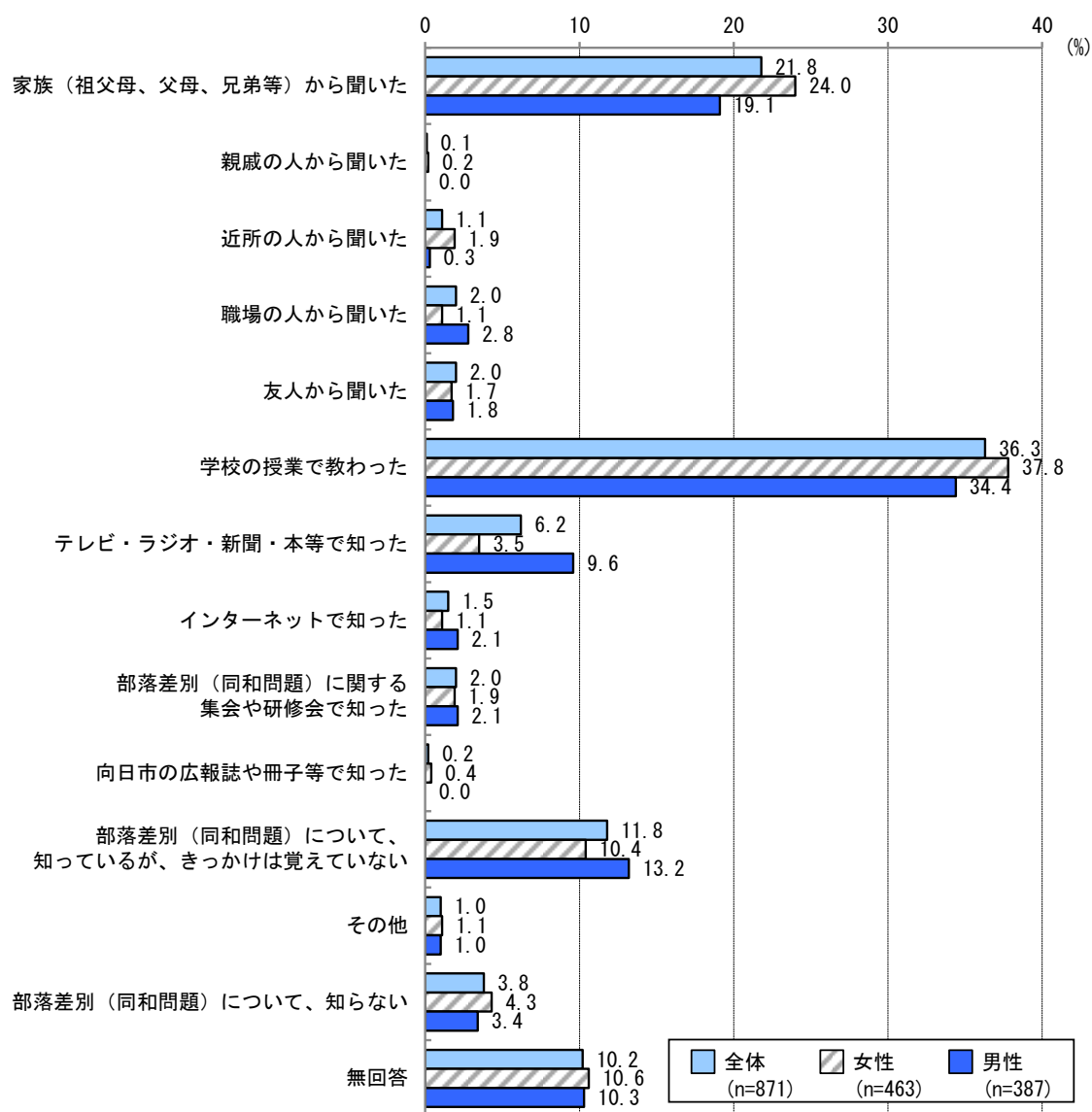


今回調査（向日市）の方が京都府調査よりも、「日本に対する印象が悪くなると思った」では5.4ポイント、「表現の自由」の範囲内のものだったと思った」では4.2ポイント低くなっている。全国調査では、今回調査（向日市）・京都府調査よりも「日本に対する印象が悪くなると思った」は14.0ポイント以上高く、「スピーチされる側にも問題があると思った」は10.8ポイント以上低くなっている。

注）全国調査では「不愉快で許せないと思った」「日本に対する印象が悪くなると思った」「ヘイトスピーチをされる側に問題があると思った」「自分には関係ないと思った」「表現の自由」の範囲内だったと思った」「その他」「何も思わなかった」

（６）部落差別（同和問題）を知ったきっかけ

問９ あなたが、部落差別（同和問題）について初めて知ったきっかけは、何からですか。（〇は１つ）



「学校の授業で教わった」が36.3%と最も高く、次いで「家族（祖父母・父母・兄弟等）から聞いた」が21.8%、「部落差別（同和問題）について、知っているが、きっかけは覚えていない」が11.8%となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」の割合が6.1ポイント高くなっている。

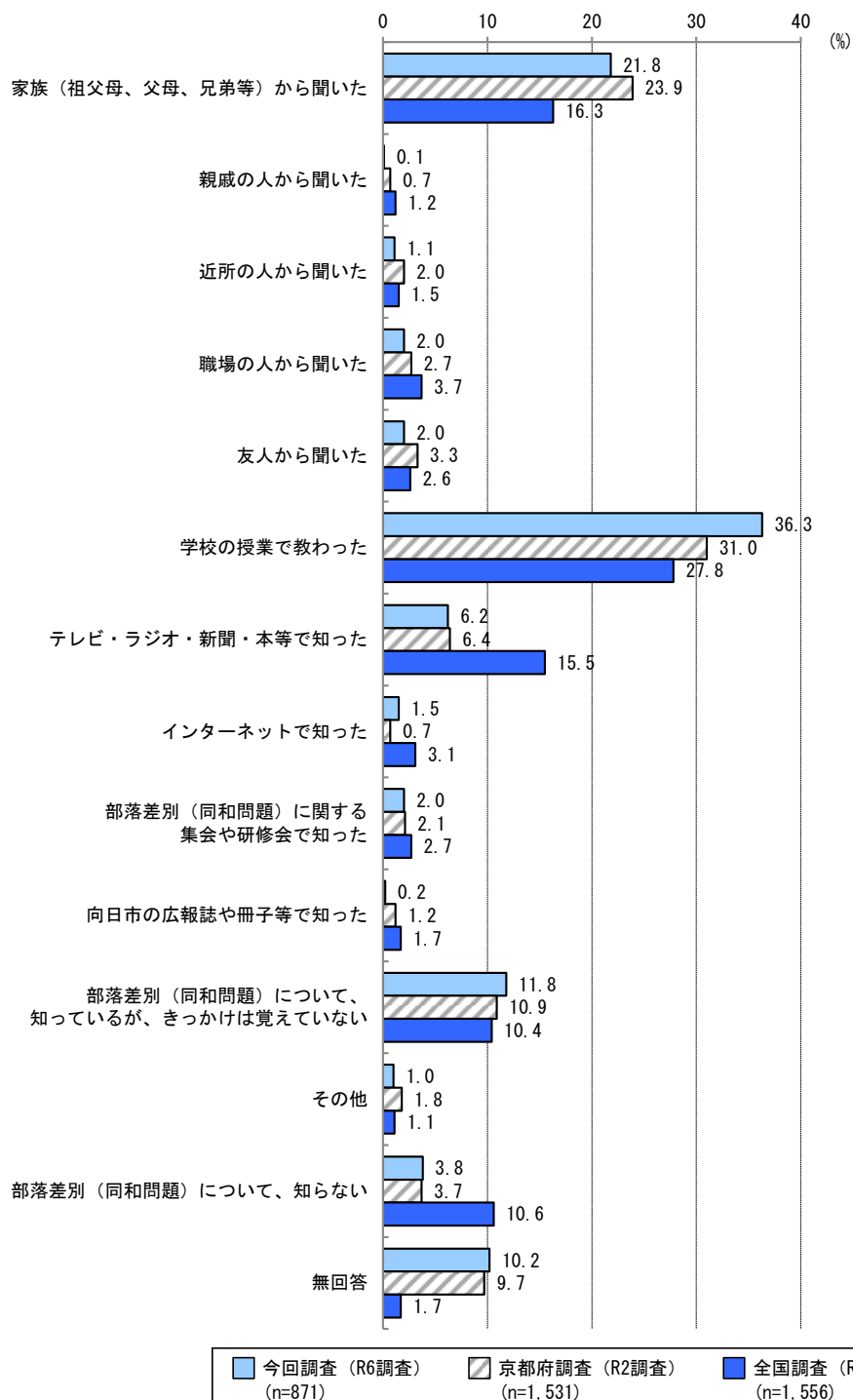
【年齢別】

上段：実数 下段：%	全 体	家族（祖 父母、父 母、兄弟 等）から 聞いた	親 戚の 人から 聞いた	近 所の人 から聞 いた	職 場の 人から 聞いた	友 人から 聞いた	学 校の授 業で教 わった	・テレ ビ・ラ ジオ・ 新聞 で知っ た
全体	871 100.0	190 21.8	1 0.1	10 1.1	17 2.0	17 2.0	316 36.3	54 6.2
18～29歳	62 100.0	7 11.3	－	－	1 1.6	1 1.6	31 50.0	4 6.5
30～39歳	95 100.0	18 18.9	－	－	2 2.1	1 1.1	50 52.6	4 4.2
40～49歳	117 100.0	18 15.4	－	1 0.9	3 2.6	3 2.6	55 47.0	8 6.8
50～59歳	150 100.0	29 19.3	－	－	1 0.7	1 0.7	85 56.7	5 3.3
60～69歳	156 100.0	40 25.6	－	1 0.6	1 0.6	1 0.6	65 41.7	5 3.2
70～79歳	180 100.0	50 27.8	－	5 2.8	6 3.3	6 3.3	19 10.6	20 11.1
80歳以上	106 100.0	27 25.5	1 0.9	3 2.8	2 1.9	3 2.8	11 10.4	7 6.6

上段：実数 下段：％	全 体	イン ター ネッ トで 知 つ た	部 落 差 別（同 和 問 題） に 関 する 集 会 や 研 修 会 で 知 つ た	向 日 市 の 広 報 誌 や 冊 子 等 で 知 つ た	が、 き つ か け は 覚 え て い な い	部 落 差 別（同 和 問 題） に つ い て、 知 っ て い る	そ の 他	部 落 差 別（同 和 問 題） に つ い て、 知 ら な い	無 回 答
全体	871 100.0	13 1.5	17 2.0	2 0.2	103 11.8	9 1.0	33 3.8	89 10.2	
18～29歳	62 100.0	5 8.1	1 1.6	－	3 4.8	－	5 8.1	4 6.5	
30～39歳	95 100.0	1 1.1	1 1.1	－	5 5.3	－	9 9.5	4 4.2	
40～49歳	117 100.0	5 4.3	－	－	9 7.7	－	7 6.0	8 6.8	
50～59歳	150 100.0	1 0.7	2 1.3	－	10 6.7	1 0.7	2 1.3	13 8.7	
60～69歳	156 100.0	1 0.6	2 1.3	1 0.6	15 9.6	3 1.9	3 1.9	18 11.5	
70～79歳	180 100.0	－	8 4.4	1 0.6	39 21.7	2 1.1	2 1.1	22 12.2	
80歳以上	106 100.0	－	3 2.8	－	22 20.8	3 2.8	5 4.7	19 17.9	

年齢別にみると、70歳未満では「学校の授業で教わった」が最も高く、いずれの年齢層も4～5割を占めている一方で70歳以上は1割と低く、「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」が最も高くなっている。また、「部落差別（同和問題）について、知っているが、きっかけは覚えていない」をみると、他の年齢層は1割未満であるのに対し、70歳以上では2割を占めている。

【京都府調査・全国調査との比較】

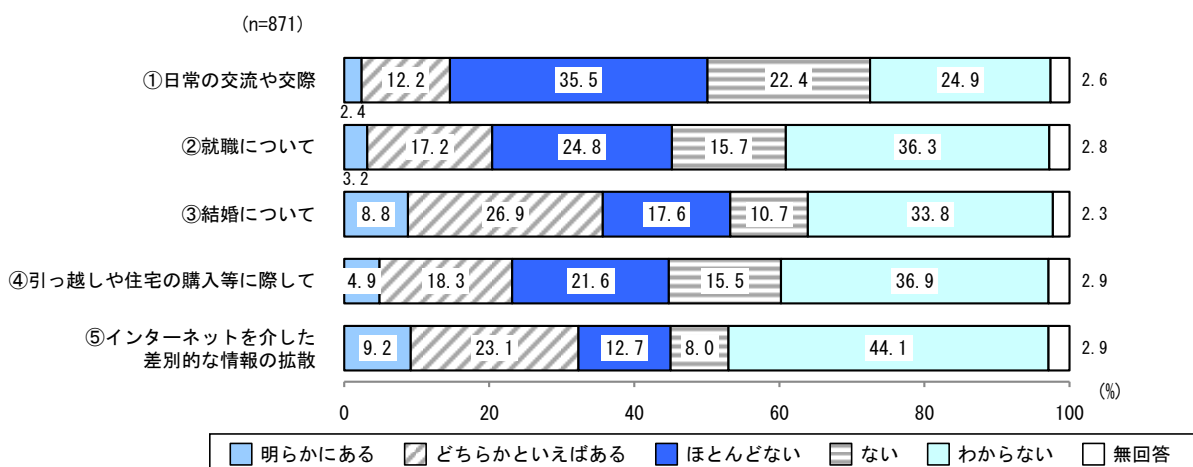


複数の項目で、各調査結果の割合に大きな差はみられないが、全国調査は京都府調査・今回調査（向日市）と比べて、「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」は5.5ポイント以上低く、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」は9.1ポイント、「部落差別（同和問題）について、知らない」は6.8ポイント高くなっている。

注）「向日市の広報誌や冊子等で知った」は、京都府調査では「京都府や市町村の広報紙で知った」、全国調査では「都道府県や市区町村の広報誌や冊子などで知った」

(7) 部落差別（同和問題）に対する認識

問10 あなたは、次のことについて、現在、部落差別（同和問題）があると思いますか。（①～⑤のそれぞれに○は1つずつ）



『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、「③結婚について」が35.7%と最も高く、次いで「⑤インターネットを介した差別的な情報の拡散」が32.3%となっている。『ない』（「ほとんどない」「ない」を合わせた割合）は「①日常の交流や交際」が57.9%と、最も高くなっている。

【性別】

① 日常の交流や交際

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ る	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	21 2.4	106 12.2	309 35.5	195 22.4	217 24.9	23 2.6
女性	463 100.0	4 0.9	50 10.8	167 36.1	103 22.2	128 27.6	11 2.4
男性	387 100.0	16 4.1	55 14.2	138 35.7	86 22.2	80 20.7	12 3.1

性別にみると、『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、男性・女性ともに1～2割と低いが、男性の方が女性よりも6.6ポイント高くなっている。

② 就職について

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	28 3.2	150 17.2	216 24.8	137 15.7	316 36.3	24 2.8
女性	463 100.0	9 1.9	81 17.5	109 23.5	65 14.0	188 40.6	11 2.4
男性	387 100.0	18 4.7	65 16.8	104 26.9	68 17.6	119 30.7	13 3.4

『ない』（「ない」「ほとんどない」を合わせた割合）は、男性・女性ともに3～4割となっており、男性の方が女性よりも7.0ポイント高くなっている。

③ 結婚について

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	77 8.8	234 26.9	153 17.6	93 10.7	294 33.8	20 2.3
女性	463 100.0	32 6.9	137 29.6	78 16.8	46 9.9	161 34.8	9 1.9
男性	387 100.0	44 11.4	90 23.3	75 19.4	43 11.1	124 32.0	11 2.8

『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、男性・女性ともに3割、『ない』（「ない」「どちらかといえはない」を合わせた割合）は2～3割と、いずれも5.0ポイント未満のわずかな差があるのみで、性別による差はみられなかった。

④ 引っ越しや住宅の購入等に際して

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	43 4.9	159 18.3	188 21.6	135 15.5	321 36.9	25 2.9
女性	463 100.0	19 4.1	89 19.2	95 20.5	69 14.9	179 38.7	12 2.6
男性	387 100.0	23 5.9	68 17.6	90 23.3	62 16.0	131 33.9	13 3.4

『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、男性・女性ともに2割で性別による差はみられなかった。『ない』（「ない」「ほとんどない」を合わせた割合）はおよそ3～4割と、いずれも5.0ポイント未満のわずかな差があるのみで、性別による差はみられなかった。

⑤ インターネットを介した差別的な情報の拡散

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	80 9.2	201 23.1	111 12.7	70 8.0	384 44.1	25 2.9
女性	463 100.0	35 7.6	101 21.8	58 12.5	33 7.1	225 48.6	11 2.4
男性	387 100.0	44 11.4	96 24.8	53 13.7	35 9.0	145 37.5	14 3.6

『ある』（「明らかにある」「どちらかといえあればある」を合わせた割合）は、男性が36.2%、女性が29.4%で、男性の方が女性よりも6.8ポイント高くなっている。

【年齢別】

① 日常の交流や交際

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	21 2.4	106 12.2	309 35.5	195 22.4	217 24.9	23 2.6
18～29歳	62 100.0	－	4 6.5	22 35.5	19 30.6	16 25.8	1 1.6
30～39歳	95 100.0	5 5.3	11 11.6	27 28.4	22 23.2	30 31.6	－
40～49歳	117 100.0	2 1.7	10 8.5	43 36.8	31 26.5	29 24.8	2 1.7
50～59歳	150 100.0	4 2.7	27 18.0	50 33.3	30 20.0	37 24.7	2 1.3
60～69歳	156 100.0	5 3.2	20 12.8	59 37.8	27 17.3	40 25.6	5 3.2
70～79歳	180 100.0	5 2.8	19 10.6	78 43.3	31 17.2	42 23.3	5 2.8
80歳以上	106 100.0	－	14 13.2	30 28.3	33 31.1	22 20.8	7 6.6

年齢別にみると、『ある』（「明らかにある」「どちらかといえあればある」を合わせた割合）は、多くの年齢層においておよそ1～2割となっているが、18～29歳は6.5%と特に低くなっている。『ない』（「ほとんどない」「ない」を合わせた割合）は、いずれの年齢層でも半数以上を占めている。

② 就職について

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	28 3.2	150 17.2	216 24.8	137 15.7	316 36.3	24 2.8
18～29歳	62 100.0	1 1.6	11 17.7	10 16.1	15 24.2	24 38.7	1 1.6
30～39歳	95 100.0	4 4.2	15 15.8	23 24.2	20 21.1	33 34.7	－ －
40～49歳	117 100.0	3 2.6	15 12.8	30 25.6	22 18.8	45 38.5	2 1.7
50～59歳	150 100.0	7 4.7	28 18.7	39 26.0	17 11.3	57 38.0	2 1.3
60～69歳	156 100.0	6 3.8	29 18.6	42 26.9	23 14.7	51 32.7	5 3.2
70～79歳	180 100.0	7 3.9	35 19.4	47 26.1	19 10.6	66 36.7	6 3.3
80歳以上	106 100.0	－ －	16 15.1	24 22.6	20 18.9	39 36.8	7 6.6

『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、80歳以上は15.1%、40～49歳が15.4%と低い、その他の年齢層ではおよそ2割となっている。いずれの年齢層においても『ない』（「ほとんどない」「ない」を合わせた割合）が3～4割で最も高く、「わからない」の割合は3割となっている。

③ 結婚について

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	77 8.8	234 26.9	153 17.6	93 10.7	294 33.8	20 2.3
18～29歳	62 100.0	4 6.5	10 16.1	11 17.7	12 19.4	24 38.7	1 1.6
30～39歳	95 100.0	8 8.4	26 27.4	20 21.1	14 14.7	27 28.4	－ －
40～49歳	117 100.0	9 7.7	25 21.4	28 23.9	13 11.1	40 34.2	2 1.7
50～59歳	150 100.0	13 8.7	51 34.0	19 12.7	14 9.3	51 34.0	2 1.3
60～69歳	156 100.0	16 10.3	51 32.7	23 14.7	10 6.4	51 32.7	5 3.2
70～79歳	180 100.0	20 11.1	42 23.3	34 18.9	11 6.1	68 37.8	5 2.8
80歳以上	106 100.0	7 6.6	26 24.5	18 17.0	18 17.0	33 31.1	4 3.8

『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、30歳以上ではおよそ3～4割を占めているが、18～29歳では22.6%と他の年齢層と比べて低くなっている。

④ 引っ越しや住宅の購入等に際して

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	43 4.9	159 18.3	188 21.6	135 15.5	321 36.9	25 2.9
18～29歳	62 100.0	－ －	10 16.1	11 17.7	12 19.4	28 45.2	1 1.6
30～39歳	95 100.0	8 8.4	21 22.1	12 12.6	20 21.1	34 35.8	－ －
40～49歳	117 100.0	5 4.3	20 17.1	27 23.1	20 17.1	43 36.8	2 1.7
50～59歳	150 100.0	8 5.3	27 18.0	30 20.0	22 14.7	61 40.7	2 1.3
60～69歳	156 100.0	7 4.5	37 23.7	32 20.5	16 10.3	58 37.2	6 3.8
70～79歳	180 100.0	15 8.3	27 15.0	56 31.1	17 9.4	60 33.3	5 2.8
80歳以上	106 100.0	－ －	16 15.1	20 18.9	26 24.5	36 34.0	8 7.5

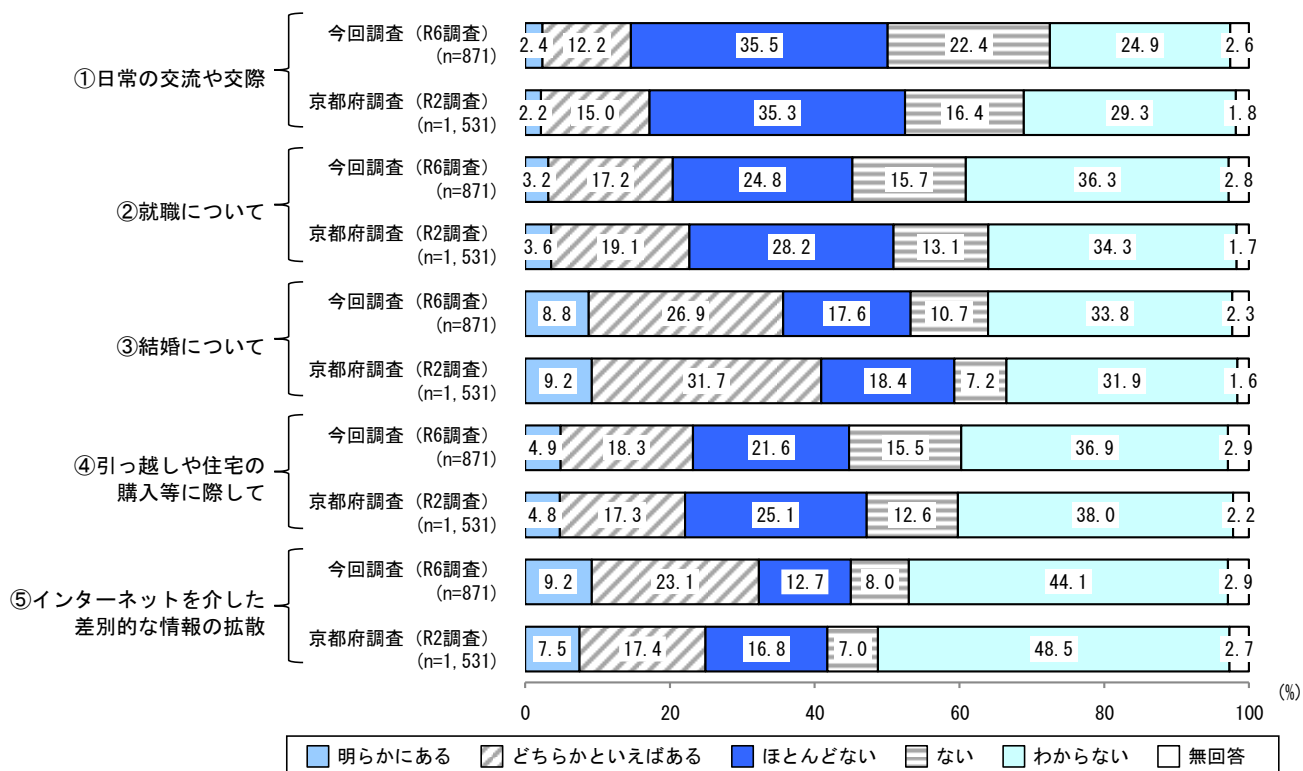
『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、30～39歳は30.5%を占めているが、その他の年齢層では1～2割と低くなっている。

⑤ インターネットを介した差別的な情報の拡散

	全 体	明 ら か に あ る	ど ち ら か と い え ば あ	ほ と ん ど な い	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%							
全体	871 100.0	80 9.2	201 23.1	111 12.7	70 8.0	384 44.1	25 2.9
18～29歳	62 100.0	9 14.5	13 21.0	12 19.4	10 16.1	17 27.4	1 1.6
30～39歳	95 100.0	10 10.5	36 37.9	12 12.6	9 9.5	28 29.5	－ －
40～49歳	117 100.0	15 12.8	36 30.8	16 13.7	8 6.8	40 34.2	2 1.7
50～59歳	150 100.0	17 11.3	37 24.7	22 14.7	12 8.0	59 39.3	3 2.0
60～69歳	156 100.0	15 9.6	37 23.7	19 12.2	7 4.5	73 46.8	5 3.2
70～79歳	180 100.0	11 6.1	30 16.7	19 10.6	10 5.6	105 58.3	5 2.8
80歳以上	106 100.0	3 2.8	11 10.4	11 10.4	13 12.3	60 56.6	8 7.5

『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、年齢が低いほど高い傾向がみられ、18～69歳は3割以上を占めている。特に30～39歳はおよそ5割と高いが、80歳以上では1割と他の年齢層と比べて低くなっている。

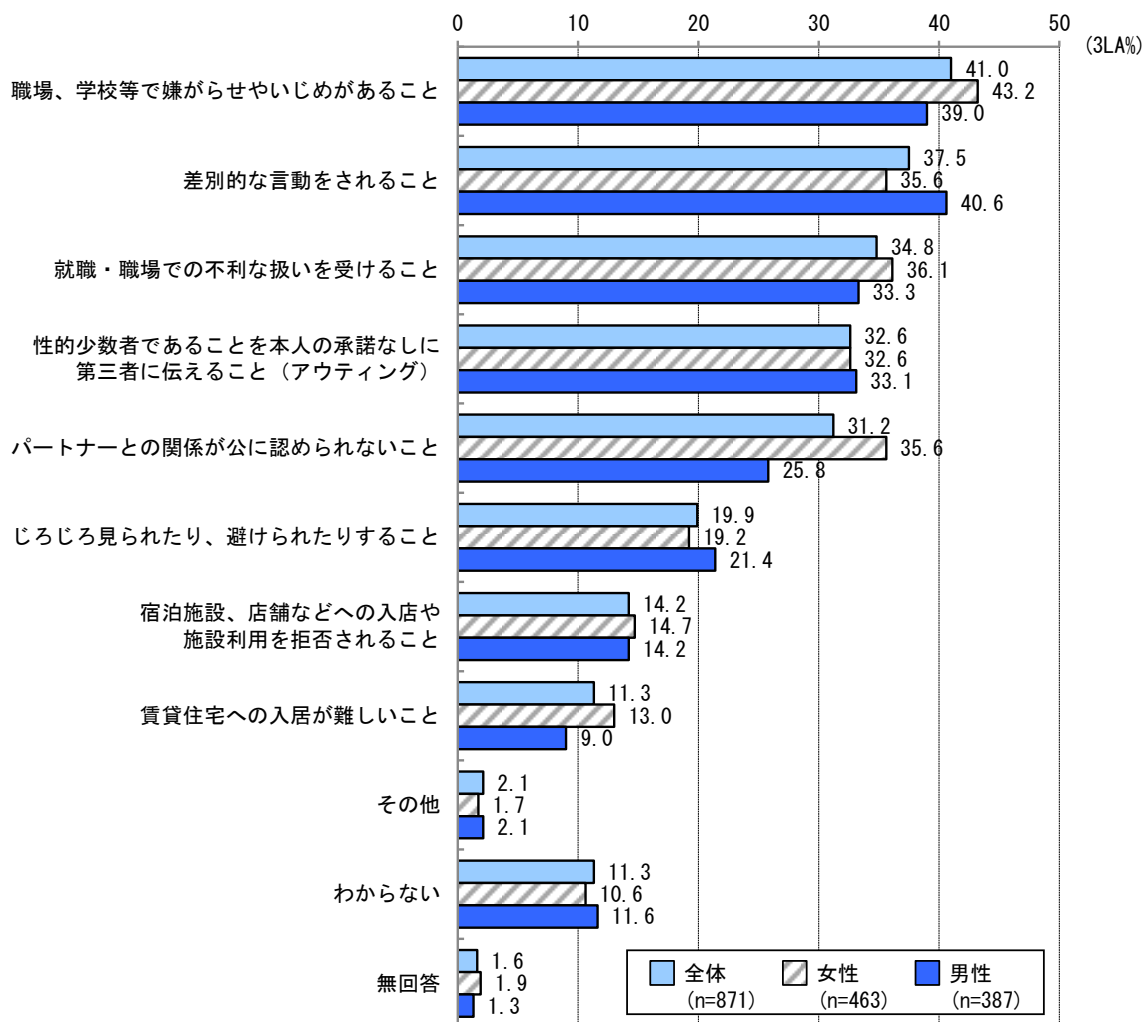
【京都府調査との比較】



京都府調査と比べると、『ある』（「明らかにある」「どちらかといえばある」を合わせた割合）は、今回調査（向日市）の方が京都府調査よりも「⑥インターネットを介した差別的な情報の拡散」が7.4ポイント高く、「③結婚について」は5.2ポイント低くなっている。『ない』（「ほとんどない」「ない」を合わせた割合）は、今回調査（向日市）の方が京都府調査よりも「①日常の交流や交際」が6.2ポイント高くなっている。

(8) L G B T等、性的少数者の人権

問11 あなたは、L G B T等の人権について、どのようなことが問題だと思いますか。
(○は特に問題と思われる番号を3つ以内)



「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」が41.0%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」が37.5%、「就職・職場での不利な扱いを受けること」が34.8%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「パートナーとの関係が公に認められないこと」の割合が9.8ポイント高く、一方で「差別的な言動をされること」の割合は男性の方が女性よりも5.0ポイント高くなっている。

【年齢】

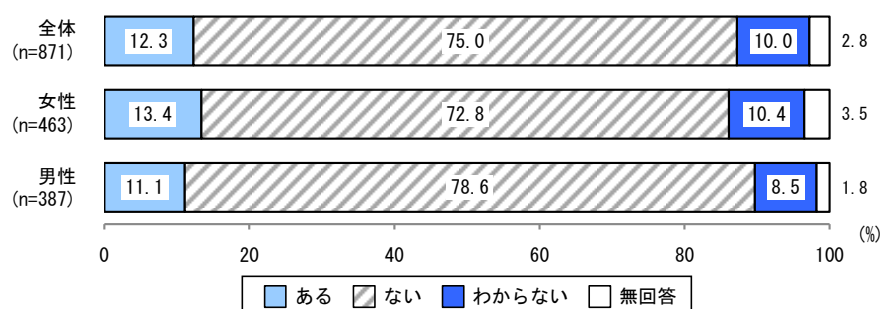
		全 体	職場、学校等で嫌が せやいじめがあること	差 別 的 な 言 動 を さ れ る こ と	就 職 ・ 職 場 で の 不 利 な 扱 い を 受 け る こ と	性的少数者であること を本人の承諾なしに第 三者に伝えること （アウティング）	公に認められないこと	パートナーとの関係が	避けられたりすること	じろじろ見られたり、 避けられたりすること	拒否されること	宿泊施設、店舗などへ の入店や施設利用を の拒否されること	賃貸住宅への入居が 難しいこと	その他	わからない	無回答
上段：実数 下段：%																
全体	871 100.0	357 41.0	327 37.5	303 34.8	284 32.6	272 31.2	173 19.9	124 14.2	98 11.3	18 2.1	98 11.3	14 1.6				
18～29歳	62 100.0	23 37.1	29 46.8	14 22.6	19 30.6	17 27.4	18 29.0	9 14.5	9 14.5	1 1.6	3 4.8	1 1.6				
30～39歳	95 100.0	52 54.7	39 41.1	36 37.9	37 38.9	37 38.9	15 15.8	10 10.5	6 6.3	2 2.1	5 5.3	-				
40～49歳	117 100.0	59 50.4	50 42.7	37 31.6	45 38.5	37 31.6	22 18.8	16 13.7	12 10.3	2 1.7	9 7.7	-				
50～59歳	150 100.0	69 46.0	55 36.7	64 42.7	50 33.3	44 29.3	27 18.0	22 14.7	15 10.0	3 2.0	11 7.3	2 1.3				
60～69歳	156 100.0	72 46.2	59 37.8	55 35.3	57 36.5	56 35.9	33 21.2	21 13.5	20 12.8	5 3.2	19 12.2	-				
70～79歳	180 100.0	59 32.8	60 33.3	64 35.6	49 27.2	57 31.7	38 21.1	28 15.6	21 11.7	2 1.1	23 12.8	5 2.8				
80歳以上	106 100.0	22 20.8	33 31.1	33 31.1	27 25.5	23 21.7	20 18.9	18 17.0	14 13.2	2 1.9	26 24.5	6 5.7				

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにつれて「差別的な言動をされること」の割合が低くなっている。「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」をみると、30～69歳ではいずれの年齢層でもおよそ5割を占めている一方、80歳以上では20.8%と低くなっている。

4 差別や人権侵害などに関する考え方について

(1) 人権侵害された経験の有無

問12 あなたは、過去5年間に自分の人権を侵害されたと感じたことがありますか。
(○は1つ)



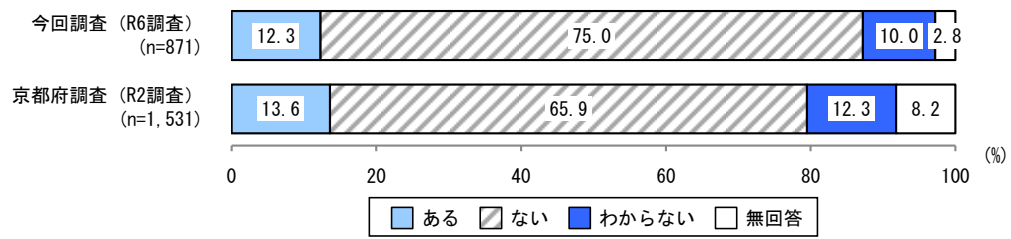
「ある」が12.3%、「ない」が75.0%となっている。
性別にみても、男性・女性ともに同様の傾向がみられた。

【年齢別】

	全 体	あ る	な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%					
全体	871 100.0	107 12.3	653 75.0	87 10.0	24 2.8
18～29歳	62 100.0	4 6.5	50 80.6	7 11.3	1 1.6
30～39歳	95 100.0	19 20.0	64 67.4	12 12.6	— —
40～49歳	117 100.0	18 15.4	81 69.2	17 14.5	1 0.9
50～59歳	150 100.0	22 14.7	110 73.3	16 10.7	2 1.3
60～69歳	156 100.0	27 17.3	115 73.7	11 7.1	3 1.9
70～79歳	180 100.0	9 5.0	152 84.4	11 6.1	8 4.4
80歳以上	106 100.0	7 6.6	78 73.6	12 11.3	9 8.5

年齢別にみると、30～69歳では「ある」の割合が他の年齢層よりも高く、特に30～39歳では20.0%と最も高くなっている。

【京都府調査との比較】

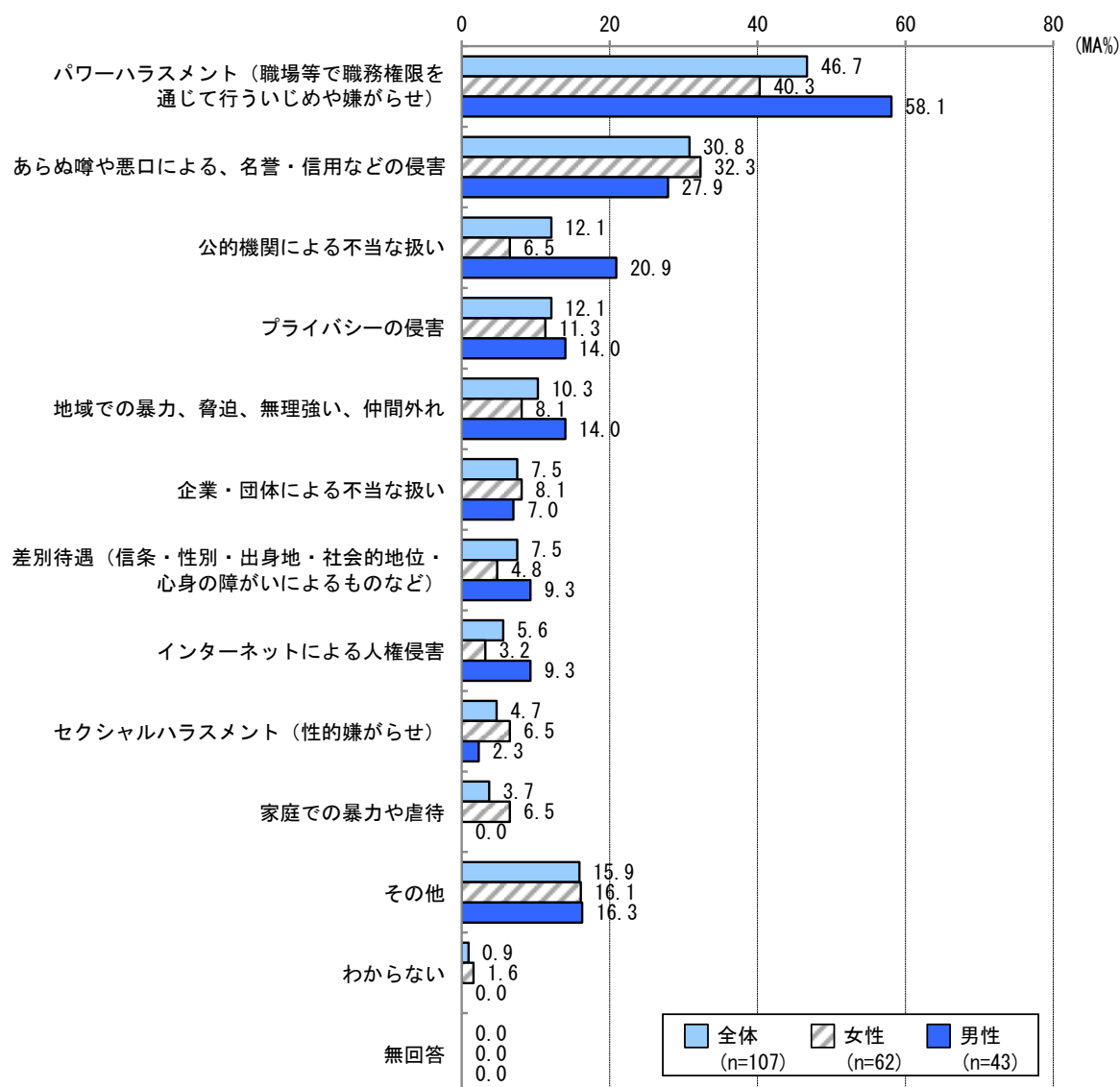


京都府調査と比べると、「ない」の割合が、今回調査（向日市）の方が京都府調査よりも9.1ポイント高くなっている。

（２）人権侵害された経験の内容

＜問12で「ある」を選んだ方にお聞きします。＞

問13 それは、どのような人権侵害でしたか。（〇はいくつでも）



「パワーハラスメント（職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ）」が46.7%と最も高く、次いで「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が30.8%となっている。

性別にみると、複数の項目で男性の方が女性よりも割合が高く、特に「パワーハラスメント（職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ）」は17.8ポイント、「公的機関による不当な扱い」は14.4ポイントの大きな差がみられた。

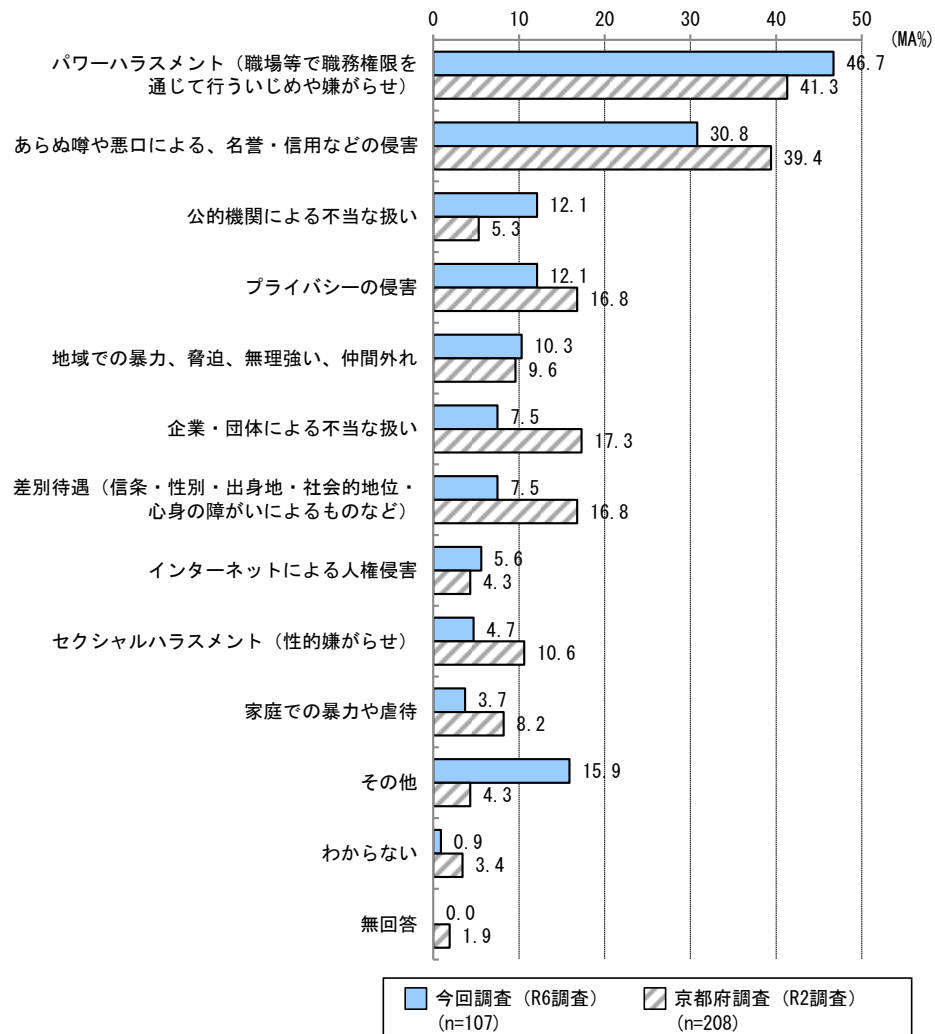
【年齢別】

上段：実数 下段：%	全 体	パワ ーハ ラス メン ト （職 場等 で職 務権 限を 通じ て行 うい じめ や嫌 がら せ）	あ ら ぬ 噂 や 悪口 によ る、 名 誉・ 信用 など の 侵 害	公 的 機 関 に よ る 不 当 な 扱 い	ブ ラ イ バ シ ー の 侵 害	地 域 で の 暴 力、 脅 迫、 無 理 強 い、 仲 間 外 れ	企 業・ 団 体 に よ る 不 当 な 扱 い	性 別・ 出 身 地・ 社 会 的 地 位・ 心 身 の 障 が い に よ る も の な ど	差 別 待 遇 （信 条・ 性 別・ 出 身 地・ 社 会 的
全体	107 100.0	50 46.7	33 30.8	13 12.1	13 12.1	11 10.3	8 7.5		8 7.5
18～29歳	4 100.0	2 50.0	3 75.0	－ －	2 50.0	1 25.0	1 25.0	－ －	－ －
30～39歳	19 100.0	8 42.1	7 36.8	1 5.3	2 10.5	2 10.5	－ －		4 21.1
40～49歳	18 100.0	9 50.0	5 27.8	2 11.1	3 16.7	3 16.7	－ －	－ －	－ －
50～59歳	22 100.0	15 68.2	3 13.6	－ －	1 4.5	1 4.5	3 13.6		2 9.1
60～69歳	27 100.0	10 37.0	8 29.6	5 18.5	3 11.1	2 7.4	3 11.1		1 3.7
70～79歳	9 100.0	4 44.4	5 55.6	2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1	－ －	－ －
80歳以上	7 100.0	2 28.6	2 28.6	3 42.9	1 14.3	1 14.3	－ －		1 14.3

上段：実数 下段：%	全 体	よ る イン ター ネ ット に 対 し て の 侵 害	セ ク シ ヤ ル ハ ラス （ 性 的 的 嫌 が ら せ）	家 庭 で の 暴 力 や 虐 待	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	107 100.0	6 5.6	5 4.7	4 3.7	17 15.9	1 0.9	— —
18～29歳	4 100.0	2 50.0	1 25.0	— —	— —	— —	— —
30～39歳	19 100.0	2 10.5	2 10.5	— —	3 15.8	— —	— —
40～49歳	18 100.0	1 5.6	1 5.6	— —	4 22.2	— —	— —
50～59歳	22 100.0	— —	1 4.5	1 4.5	3 13.6	— —	— —
60～69歳	27 100.0	1 3.7	— —	1 3.7	4 14.8	— —	— —
70～79歳	9 100.0	— —	— —	2 22.2	2 22.2	— —	— —
80歳以上	7 100.0	— —	— —	— —	— —	1 14.3	— —

年齢別にみると、18～29歳では「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が75.0%と最も高く、30～69歳は「パワーハラスメント（職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ）」が最も高くなっている。

【京都府調査との比較】

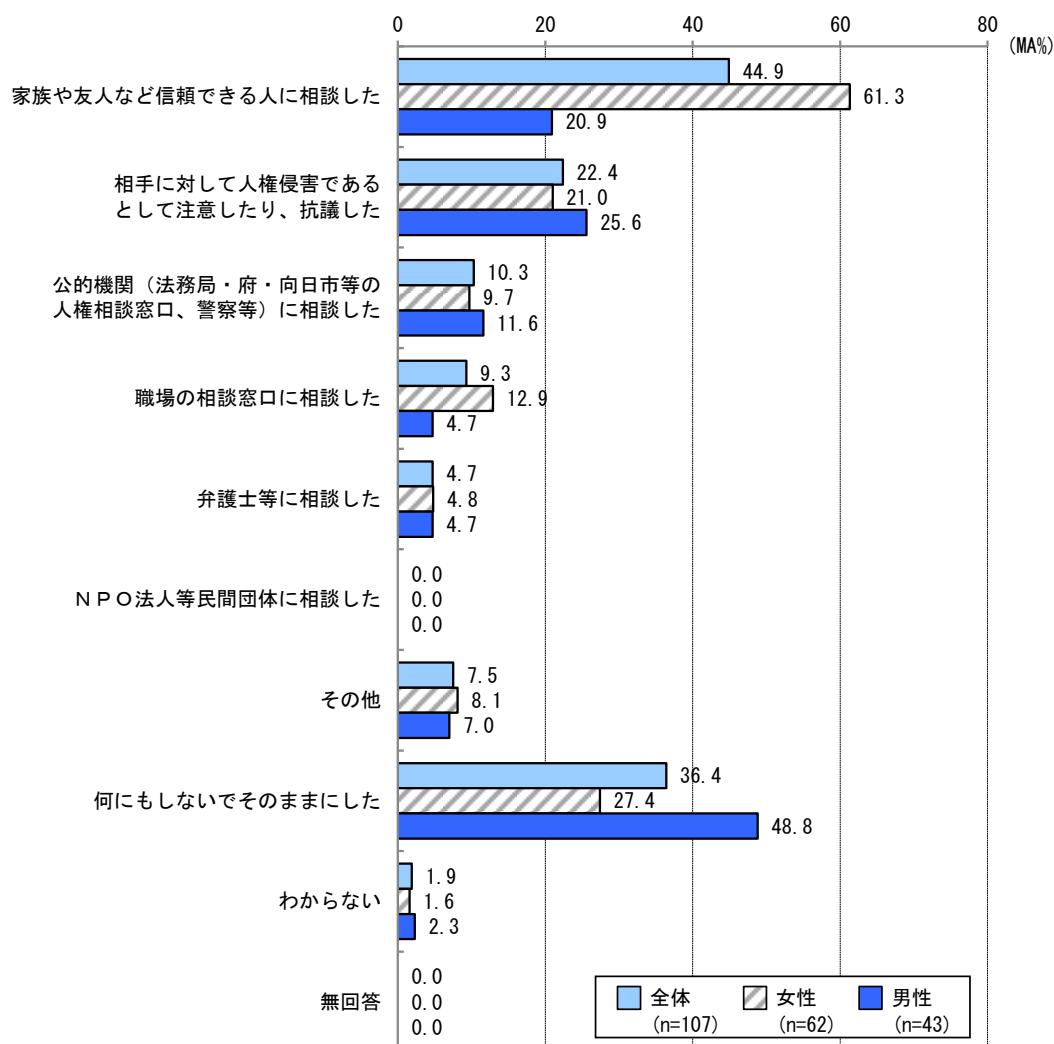


京都府調査と比べると、複数の項目で5.0ポイント以上の差がみられ、特に「企業・団体による不当な扱い」は9.8ポイント、「差別待遇（信条・性別・出身地・社会的地位・心身の障がいによるものなど）」は、9.3ポイント、「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」は8.6ポイント、今回調査（向日市）の方が京都府調査よりも低くなっている。

(3) 人権侵害への対応

<問12で「ある」を選んだ方にお聞きします。>

問14 人権侵害を受けたと感じた際、あなたはどのように対応されましたか。
(〇はいくつでも)



人権侵害を受けたと感じた際に、何らかの対応をした場合の対応内容（「何もしないでそのままにした」を除いた結果）について、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が44.9%と最も高く、次いで「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」が22.4%、「公的機関（法務局・府・向日市等の人権相談窓口、警察等）に相談した」が10.3%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が40.4ポイント高く、一方で、「何もしないでそのままにした」の割合は男性の方が女性よりも21.4ポイント高くなっている。

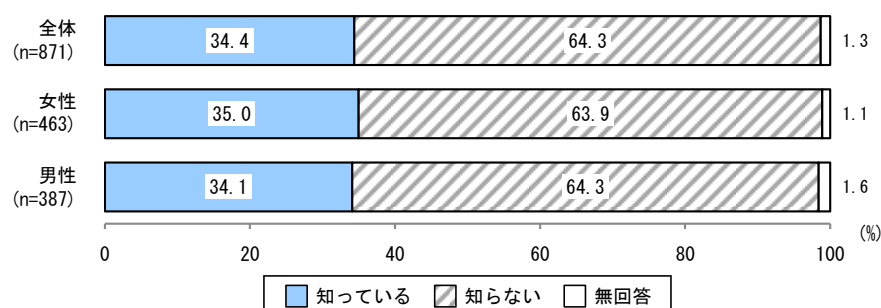
【年齢別】

	全 体	抗 議 し た	相 手 に 対 し て 人 権 侵 害 で あ る と し て 注 意 し た り、	家 族 や 友 人 な ど 信 頼 で き る 人 に 相 談 し た	公 的 機 関 （ 法 務 局 ・ 府 ・ 市 ・ 区 ・ 警 察 等 ） に 相 談	公 的 機 関 （ 法 務 局 ・ 府 ・ 市 ・ 区 ・ 警 察 等 ） に 相 談	N P O 法 人 等 民 間 団 体 に 相 談 し た	職 場 の 相 談 窓 口 に 相 談 し た	弁 護 士 等 に 相 談 し た	そ の 他	何 に も し な い で そ の ま ま に し た	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%													
全体	107 100.0	24 22.4	48 44.9	11 10.3	- -	10 9.3	5 4.7	8 7.5	39 36.4	2 1.9	- -	- -	- -
18～29歳	4 100.0	3 75.0	- -	2 50.0	- -	1 25.0	- -	- -	1 25.0	- -	- -	- -	- -
30～39歳	19 100.0	5 26.3	14 73.7	1 5.3	- -	2 10.5	- -	- -	4 21.1	- -	- -	- -	- -
40～49歳	18 100.0	5 27.8	10 55.6	- -	- -	2 11.1	1 5.6	2 11.1	4 22.2	1 5.6	- -	- -	- -
50～59歳	22 100.0	3 13.6	7 31.8	1 4.5	- -	1 4.5	- -	2 9.1	14 63.6	- -	- -	- -	- -
60～69歳	27 100.0	6 22.2	11 40.7	2 7.4	- -	4 14.8	1 3.7	3 11.1	11 40.7	- -	- -	- -	- -
70～79歳	9 100.0	2 22.2	4 44.4	4 44.4	- -	- -	2 22.2	- -	3 33.3	- -	- -	- -	- -
80歳以上	7 100.0	- -	2 28.6	1 14.3	- -	- -	1 14.3	- -	2 28.6	1 14.3	- -	- -	- -

年齢別にみると、18～39歳は「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が7割と高い一方で、50～59歳は「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」が約1割、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が約3割と他の年齢層と比べて低く、「何もしないでそのままにした」の割合が他の年齢層と比べて特に高くなっている。

(4) 人権相談窓口の認知度

問15 あなたは、人権に関する事柄で悩んだときなどの対応のため、国（法務局や人権擁護委員）をはじめ地方自治体（京都府や向日市）やNPO法人等の民間団体において人権相談の窓口が開かれているのをご存じですか。（どちらかに○は1つ）



「知っている」が34.4%、「知らない」が64.3%となっている。
性別にみても、男性・女性ともに同様の傾向がみられた。

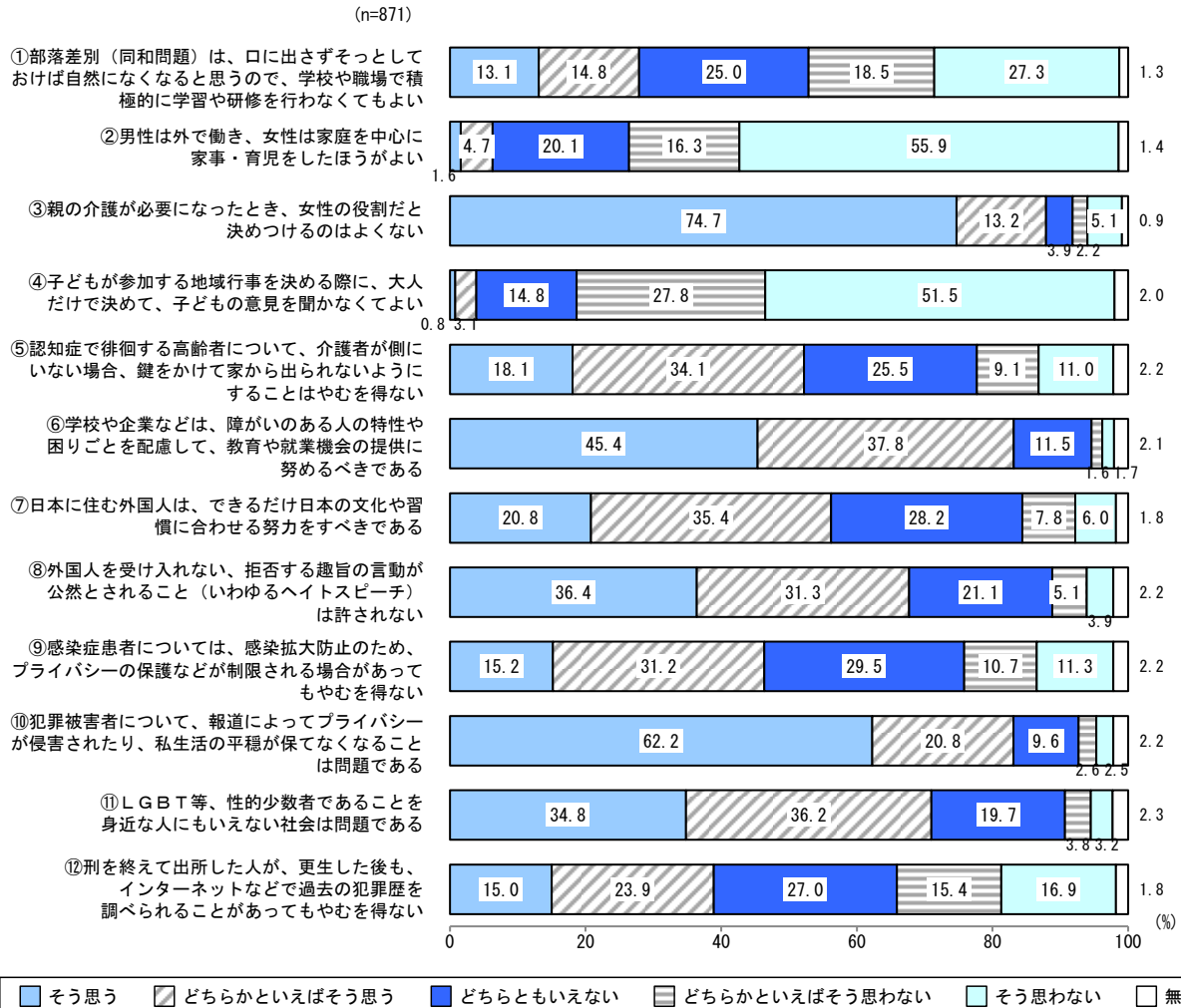
【年齢別】

	全 体	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%				
全体	871 100.0	300 34.4	560 64.3	11 1.3
18～29歳	62 100.0	20 32.3	42 67.7	－
30～39歳	95 100.0	33 34.7	62 65.3	－
40～49歳	117 100.0	30 25.6	86 73.5	1 0.9
50～59歳	150 100.0	48 32.0	101 67.3	1 0.7
60～69歳	156 100.0	66 42.3	89 57.1	1 0.6
70～79歳	180 100.0	63 35.0	114 63.3	3 1.7
80歳以上	106 100.0	39 36.8	63 59.4	4 3.8

年齢別にみると、「知っている」の割合はいずれの年齢層でも概ね3割となっているが、60～69歳では42.3%と高く、40～49歳では25.6%で低くなっている。

(5) 身近な人権問題に関する考え方

問16 人権の尊重や侵害については、人によっていろいろと考え方の違いがあります。
あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。
(①～⑫のそれぞれに○は1つ)



『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は、③親の介護が必要になったとき、女性の役割だと決めつけるのはよくないが87.9%と最も高く、次いで⑥学校や企業などは、障がいのある人の特性や困りごとを配慮して、教育や就業機会の提供に努めるべきであるが83.2%、⑩犯罪被害者について、報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなることは問題であるが83.0%となっている。

【性別】

		無回答												
		① 部落差別（同和問題）は、口に出さず そつとしておけば自然になくなると 思うので、学校や職場で積極的に 学習や研修を行わなくてもよい	② 男性は外で働き、女性は家庭を中心 に家事・育児をしたほうがよい	③ 親の介護が必要になったとき、女性 の役割だと決めつけるのはよくない	④ 子どもが参加する地域行事を決める 際に、大人だけで決めて、子どもの意 見を聞かなくてよい	⑤ 認知症で徘徊する高齢者について、 介護者が側にいない場合、鍵をかけて 家から出られないようにすることは やむを得ない	⑥ 学校や企業などは、障がいのある人 の特性や困りごとを配慮して、教育や 就業機会の提供に努めるべきである	⑦ 日本に住む外国人は、できるだけ日本 の文化や習慣に合わせる努力をすべき である	⑧ 外国人を受け入れられない、拒否する趣 旨の言動が公然とされること（いわゆる ヘイトスピーチ）は許されない	⑨ 感染症患者については、感染症拡大 防止のため、ブライパシの保護など が制限される場合があってもやむを 得ない	⑩ 犯罪被害者について、報道によつて プライバシーが侵害されたり、私生活 が保てなくなることは問題である	⑪ LGBT等、性的少数派であることを 身近な人にもいえない社会は問題である	⑫ 刑を終えて出所した人が、更生した 後も、インターネットなどで過去の 犯罪歴を調べられることがあつても やむを得ない	
上段：実数 下段：%	全体	871 100.0	243 27.9	55 6.3	766 87.9	34 3.9	455 52.2	724 83.1	489 56.1	590 67.7	404 46.4	723 83.0	618 71.0	339 38.9
	女性	463 100.0	118 25.5	17 3.7	428 92.4	11 2.4	244 52.7	390 84.2	225 48.6	326 70.4	197 42.5	376 81.2	339 73.2	169 36.5
	男性	387 100.0	117 30.2	38 9.8	319 82.4	22 5.7	196 50.6	317 81.9	254 65.6	253 65.4	197 50.9	328 84.8	264 68.2	159 41.1

性別に、『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）をみると、複数の項目において、男性の方が女性よりも高い傾向がみられ、特に「⑦日本に住む外国人は、できるだけ日本の文化や習慣に合わせる努力をするべきである」は男性の方が女性よりも17.0ポイント高くなっている。一方で、「③親の介護が必要になったとき、女性の役割だと決めつけるのはよくない」は女性の方が男性よりも10.0ポイント高くなっている。

【年齢別】

	全 体	① 部落差別（同 和問題）は、口 に出さずそっ としておけば自 然となくなると 思うので、学校 や職場に積極的 に学習や研修を 行わなくてもよい	② 男性は外で働き、 女性は家庭を中 心に家事・育児を したほうがよい	③ 親の介護が必要 になったとき、女 性の役割だと決 めつけるのはよく ない	④ 子どもが参加す る地域行事を決 める意見に、大 人だけで決めて、 子どもの意見を 聞かなくてよい	⑤ 認知症で徘徊す る高齢者につい て、介護者が側 にいない場合、 鍵をかけて家か ら出られないよ うにすることは やむを得ない	⑥ 学校や企業など は、障がいのある 人の就業機会を 提供に努めるべ きである	⑦ 日本に住む外国 人は、できるだけ 日本の文化や習 慣に合わせる努 力をすべきであ る	⑧ 外国人を受け入 れない、拒否す る趣旨の言動が 公然とされるこ と（ヘイトスピ ーチ）は許され ない	⑨ 感染症患者につ いては、感染症 拡大防止のため 、プライバシー の保護などが制 限される場合に あってもやむを 得ない	⑩ 犯罪被害者につ いては、報道に よつてプライバシー が侵害されたり 、私生活の平 穏が保てなくな ることは問題で ある	⑪ LGBT等、性的 少数派であるこ とを周囲の人に もいえない社会 は問題である	⑫ 刑を終えて出所 した人が、更生 した後も、イン ターネットなど で過去の犯罪歴 を調べられるこ とがあつても やむを得ない	無 回 答
上段：実数 下段：%														
全体	871 100.0	243 27.9	55 6.3	766 87.9	34 3.9	455 52.2	724 83.1	489 56.1	590 67.7	404 46.4	723 83.0	618 71.0	339 38.9	7
18～29歳	62 100.0	13 21.0	6 9.7	59 95.2	2 3.2	47 75.8	48 77.4	39 62.9	34 54.8	26 41.9	51 82.3	43 69.4	43 69.4	0
30～39歳	95 100.0	21 22.1	6 6.3	89 93.7	3 3.2	72 75.8	74 77.9	67 70.5	55 57.9	41 43.2	81 85.3	71 74.7	64 67.4	0
40～49歳	117 100.0	32 27.4	9 7.7	103 88.0	8 6.8	71 60.7	92 78.6	67 57.3	78 66.7	37 31.6	103 88.0	85 72.6	63 53.8	0
50～59歳	150 100.0	34 22.7	10 6.7	137 91.3	7 4.7	86 57.3	132 88.0	82 54.7	106 70.7	62 41.3	126 84.0	112 74.7	69 46.0	0
60～69歳	156 100.0	40 25.6	5 3.2	140 89.7	3 1.9	81 51.9	133 85.3	81 51.9	113 72.4	77 49.4	131 84.0	119 76.3	43 27.6	1
70～79歳	180 100.0	61 33.9	9 5.0	156 86.7	4 2.2	56 31.1	154 85.6	89 49.4	130 72.2	87 48.3	151 83.9	125 69.4	36 20.0	2
80歳以上	106 100.0	40 37.7	10 9.4	79 74.5	6 5.7	40 37.7	87 82.1	61 57.5	73 68.9	70 66.0	77 72.6	62 58.5	20 18.9	3

年齢別に、『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）をみると、概ね年齢が高くなるにつれて、「①部落差別（同和問題）は、口に出さずそっとしておけば自然となくなると思うので、学校や職場に積極的に学習や研修を行わなくてもよい」は高くなり、「⑤認知症で徘徊する高齢者について、介護者が側にいない場合、鍵をかけて家から出られないようにすることはやむを得ない」「⑫刑を終えて出社した人が、更生した後も、インターネットなどで過去の犯罪歴を調べられることがあつてもやむを得ない」は低くなっている。

【人権侵害を受けた経験の有無別】

選択肢

①	部落差別（同和問題）は、口に出さずそっとしておけば自然になくなくなると思うので、学校や職場で積極的に学習や研修を行わなくてもよい
②	男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児をしたほうがよい
③	親の介護が必要になったとき、女性の役割だと決めつけるのはよくない
④	子どもが参加する地域行事を決める際に、大人だけで決めて、子どもの意見を聞かなくてよい
⑤	認知症で徘徊する高齢者について、介護者が側にいない場合、鍵をかけて家から出られないようにすることはやむを得ない
⑥	学校や企業などは、障がいのある人の特性や困りごとを配慮して、教育や就業機会の提供に努めるべきである

上段：実数 下段：%		全 体	そう 思う	そう 思わ ない か い え ば	ど ち ら と も い え ない	そ う 思 わ ない か い え ば	そ う 思 わ ない	無 回 答
①	ある	107 100.0	13 12.1	12 11.2	21 19.6	18 16.8	42 39.3	1 0.9
	ない	653 100.0	93 14.2	98 15.0	164 25.1	120 18.4	174 26.6	4 0.6
②	ある	107 100.0	1 0.9	4 3.7	26 24.3	11 10.3	64 59.8	1 0.9
	ない	653 100.0	11 1.7	32 4.9	123 18.8	115 17.6	369 56.5	3 0.5
③	ある	107 100.0	87 81.3	10 9.3	4 3.7	1 0.9	4 3.7	1 0.9
	ない	653 100.0	497 76.1	84 12.9	24 3.7	15 2.3	33 5.1	－ －
④	ある	107 100.0	2 1.9	3 2.8	15 14.0	25 23.4	61 57.0	1 0.9
	ない	653 100.0	5 0.8	20 3.1	95 14.5	185 28.3	335 51.3	13 2.0
⑤	ある	107 100.0	25 23.4	33 30.8	24 22.4	10 9.3	13 12.1	2 1.9
	ない	653 100.0	118 18.1	235 36.0	155 23.7	59 9.0	73 11.2	13 2.0
⑥	ある	107 100.0	54 50.5	38 35.5	8 7.5	－ －	5 4.7	2 1.9
	ない	653 100.0	304 46.6	246 37.7	69 10.6	13 2.0	9 1.4	12 1.8

人権侵害を受けた経験の有無別にみると、「①部落差別（同和問題）は、口に出さずそっとしておけば自然になくなくなると思うので、学校や職場で積極的に学習や研修を行わなくてもよい」は、人権侵害を受けたことがある人の方が、ない人よりも『そう思わない』（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合）が11.1ポイント高くなっている。

選択肢

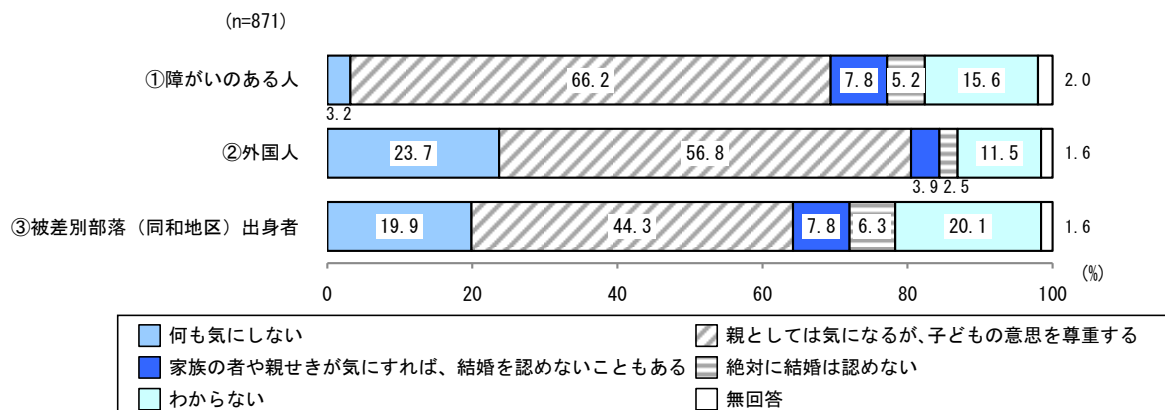
⑦	日本に住む外国人は、できるだけ日本の文化や習慣に合わせる努力をすべきである
⑧	外国人を受け入れない、拒否する趣旨の言動が公然とされること（いわゆるヘイトスピーチ）は許されない
⑨	感染症患者については、感染症拡大防止のため、プライバシーの保護などが制限される場合があってもやむを得ない
⑩	犯罪被害者について、報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなることは問題である
⑪	LGBT等、性的少数派であることを身近な人にもいえない社会は問題である
⑫	刑を終えて出所した人が、更生した後も、インターネットなどで過去の犯罪歴を調べられることがあってもやむを得ない

		全 体	そう 思う	そう 思わ ない か とい え ば	ど ち ら と も い え な い	そ う 思 わ な い い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
	上段：実数 下段：%							
⑦	ある	107	30	35	26	7	8	1
		100.0	28.0	32.7	24.3	6.5	7.5	0.9
	ない	653	126	241	184	52	38	12
		100.0	19.3	36.9	28.2	8.0	5.8	1.8
⑧	ある	107	41	28	24	4	9	1
		100.0	38.3	26.2	22.4	3.7	8.4	0.9
	ない	653	239	211	134	36	18	15
		100.0	36.6	32.3	20.5	5.5	2.8	2.3
⑨	ある	107	15	29	29	9	23	2
		100.0	14.0	27.1	27.1	8.4	21.5	1.9
	ない	653	100	203	195	74	67	14
		100.0	15.3	31.1	29.9	11.3	10.3	2.1
⑩	ある	107	79	9	10	3	5	1
		100.0	73.8	8.4	9.3	2.8	4.7	0.9
	ない	653	405	141	60	18	14	15
		100.0	62.0	21.6	9.2	2.8	2.1	2.3
⑪	ある	107	43	32	20	6	5	1
		100.0	40.2	29.9	18.7	5.6	4.7	0.9
	ない	653	231	240	125	24	19	14
		100.0	35.4	36.8	19.1	3.7	2.9	2.1
⑫	ある	107	22	28	30	8	18	1
		100.0	20.6	26.2	28.0	7.5	16.8	0.9
	ない	653	92	157	172	113	107	12
		100.0	14.1	24.0	26.3	17.3	16.4	1.8

『そう思わない』（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合）は、人権侵害を受けたことがある人の方がいない人よりも「⑨感染症患者については、感染症拡大防止のため、プライバシーの保護などが制限される場合があってもやむを得ない」では8.3ポイント高く、「⑫刑を終えて出所した人が、更生した後も、インターネットなどで過去の犯罪歴を調べられることがあってもやむを得ない」では9.4ポイント低くなっている。

（６）結婚相手の判断条件

問17 仮にあなたにお子さんがいた場合、お子さんの結婚しようとする相手が、次のような相手の場合、あなたはどのように思いますか。
（①～③のそれぞれに○は１つずつ）



① 障がいのある人

「親としては気になるが、子どもの意思を尊重する」が66.2%と最も高く、次いで「家族のものや親せきが気にすれば、結婚を認めないこともある」が7.8%となっている。

② 外国人

「親としては気になるが、子どもの意思を尊重する」が56.8%と最も高く、次いで「何も気にしない」が23.7%となっている。

③ 被差別部落（同和地区）出身者

「親としては気になるが、子どもの意思を尊重する」が44.3%と最も高く、次いで「何も気にしない」が19.9%となっている。

【性別】

① 障がいのある人

	全 体	何 も 気 に し な い	が、 親 と し て は も も の 意 思 を 尊 重 す る	認 め に な い こ と も あ る	家 族 の 者 や 親 せ き を が	い 絶 対 に 結 婚 は 認 め な	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	28 3.2	577 66.2	68 7.8	45 5.2	136 15.6	17 2.0	
女性	463 100.0	12 2.6	304 65.7	33 7.1	21 4.5	81 17.5	12 2.6	
男性	387 100.0	15 3.9	262 67.7	33 8.5	22 5.7	50 12.9	5 1.3	

性別にみても、いずれの項目においても回答の割合に性別による差はみられず、『気にしない』（「何も気にしない」と「親としては気になるが、子どもの意思を尊重する」を合わせた割合）は男性・女性ともに7割前後となっている。

② 外国人

	全 体	何 も 気 に し な い	を 尊 重 す る	親 と し て は 気 に な る	認 め な い こ と も あ る	家 族 の 者 や 親 せ き が	い 絶 対 に 結 婚 は 認 め な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%									
全体	871 100.0	206 23.7	495 56.8	34 3.9	22 2.5	100 11.5	14 1.6		
女性	463 100.0	117 25.3	255 55.1	14 3.0	9 1.9	58 12.5	10 2.2		
男性	387 100.0	87 22.5	229 59.2	19 4.9	13 3.4	35 9.0	4 1.0		

性別にみても、いずれの項目においても回答の割合に性別による差はみられず、『気にしない』（「何も気にしない」と「親としては気になるが、子どもの意思を尊重する」を合わせた割合）は男性・女性ともに8割前後となっている。

③ 被差別部落（同和地区）出身者

	全 体	何 も 気 に し な い	を 尊 重 す る	親 と し て は も の 意 思	認 め な い こ と も あ る	家 族 の 者 や 親 せ き を	い 絶 対 に 結 婚 は 認 め な	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%									
全体	871 100.0	173 19.9	386 44.3	68 7.8	55 6.3	175 20.1	14 1.6		
女性	463 100.0	81 17.5	217 46.9	33 7.1	26 5.6	96 20.7	10 2.2		
男性	387 100.0	91 23.5	160 41.3	33 8.5	27 7.0	72 18.6	4 1.0		

「性別にみても、いずれの項目においても回答の割合に性別による差はみられず、『気にしない』（「何も気にしない」と「親としては気になるが、子どもの意思を尊重する」を合わせた割合）は男性・女性ともに65.0%前後となっている。

【年齢別】

① 障がいのある人

	全 体	何 も 気 に し な い	を 尊 重 す る	が 親 と し て は も も の に 意 思	認 め な い こ と も あ る	家 族 の 者 や 親 せ き が	い 絶 対 に 結 婚 は 認 め な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%									
全体	871 100.0	28 3.2	577 66.2	68 7.8	45 5.2	136 15.6	17 2.0		
18～29歳	62 100.0	3 4.8	42 67.7	7 11.3	6 9.7	4 6.5	-		
30～39歳	95 100.0	2 2.1	56 58.9	12 12.6	13 13.7	12 12.6	-		
40～49歳	117 100.0	5 4.3	76 65.0	10 8.5	3 2.6	22 18.8	1 0.9		
50～59歳	150 100.0	4 2.7	109 72.7	7 4.7	5 3.3	23 15.3	2 1.3		
60～69歳	156 100.0	6 3.8	109 69.9	8 5.1	7 4.5	23 14.7	3 1.9		
70～79歳	180 100.0	6 3.3	116 64.4	11 6.1	8 4.4	32 17.8	7 3.9		
80歳以上	106 100.0	2 1.9	67 63.2	13 12.3	3 2.8	18 17.0	3 2.8		

年齢別にみると、『認めない（認めないこともある）』（「家族の者や親せきが気にすれば、結婚を認めないこともある」「絶対に結婚は認めない」を合わせた割合）は18～39歳が2割以上で、他の年齢層と比べて高くなっている。

② 外国人

	全 体	何 も 気 に し な い	を が 親 と し て は も も の に 意 思 を 重 ず る	認 め な い こ と も あ る	家 族 の 者 や 親 せ き が	い 絶 対 に 結 婚 は 認 め な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	206 23.7	495 56.8	34 3.9	22 2.5	100 11.5	14 1.6	
18～29歳	62 100.0	32 51.6	25 40.3	2 3.2	1 1.6	2 3.2	-	
30～39歳	95 100.0	26 27.4	50 52.6	4 4.2	6 6.3	9 9.5	-	
40～49歳	117 100.0	38 32.5	56 47.9	5 4.3	3 2.6	15 12.8	-	
50～59歳	150 100.0	32 21.3	96 64.0	5 3.3	4 2.7	11 7.3	2 1.3	
60～69歳	156 100.0	37 23.7	92 59.0	4 2.6	3 1.9	18 11.5	2 1.3	
70～79歳	180 100.0	30 16.7	111 61.7	3 1.7	3 1.7	26 14.4	7 3.9	
80歳以上	106 100.0	11 10.4	63 59.4	11 10.4	2 1.9	17 16.0	2 1.9	

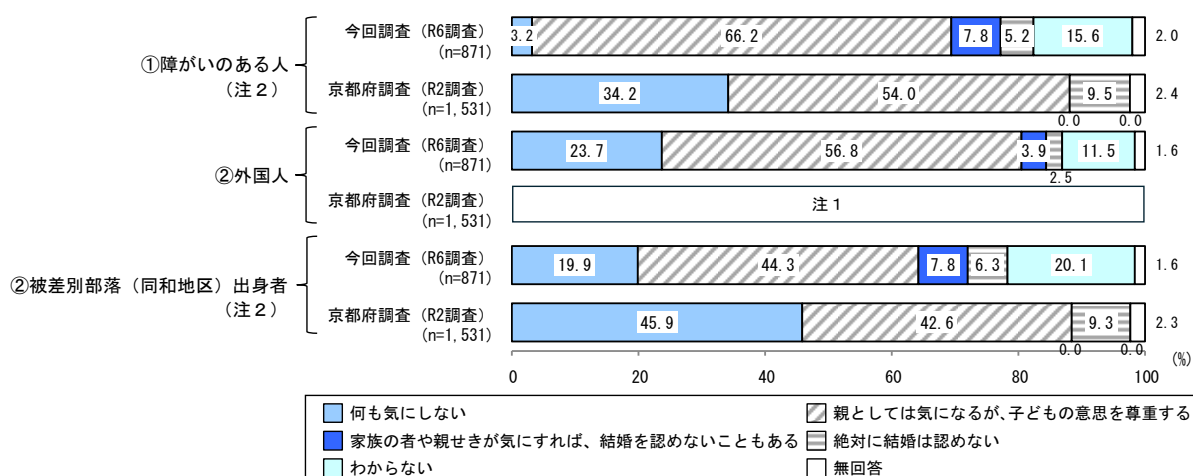
概ね年齢が高くなるにつれて、「何も気にしない」の割合は低くなり、18～29歳と80歳以上で41.2ポイントの差がみられた。

③ 被差別部落（同和地区）出身者

	全 体	何 も 気 に し な い	を が 親 と し て は 気 に な る が 、 子 ど も の 意 思 を 尊 重 す る	認 め な い こ と も あ る	家 族 の 者 や 親 せ き が 気 に す れ ば 、 結 婚 を 認 め な い こ と も あ る	い あ く そ う に 結 婚 は 認 め な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%								
全体	871 100.0	173 19.9	386 44.3	68 7.8	55 6.3	175 20.1	14 1.6	
18～29歳	62 100.0	32 51.6	19 30.6	3 4.8	2 3.2	6 9.7	— —	
30～39歳	95 100.0	28 29.5	31 32.6	9 9.5	7 7.4	20 21.1	— —	
40～49歳	117 100.0	26 22.2	46 39.3	8 6.8	6 5.1	31 26.5	— —	
50～59歳	150 100.0	32 21.3	76 50.7	7 4.7	9 6.0	24 16.0	2 1.3	
60～69歳	156 100.0	27 17.3	80 51.3	9 5.8	11 7.1	27 17.3	2 1.3	
70～79歳	180 100.0	20 11.1	88 48.9	17 9.4	10 5.6	38 21.1	7 3.9	
80歳以上	106 100.0	8 7.5	45 42.5	14 13.2	10 9.4	27 25.5	2 1.9	

年齢が低くなるにつれて、「何も気にしない」の割合は高くなり、18～29歳では「何も気にしない」「親としては気になるが、子どもの意思を尊重する」を合わせた割合は8割を超えている。

【京都府調査との比較】



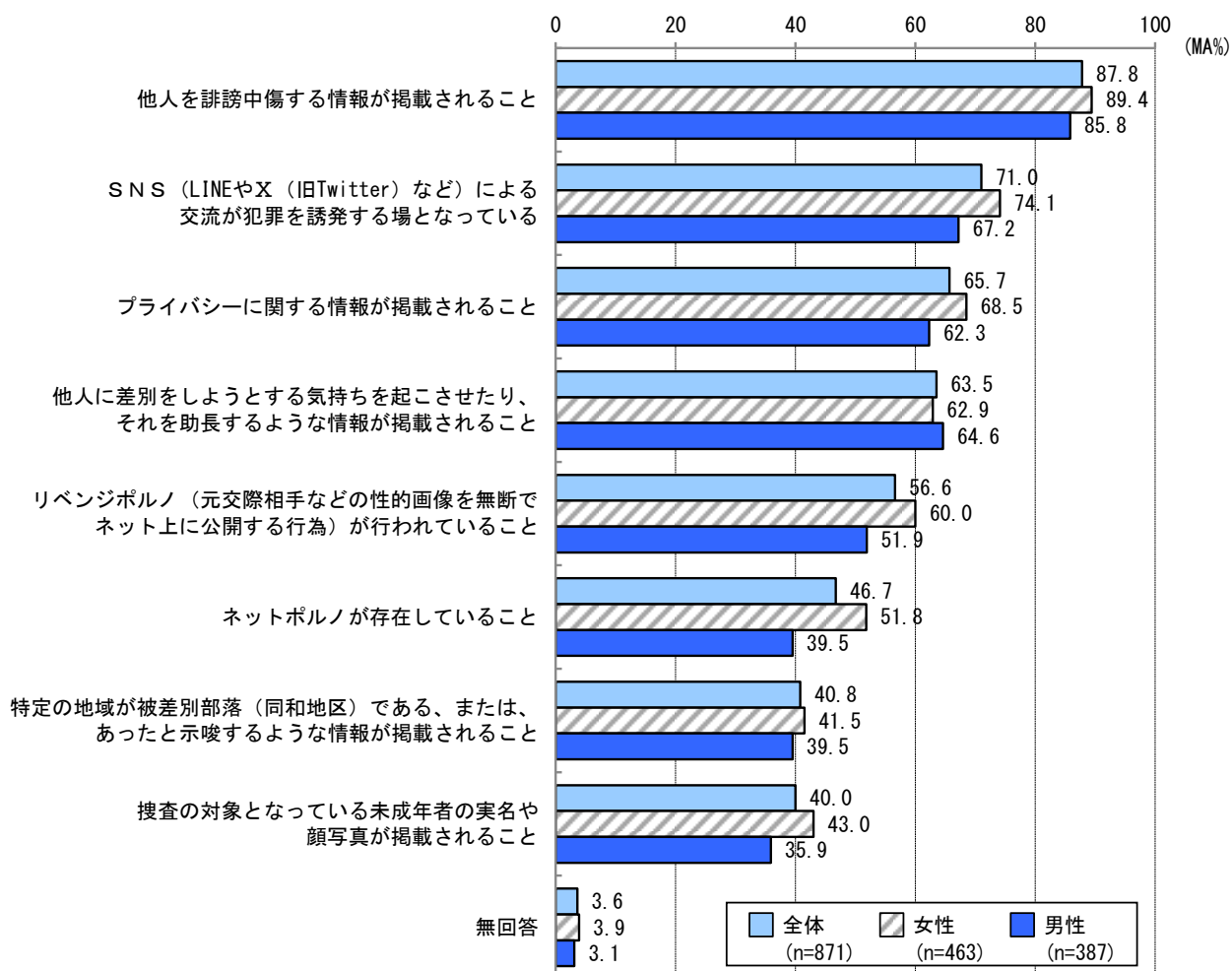
京都府調査と比べると、「何も気にしない」の割合に大きな差がみられ、今回調査（向日市）の方が京都府調査よりも、「①障がいのある人」は31.0ポイント、「③被差別部落（同和地区）出身者」では26.0ポイント低くなっている。

注1）京都府調査は「日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人」と「日本で働き、永住を希望している日系外国人」に分けて質問をしているため比較していない

注2）京都府調査（①障がいのある人、③被差別部落（同和地区）出身者）は「子どもの意思を尊重し問題にしない」「親としては反対だが、子どもの意思を尊重する」「絶対に結婚は認めない」で、「家族の者や親せきが気にすれば、結婚を認めないこともある」と「わからない」は含まれない

（７）インターネットによる人権侵害

問18 あなたは、インターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。（〇はいくつでも）



「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が87.8%と最も高く、次いで「SNS（LINEやX（旧Twitter）など）による交流が犯罪を誘発する場となっている」が71.0%、「プライバシーに関する情報が掲載されること」が65.7%となっている。

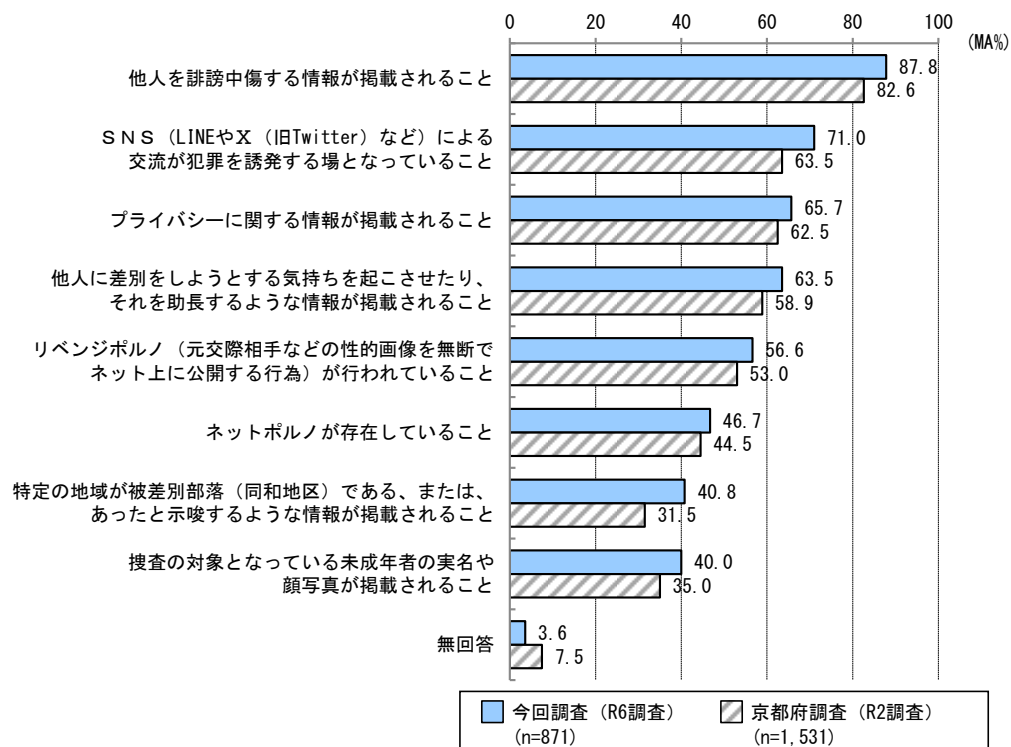
性別にみると、複数の項目で女性の方が男性より割合が高く、特に「ネットポルノが存在していること」は12.3ポイントの大きな差がみられた。

【年齢別】

上段：実数 下段：%	全 体	他人を誹 謗中傷す ること	Twitter (LINEや Xなど) による交 流が犯罪 を誘発す ること	SNS(LE Xなど) に掲載さ れること	プライバシーに 関する情 報	所持を起 すこと	他人に差 別をしよう とする	ネット上 に公開す る行為	ネットポ ルノが存 在して いること	特定の地 域が被差 別部落 (同和地 区)であ る、また は、あつ たと示唆 すること	掲載され ること	未成年者 の実名や 顔写真が	無 回 答
全体	871 100.0	765 87.8	618 71.0	572 65.7	553 63.5	493 56.6	407 46.7	355 40.8	348 40.0	31 3.6			
18～29歳	62 100.0	53 85.5	39 62.9	40 64.5	39 62.9	27 43.5	26 41.9	11 17.7	13 21.0	- -			
30～39歳	95 100.0	87 91.6	67 70.5	72 75.8	68 71.6	63 66.3	53 55.8	40 42.1	47 49.5	1 1.1			
40～49歳	117 100.0	102 87.2	85 72.6	76 65.0	77 65.8	73 62.4	61 52.1	42 35.9	45 38.5	2 1.7			
50～59歳	150 100.0	134 89.3	115 76.7	103 68.7	102 68.0	101 67.3	75 50.0	69 46.0	66 44.0	2 1.3			
60～69歳	156 100.0	146 93.6	117 75.0	113 72.4	112 71.8	102 65.4	81 51.9	76 48.7	73 46.8	3 1.9			
70～79歳	180 100.0	159 88.3	127 70.6	109 60.6	105 58.3	81 45.0	71 39.4	70 38.9	66 36.7	11 6.1			
80歳以上	106 100.0	81 76.4	66 62.3	57 53.8	48 45.3	45 42.5	38 35.8	45 42.5	37 34.9	10 9.4			

年齢別にみると、30～39歳では「プライバシーに関する情報が掲載されること」「ネットポルノが存在していること」「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること」の複数の項目で他の年齢層よりも割合が高くなっている。一方、18～29歳では、「特定の地域が被差別部落（同和地区）である、または、あつたと示唆するような情報が掲載されること」「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること」の割合が他の年齢層と比べて10.0ポイント以上低くなっている。

【京都府調査との比較】

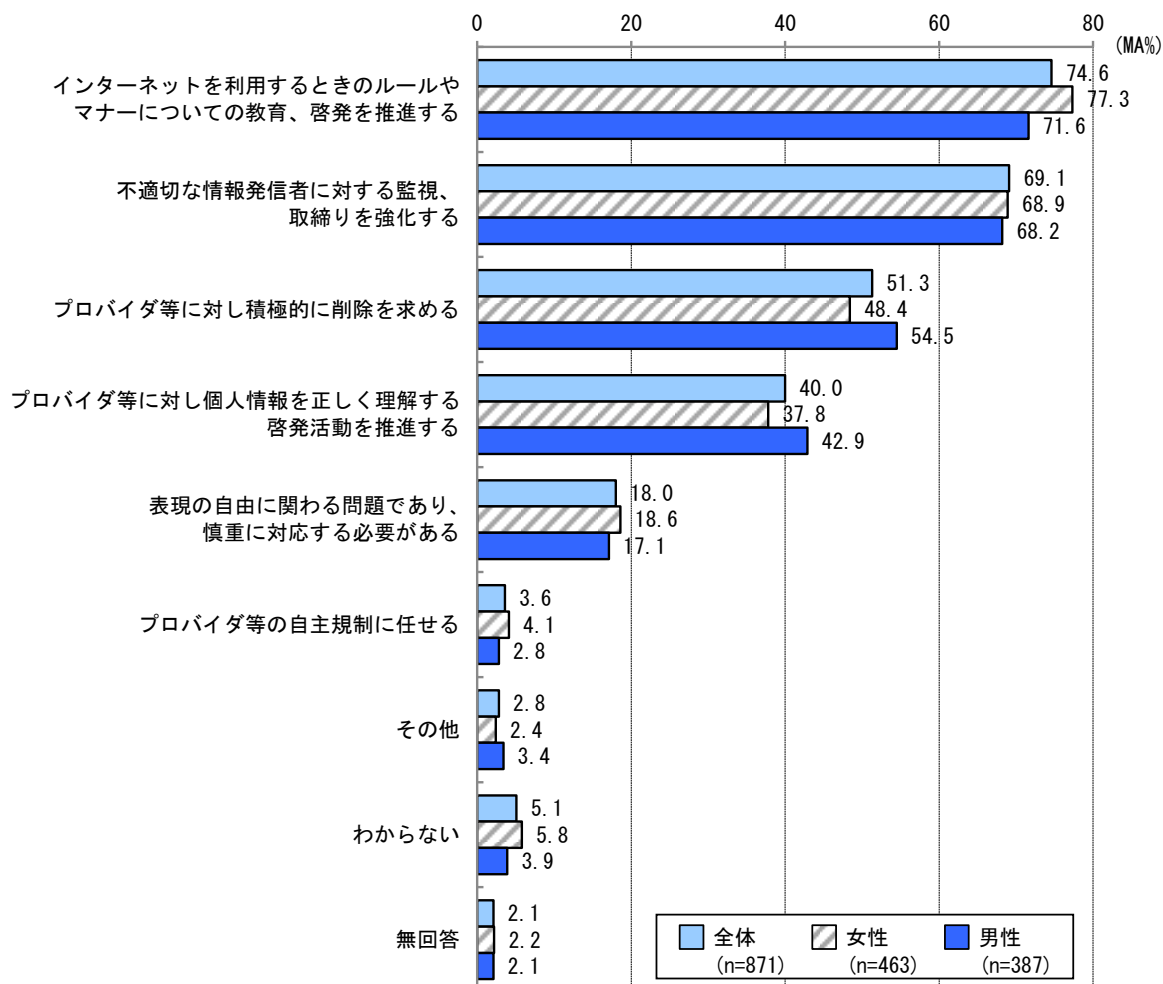


京都府調査と比べると、複数の項目で5.0ポイント以上の差がみられ、特に「特定の地域が被差別部落 (同和地区) である、またはあったと示唆するような情報が掲載されること」は9.3ポイント、「SNS (LINEやX (旧Twitter) など) による交流が犯罪を誘発する場となっていること」は7.5ポイント、今回調査 (向日市) の方が京都府調査よりも高くなっている。

注) 京都府調査では「特定の地域が被差別部落 (同和地区) である、またはあったと示唆するような情報が掲載されること」は「特定の地域が被差別部落 (同和地区) と指摘する情報が掲載されること」

（８）インターネットによる人権侵害への対応

問19 インターネットによる人権侵害を改善するためには、あなたはどうすればよいと思いますか。（〇はいくつでも）



「インターネットを利用するときのルールやマナーについての教育、啓発を推進する」が74.6%と最も高く、次いで「不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する」が69.1%、「プロバイダ等に対し積極的に削除を求める」が51.3%となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「プロバイダ等に対し積極的に削除を求める」が6.1ポイント、「プロバイダ等に対し個人情報を正しく理解する啓発活動を推進する」が5.1ポイント高くなっている。一方、「インターネットを利用するときのルールやマナーについての教育、啓発を推進する」の割合は、女性の方が男性よりも5.7ポイント高くなっている。

【年齢別】

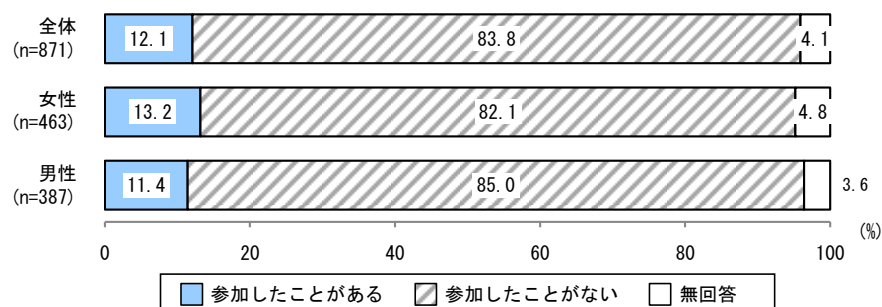
上段：実数 下段：%	全 体	啓 発 を 推 進 す る マ ナ ー に つ い て の 教 育、	す る と き の ル ー ル や 利 用	イ ン タ ー ネ ッ ト	強 化 す る 監 視、 取 締 り を に	不 適 切 な 情 報 発 信 者 に 対 す る	積 極 的 に 削 除 を 求 め る	プ ロ バ イ ダ 等 に 対 し る	情 報 を 正 し く 理 解 す る 個 人	プ ロ バ イ ダ 等 に 対 し る	問 題 で あ り 、 必 要 が あ る に	表 現 の 自 由 に 関 わ る	自 主 規 制 に 任 せ る	プ ロ バ イ ダ 等 の	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	871 100.0	650 74.6	602 69.1	447 51.3	348 40.0	157 18.0	31 3.6	24 2.8	44 5.1	18 2.1							
18～29歳	62 100.0	40 64.5	38 61.3	22 35.5	16 25.8	18 29.0	3 4.8	2 3.2	- -	- -							
30～39歳	95 100.0	72 75.8	61 64.2	34 35.8	33 34.7	26 27.4	5 5.3	1 1.1	4 4.2	1 1.1							
40～49歳	117 100.0	89 76.1	89 76.1	70 59.8	46 39.3	18 15.4	6 5.1	3 2.6	4 3.4	- -							
50～59歳	150 100.0	117 78.0	99 66.0	86 57.3	64 42.7	24 16.0	4 2.7	5 3.3	3 2.0	1 0.7							
60～69歳	156 100.0	127 81.4	129 82.7	96 61.5	80 51.3	25 16.0	5 3.2	7 4.5	3 1.9	3 1.9							
70～79歳	180 100.0	132 73.3	122 67.8	98 54.4	77 42.8	26 14.4	4 2.2	3 1.7	15 8.3	7 3.9							
80歳以上	106 100.0	70 66.0	61 57.5	39 36.8	30 28.3	19 17.9	3 2.8	2 1.9	14 13.2	6 5.7							

年齢別にみると、70歳未満では、年齢が高くなるにつれて「インターネットを利用するときのルールや、マナーについての教育、啓発を推進する」「不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する」「プロバイダ等に対し積極的に削除を求める」「プロバイダ等に対し個人情報を正しく理解する啓発活動を推進する」の複数の項目において割合が高くなっている。一方、「表現の自由に関わる問題であり、慎重に対応する必要がある」については年齢が高くなるにつれて割合が低くなっている。

5 人権問題を理解するための取組について

(1) 人権研修等への参加状況

問20 最近（５年間）、あなたは、学校や職場、市が主催する人権問題に関する研修会や講演会、啓発映画上映会や向日市民平和と人権のつどいなどの人権啓発に関する行事等に参加されたことがありますか。（どちらかに○を１つ）



「参加したことがある」が12.1%、「参加したことがない」が83.8%となっている。
性別にみても、男性・女性ともに同様の傾向がみられた。

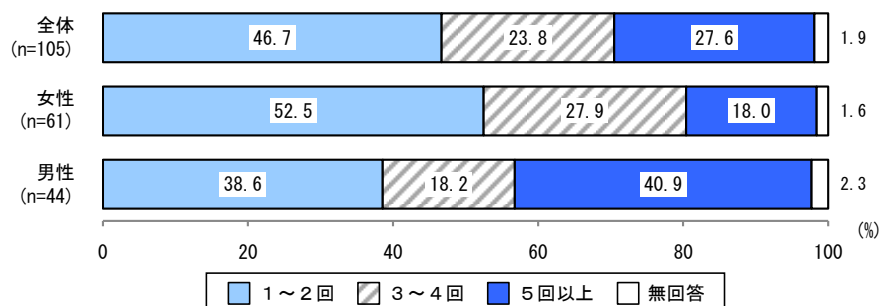
【年齢別】

	全 体	参 加 し た こ と が あ る	参 加 し た こ と が な い	無 回 答
上段：実数 下段：%				
全体	871 100.0	105 12.1	730 83.8	36 4.1
18～29歳	62 100.0	9 14.5	52 83.9	1 1.6
30～39歳	95 100.0	11 11.6	83 87.4	1 1.1
40～49歳	117 100.0	12 10.3	104 88.9	1 0.9
50～59歳	150 100.0	26 17.3	122 81.3	2 1.3
60～69歳	156 100.0	24 15.4	126 80.8	6 3.8
70～79歳	180 100.0	13 7.2	152 84.4	15 8.3
80歳以上	106 100.0	10 9.4	87 82.1	9 8.5

年齢別にみると、50～69歳では「参加したことがある」の割合が15.0%以上と比較的高いが、その他の年齢層は低く、特に70～79歳では7.2%と最も低くなっている。

＜問20で「参加したことがある」を選んだ方にお聞きします。＞

問20-1 これまで参加された回数は何回ですか。(○は1つ)



「1～2回」が46.7%と最も高く、次いで「5回以上」が27.6%、「3～4回」が23.8%となっている。
性別にみると、『3回以上参加』（「3～4回」「5回以上」を合わせた割合）は男性の方が女性よりも高く、特に「5回以上」の割合は22.9ポイントの大きな差がみられた。

【年齢別】

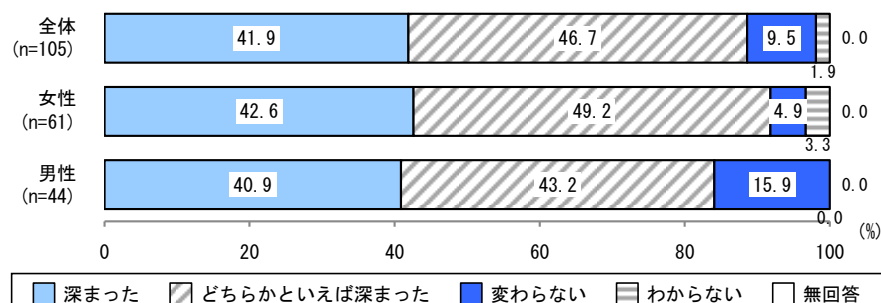
	全 体	1 ～ 2 回	3 ～ 4 回	5 回 以 上	無 回 答
上段：実数 下段：%					
全体	105 100.0	49 46.7	25 23.8	29 27.6	2 1.9
18～29歳	9 100.0	3 33.3	4 44.4	2 22.2	—
30～39歳	11 100.0	4 36.4	4 36.4	3 27.3	—
40～49歳	12 100.0	3 25.0	3 25.0	6 50.0	—
50～59歳	26 100.0	13 50.0	5 19.2	8 30.8	—
60～69歳	24 100.0	11 45.8	5 20.8	8 33.3	—
70～79歳	13 100.0	10 76.9	1 7.7	2 15.4	—
80歳以上	10 100.0	5 50.0	3 30.0	—	2 20.0

年齢別にみると、『3回以上参加』（「3～4回」「5回以上」を合わせた割合）は、18～69歳では5～7割と高い一方、70歳以上は2～3割と低くなっている。「5回以上」の割合は、40～49歳は50.0%で、他の年齢層と比べて最も高くなっている。

（２）啓発事業参加後の人権問題に関する理解の変化

＜問20で「参加したことがある」を選んだ方にお聞きします。＞

問21 あなたは、人権啓発に関する行事等に参加して、人権や人権問題に対する理解・認識は深まりましたか。（○は１つ）



『深まった』（「深まった」「どちらかといえば深まった」を合わせた割合）は88.6%となっている。性別にみると、女性の方が男性よりも『深まった』割合が7.7ポイント高くなっている。

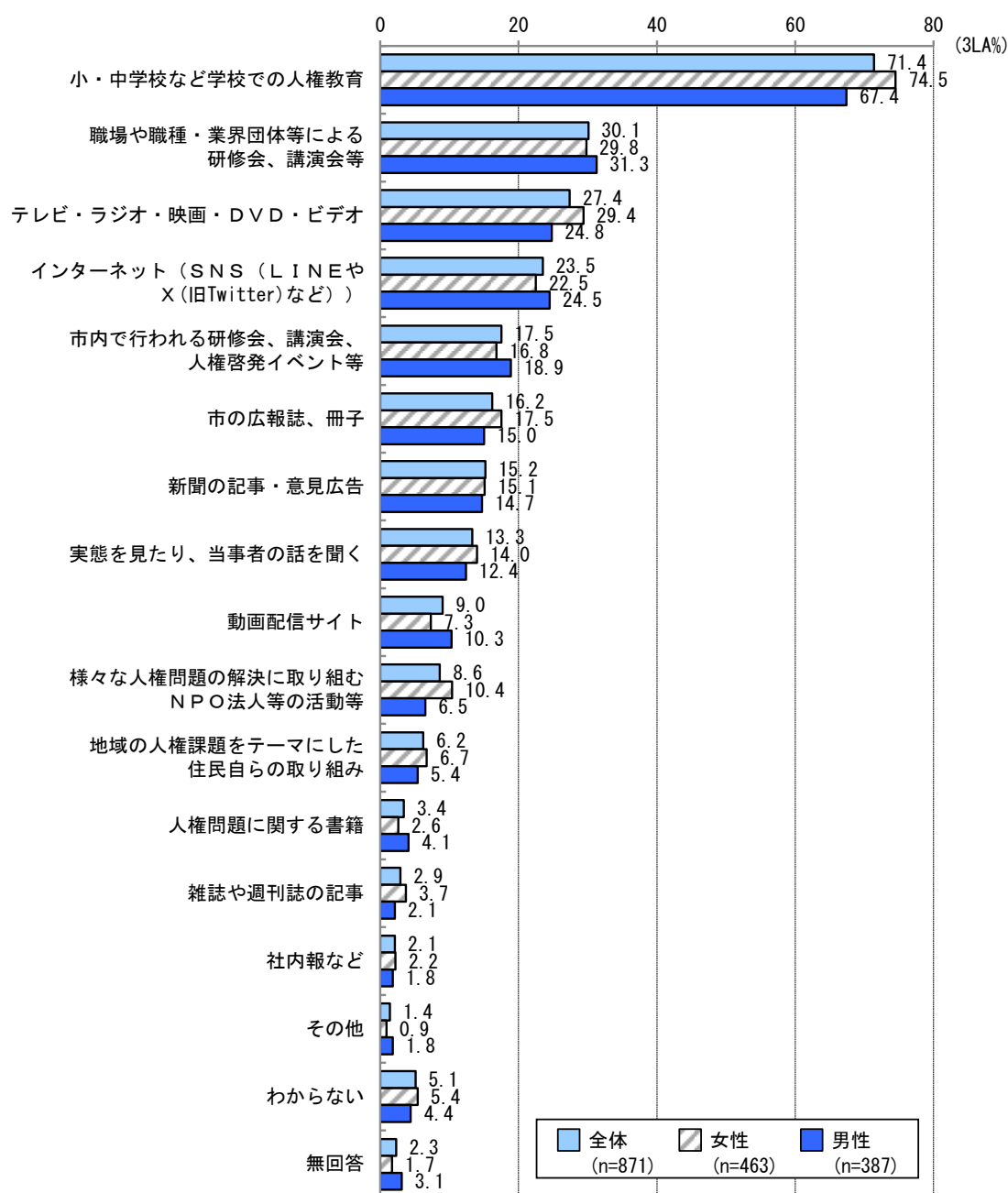
【年齢別】

	全 体	深 ま っ た	ま ど ち ら か と い え ば 深	変 わ ら な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：%						
全体	105 100.0	44 41.9	49 46.7	10 9.5	2 1.9	-
18～29歳	9 100.0	4 44.4	4 44.4	1 11.1	-	-
30～39歳	11 100.0	7 63.6	3 27.3	1 9.1	-	-
40～49歳	12 100.0	4 33.3	8 66.7	-	-	-
50～59歳	26 100.0	9 34.6	15 57.7	2 7.7	-	-
60～69歳	24 100.0	13 54.2	9 37.5	2 8.3	-	-
70～79歳	13 100.0	3 23.1	9 69.2	-	1 7.7	-
80歳以上	10 100.0	4 40.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	-

年齢別にみると、『深まった』（「深まった」「どちらかといえば深まった」を合わせた割合）は、18～79歳ではおよそ9割を占めている一方、80歳以上では50.0%と低くなっている。また、40～49歳については100.0%となっており、参加した者全員が理解・認識が深まったと回答している。

(3) 効果的な人権啓発手法

問22 あなたは、人権問題について理解や認識を深めるためには、どのようなものが役立つかと思いますか。(〇は役立つと思われる番号を3つ以内)



「小・中学校など学校での人権教育」が71.4%と最も高く、次いで「職場や職種・業界団体等による研修会、講演会等」が30.1%、「テレビ・ラジオ・映画・DVD・ビデオ」が27.4%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「小・中学校など学校での人権教育」の割合が7.1ポイント高いが、その他の項目では性別による差はみられなかった。

【年齢別】

上段：実数 下段：％	全 体	小・中 学校で の人権 教育	職 場や 職 種・ 業 界 団 体 等	映 画・ D V D・ ラ ジ オ・ ビ デ オ	テ レ ビ ・ ラ ジ オ ・ ビ デ オ (旧 T w i t t e r)	S N S (L I N E や X)	イ ン タ ー ネ ッ ト (S N S)	市 内 で 行 わ れ る 研 修 会 、 講 演 会 、 人 権 啓 発 イ ベ ン ト 等	市 の 広 報 誌 、 冊 子	新 聞 の 記 事 ・ 意 見 広 告	実 態 を 見 たり 、 当 事 者 の 話 を 聞 く	動 画 配 信 サ イ ト
全体	871 100.0	622 71.4	262 30.1	239 27.4	205 23.5	152 17.5	141 16.2	132 15.2	116 13.3	78 9.0		
18～29歳	62 100.0	48 77.4	18 29.0	15 24.2	21 33.9	6 9.7	8 12.9	3 4.8	12 19.4	8 12.9		
30～39歳	95 100.0	69 72.6	31 32.6	27 28.4	30 31.6	11 11.6	8 8.4	1 1.1	26 27.4	16 16.8		
40～49歳	117 100.0	84 71.8	36 30.8	32 27.4	43 36.8	14 12.0	12 10.3	9 7.7	20 17.1	15 12.8		
50～59歳	150 100.0	111 74.0	58 38.7	40 26.7	50 33.3	26 17.3	21 14.0	25 16.7	15 10.0	19 12.7		
60～69歳	156 100.0	119 76.3	55 35.3	50 32.1	35 22.4	24 15.4	28 17.9	32 20.5	18 11.5	8 5.1		
70～79歳	180 100.0	121 67.2	42 23.3	45 25.0	16 8.9	41 22.8	37 20.6	37 20.6	14 7.8	8 4.4		
80歳以上	106 100.0	67 63.2	20 18.9	28 26.4	8 7.5	29 27.4	27 25.5	24 22.6	11 10.4	3 2.8		

上段：実数 下段：％	全 体	等 に 取 り 組 む 活 動 等 N P O の 法 人	様 々 な 人 権 問 題 の 解 決	地 域 の 人 権 課 住 民 自 ら の 取 り 組 み	人 権 問 題 に 関 する 書 籍	雑 誌 や 週 刊 誌 の 記 事	社 内 報 な ど	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	871 100.0	75 8.6	54 6.2	30 3.4	25 2.9	18 2.1	12 1.4	44 5.1	20 2.3	
18～29歳	62 100.0	3 4.8	1 1.6	2 3.2	2 3.2	4 6.5	－ －	2 3.2	－ －	
30～39歳	95 100.0	5 5.3	2 2.1	3 3.2	1 1.1	1 1.1	1 1.1	3 3.2	2 2.1	
40～49歳	117 100.0	3 2.6	6 5.1	2 1.7	2 1.7	1 0.9	2 1.7	5 4.3	3 2.6	
50～59歳	150 100.0	8 5.3	8 5.3	4 2.7	6 4.0	3 2.0	3 2.0	5 3.3	1 0.7	
60～69歳	156 100.0	12 7.7	14 9.0	5 3.2	6 3.8	3 1.9	3 1.9	7 4.5	3 1.9	
70～79歳	180 100.0	28 15.6	11 6.1	7 3.9	4 2.2	2 1.1	1 0.6	16 8.9	6 3.3	
80歳以上	106 100.0	15 14.2	11 10.4	6 5.7	4 3.8	3 2.8	－ －	6 5.7	5 4.7	

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにつれて「小・中学校などで学校での教育」「インターネット（SNS（LINEやX（旧Twitter））」「動画配信サイト」の割合は低くなり、「市内で行われる研修会、講演会、人権啓発イベント等」「市の広報誌、冊子」「新聞の記事・意見広告」の割合は高くなっている。

【人権侵害を受けた経験の有無別】

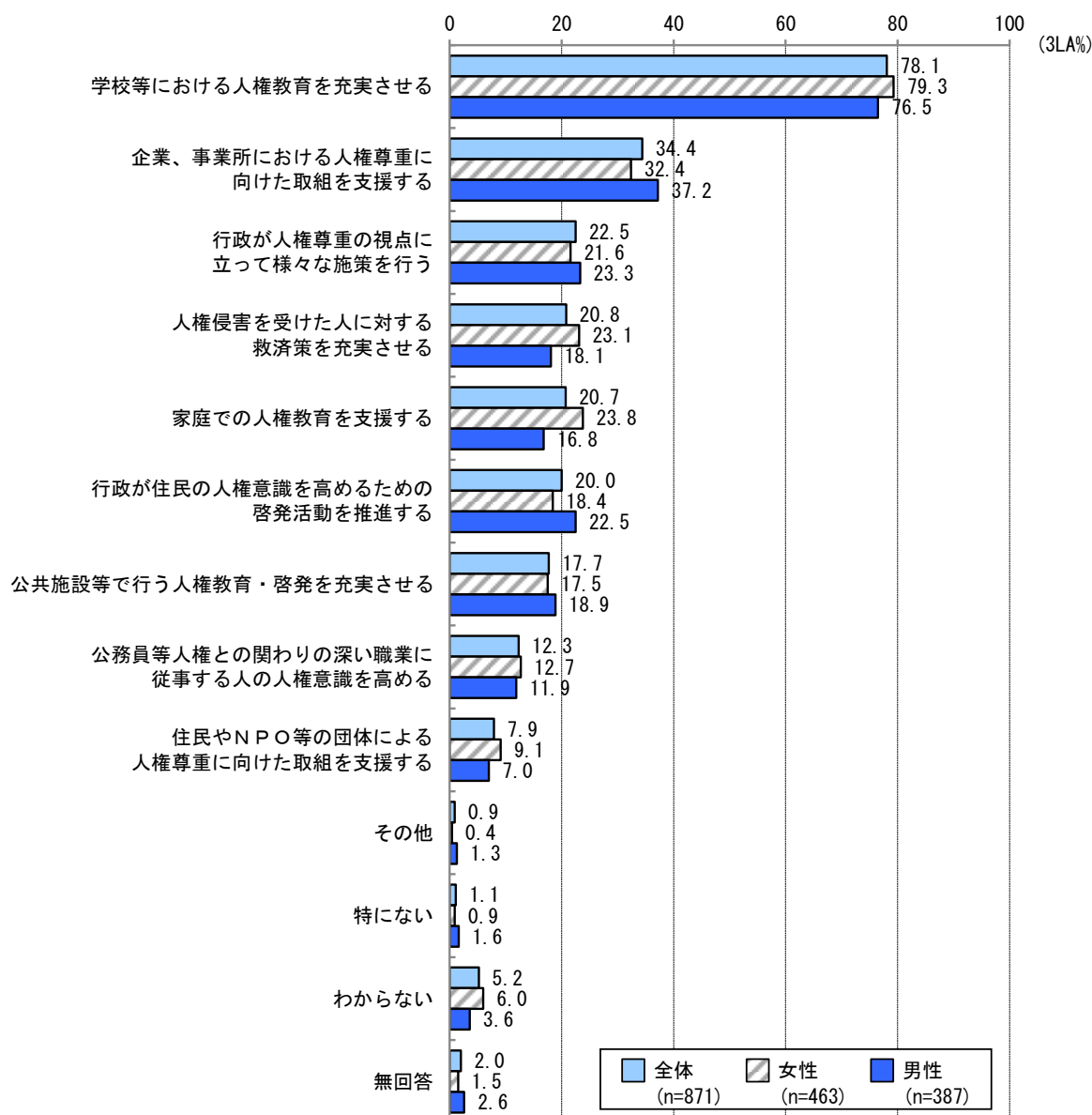
上段：実数 下段：％	全 体	小・中学校など 学校での人権教育	職場や職種・業界団体 等による研修会、講演 会等	テレビ・ラジオ・ビ デオ	インターネット（S （LINEやX （Twitter） など）	市内で行われる研修 会、講演会、人権啓 発イベント等	市の広報誌、冊子	新聞の記事・意見告 白	実態を見たり、当事 者の話を聞く	動画配 信サイ ト
全 体	871 100.0	622 71.4	262 30.1	239 27.4	205 23.5	152 17.5	141 16.2	132 15.2	116 13.3	78 9.0
人権侵害を受けたことがある	107 100.0	73 68.2	37 34.6	26 24.3	29 27.1	17 15.9	17 15.9	18 16.8	23 21.5	6 5.6
人権侵害を受けたことがない	653 100.0	480 73.5	188 28.8	180 27.6	148 22.7	113 17.3	103 15.8	98 15.0	72 11.0	60 9.2
上段：実数 下段：％	全 体	様々な人権問題の 解決に取り組む等	地域の人権課題を 住民自らに取り 組む	人権問題に関する 書籍	雑誌や週刊誌の記 事	社内報など	その他	わからない	無回 答	
全 体	871 100.0	75 8.6	54 6.2	30 3.4	25 2.9	18 2.1	12 1.4	44 5.1	20 2.3	
人権侵害を受けたことがある	107 100.0	6 5.6	13 12.1	4 3.7	1 0.9	1 0.9	5 4.7	1 0.9	3 2.8	
人権侵害を受けたことがない	653 100.0	58 8.9	33 5.1	19 2.9	21 3.2	15 2.3	7 1.1	33 5.1	15 2.3	

人権侵害を受けた経験の有無別にみると、人権侵害を受けた経験がある人の方が「実態を見たり、当事者の話を聞く」が10.5ポイント、「地域の人権課題をテーマにした住民自らの取り組み」が7.0ポイント、「職場や職種・業界団体等による研修会、講演会等」が5.8ポイント高く、「小中学校など学校での人権教育」は5.3ポイント低くなっている。

6 人権が尊重される社会づくりに求められることについて

(1) 人権が尊重される社会づくりに向けた施策

問23 あなたは、人権が尊重される社会を実現するために、どのような人権教育や啓発の施策が必要だと思いますか。(〇は特に重要と思われる番号を3つ以内)



「学校等による人権教育を充実させる」が78.1%と最も高く、次いで「企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する」が34.4%、「行政が人権尊重の視点に立って様々な施策を行う」が22.5%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「家庭での人権教育を支援する」が7.0ポイント、「人権侵害を受けた人に対する救済策を充実させる」が5.0ポイント高くなっている。

【年齢別】

上段：実数 下段：％	全 体	学校等における人権教育を充実させる	企業、事業所における人権尊重に向けた取り組みを支援する	行政が人権尊重の視点に立つて様々な施策を行う	人権侵害を受けた人に対する救済策を充実させる	家庭での人権教育を支援する	行政が住民の人権啓発活動を進めるための意識を高めるための	公共施設等で人権教育・啓発を行う
全体	871 100.0	680 78.1	300 34.4	196 22.5	181 20.8	180 20.7	174 20.0	154 17.7
18～29歳	62 100.0	50 80.6	17 27.4	12 19.4	15 24.2	13 21.0	6 9.7	13 21.0
30～39歳	95 100.0	73 76.8	33 34.7	14 14.7	21 22.1	36 37.9	12 12.6	19 20.0
40～49歳	117 100.0	93 79.5	42 35.9	23 19.7	28 23.9	24 20.5	13 11.1	16 13.7
50～59歳	150 100.0	123 82.0	69 46.0	34 22.7	44 29.3	34 22.7	24 16.0	29 19.3
60～69歳	156 100.0	119 76.3	68 43.6	41 26.3	30 19.2	31 19.9	37 23.7	17 10.9
70～79歳	180 100.0	144 80.0	45 25.0	48 26.7	28 15.6	22 12.2	48 26.7	35 19.4
80歳以上	106 100.0	75 70.8	23 21.7	24 22.6	14 13.2	20 18.9	34 32.1	25 23.6

上段：実数 下段：％	全 体	意識を 高める 人権に	従事する 人の深い 職業に	関わり の深い 人権と 職業の	公務員等 の人権と 職業の	する 人権と 職業の	団体に よる人 権と 職業の	住民や NPO等 の	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	871 100.0	107 12.3	69 7.9	8 0.9	10 1.1	45 5.2	17 2.0					
18～29歳	62 100.0	4 6.5	6 9.7	-	2 3.2	2 3.2	-					
30～39歳	95 100.0	6 6.3	3 3.2	1 1.1	2 2.1	2 2.1	2 2.1					
40～49歳	117 100.0	8 6.8	4 3.4	2 1.7	3 2.6	8 6.8	1 0.9					
50～59歳	150 100.0	13 8.7	13 8.7	1 0.7	-	5 3.3	2 1.3					
60～69歳	156 100.0	19 12.2	15 9.6	1 0.6	1 0.6	9 5.8	3 1.9					
70～79歳	180 100.0	34 18.9	17 9.4	1 0.6	1 0.6	11 6.1	5 2.8					
80歳以上	106 100.0	22 20.8	11 10.4	1 0.9	1 0.9	7 6.6	4 3.8					

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにつれて「行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を推進する」「公務員等人権との関わり深い職業に従事する人の人権意識を高める」の割合が高くなり、「人権侵害を受けた人に対する救済策を充実させる」の割合は低くなっている。

【人権侵害を受けた経験の有無別】

	全 体	学 校 等 に お け る 人 権 教 育 を 充 実 さ せ る	企 業 、 事 業 所 に お け る 人 権 尊 重 に 向 け た 取 組 を 支 援 す る	行 政 が 人 権 尊 重 の 観 点 に 立 っ て 行 う 施 策	人 権 侵 害 を 受 け た 人 に 対 す る 救 済 策 を 充 実 さ せ る	家 庭 で の 人 権 教 育 を 支 援 す る	行 政 が 住 民 の 人 権 意 識 を 高 め る た め の 啓 発 活 動 を 推 進 す る	公 共 施 設 等 で 行 う 人 権 教 育 ・ 啓 発 を 充 実 さ せ る
上段：実数 下段：％								
全 体	871 100.0	680 78.1	300 34.4	196 22.5	181 20.8	180 20.7	174 20.0	154 17.7
人権侵害を受けたことがある	107 100.0	80 74.8	42 39.3	25 23.4	30 28.0	27 25.2	22 20.6	15 14.0
人権侵害を受けたことがない	653 100.0	523 80.1	224 34.3	146 22.4	128 19.6	130 19.9	125 19.1	119 18.2

	全 体	意識を高める 従事する人の人権	関係者の深い職業に 公務員等の人権	団体の取組を支援する 住民やNPO等の尊重	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数 下段：％								
全 体	871 100.0	107 12.3	69 7.9	8 0.9	10 1.1	45 5.2	17 2.0	
人権侵害を受けたことがある	107 100.0	11 10.3	9 8.4	1 0.9	1 0.9	6 5.6	2 1.9	
人権侵害を受けたことがない	653 100.0	83 12.7	52 8.0	7 1.1	9 1.4	27 4.1	12 1.8	

人権侵害を受けた経験の有無別にみると、人権侵害を受けた経験がある人の方がいない人よりも「人権侵害を受けた人に対する救済策を充実させる」が8.4ポイント、「家庭での人権教育を支援する」が5.3ポイント、「企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する」が5.0ポイント高く、「学校等における人権教育を充実させる」は5.3ポイント低くなっている。

（２）向日市の人権教育・啓発に対する意見等

問24 向日市では、市民の皆様一人ひとりの日常生活の中に人権意識が根付き、人を大切に作る社会を築くため、今後も積極的に人権教育・啓発を進めていきたいと考えています。ご意見やご要望などありましたら、お書きください。

向日市の人権教育・啓発に対する意見等を自由に記入してもらったところ、回答者総数 851 人のうち、150 人（17.6%）から意見・要望等の回答があった。

特徴的な意見を要約したものを以下に掲載する。

・人権教育・啓発について

内容
小、中、高の学生の時代に人権教育・啓発を進めて下さい。
家庭でも職場でも「自分を大切にする事」をまずはじめとして、そう考える事で他者も思いやる事ができると思うので、個々が大事な存在としてあるという事を認識できる環境が大切だと思う。
人権というと自分の権利を主張しがちですが、他の人を尊重する事で自分も尊重されていきます。日常的に他の人を（人間を）大切に作る言葉を考えてみたらいいと思います。
人権教育は時代に合わせてアップデートしながら、毎年継続していくことが何より大切だと思う。
親から子への人権教育がしっかりしていないと、学校や市などの取組の効果が薄れてしまう気がします。

・人権問題全般について

内容
必要以上に考えすぎるのもどうかと思う。
昔は人種差別があったように思いますが、今はそのようなことを感じたことはありません。
人権問題やどの人にも理解ある社会であってほしいと思います。当り前の生活が送れる向日市であり続けるよう期待します。
人権問題はとてもセンシティブな面も含まれます。とても難しい問題だと思うので、積極的に進めるのに、あらゆる注意を払わなければならないという事。大変難しい取組だといつも思います。

・支援について

内容
問題を抱えた人に（人件費・活動費など）フォローができる市にしてください。
性的少数者に対しての人権をもっと守るべきだと思います。例えば、同性婚を認めるか否かが社会的問題となっています。向日市ではパートナーシップ制度が導入されたようですが、法律上の効果はない状態です。法律が改正されなければ向日市で同性婚を認めることは厳しいとは思いますが、性的少数者に対する人権尊重への取組はこれからも続けてほしいです。
部落問題や障がいのある方への支援、補助がどのような事がされているのかわからない。

・ アンケートについて

内容
今回こうしてアンケートが届いたことで人権について考える機会となりました。今後もこうしてアンケートの実施もしていったら、一人一人が考えるきっかけになると思います。よろしくお願いいたします。
向日市に住んで 30 年以上になりますが、この 30 年間人権啓発、人権教育に対して、向日市が何かしているかと問われたら、はっきり言って何も浮かびません。 何を目的にこういうアンケートを実施されているのか、今後どういう風にしていきたいのか何が目的なのか、何を目指してどういう風にしたいのか、を市民に示してください。

・ その他

内容
自分自身の人生（77 年）で一度たりとも「人権」について考えた事がない。向日市がこの問題に積極的に行動している事に驚いています。
生活において特に問題を感じず、住み良い市だと思っております。今後共よろしくお願いします。

IV 調査票

「向日市人権教育・啓発推進計画」 に関する市民意識調査

向日市民の皆様へ

調査の趣旨とご協力のお願い

市民の皆様におかれましては、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、個人の尊厳と人権が尊重される社会の実現を目指し、2016年(平成28年)3月に「第2次向日市人権教育・啓発推進計画」を策定し、人権に関するさまざまな施策を推進してまいりました。

このたび、この計画の第3次計画を策定するにあたり、市内に居住されている18歳以上の3,000人の方々を、無作為で選んでアンケート調査を実施し、市民の皆様のご意見をお聞かせいただき、計画策定の基本資料にしてまいりたいと考えております。

ご多忙とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。


2025年(令和7年)1月

向日市

ご記入にあたってのお願い

- 1 お答えいただいた内容は、かたく秘密を守り、他の目的で使用することは決してありませんので、率直なご意見をご回答ください。また、年齢など、ご本人に関する事項は、この調査票の記入日現在でご記入ください。
- 2 必ず、あて名のご本人がご記入いただきますようお願いいたします。ご本人が病気などで回答いただけないときは、代理人の方がご本人の意見を聞いてご回答いただければ幸いです。
- 3 それぞれの問いで、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。また、「その他(具体的に：)」を選ばれた場合は、()に内にその内容をご記入ください。

2月14日(金)までに①または②のどちらかの方法でご回答ください。

①郵送でご回答の場合	調査票に回答を記入し、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて投函してください。
②ウェブでご回答の場合 	左のQRコード又は下のURLから回答ページにアクセスし回答してください。(ウェブで回答された場合は、調査票の送付は不要) URL: https://src.webcas.net/form/pub/src2/26208a ID <input type="text"/> 二重回答を防ぐため、IDをご入力ください。 このIDにより、個人が特定されることはありません。

[問い合わせ先] 向日市ふるさと創生推進部広聴協働課

〒617-8665 向日市寺戸町中野20番地

電話番号 (075) 874-1409 FAX 番号 (075) 922-6587

Eメール kyodo@city.muko.lg.jp

人権に関する考え方や認識についてお聞きします。

(人権尊重に関する考え方)

問1 あなたは「人権が尊重されている」とはどういうことだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 公権力から干渉されず、自由に生活できること
2. 差別されない、平等であること
3. 個人として尊重されること
4. 個人のもつ可能性を発揮する機会が認められること
5. 健康で文化的な最低限度の生活を送ることができること
6. その他（具体的に：_____）
7. わからない

(人権尊重の感じ方)

問2 人権を取り巻く社会の状況について、あなたはどのように思いますか。(①と②のそれぞれに○は1つずつ)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらかと いえばそう 思わない	そう 思わない	わから ない
① 向日市民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている	1	2	3	4	5	6
② 向日市では、人権が尊重された豊かな社会になっている	1	2	3	4	5	6

(人権課題に関する尊重度)

問3 あなたは、次にあげた人権が尊重されていると思いますか。(①～⑬のそれぞれに○は1つずつ)

	尊重されている	ある程度尊重されている	あまり尊重されていない	尊重されていない	わからない
① 部落差別（同和問題）に関する人権	1	2	3	4	5
② 女性の人権	1	2	3	4	5
③ 子どもの人権	1	2	3	4	5
④ 高齢者の人権	1	2	3	4	5
⑤ 障がいのある人の人権	1	2	3	4	5
⑥ 外国人の人権	1	2	3	4	5
⑦ ハンセン病・H I V感染症・難病患者の人権	1	2	3	4	5
⑧ 犯罪被害者とその家族の人権	1	2	3	4	5
⑨ ホームレスの人権	1	2	3	4	5
⑩ L G B T等、性的少数者の人権	1	2	3	4	5
⑪ 刑を終えて出所した人の人権	1	2	3	4	5
⑫ アイヌの人々の人権	1	2	3	4	5
⑬ 北朝鮮当局による拉致被害者等の人権	1	2	3	4	5

人権に関する法律についてお聞きします。

（人権に関する法律の認知度）

問4 あなたは、次のような人権に関する法律を知っていますか。（①～⑤のそれぞれに○は1つずつ）

	内容をよく 知っている	内容を少し 知っている	名称は知っ ている	知らない
① 障害者差別解消法（2016年（平成28年）4月施行）（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）	1	2	3	4
② ヘイトスピーチ解消法（2016年6月（平成28年）施行）（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に関する法律）	1	2	3	4
③ 部落差別解消推進法（2016年（平成28年）12月施行）（部落差別の解消の推進に関する法律）	1	2	3	4
④ L G B T理解増進法（2023年（令和5年）6月施行）（性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律）	1	2	3	4
⑤ 情報流通プラットフォーム対処法（2024年（令和6年）5月公布）（特定電気通信による情報の流通によって発生する権利侵害等への対処に関する法律）	1	2	3	4

（障がいがある人の人権に対する問題）

問5 障がいのある人の人権に関する、次のあげた事項についてどう思いますか。（①～③のそれぞれに○は1つずつ）

	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い
① 補助犬を連れていることを理由に、入店を断られることは問題である	1	2	3	4
② 精神に障がいのある人に対しては、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる	1	2	3	4
③ 企業は利潤が第一なのだから、知的障がい者や精神障がい者の雇用が進まなくても仕方がない	1	2	3	4

(ヘイトスピーチに対する認知度)

問6 あなたは、デモ、集会、街宣活動等やインターネット上で行われている特定の民族や国籍の人々を排斥する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）の存在を知っていますか。
(どちらかに○は1つ)

1. 知っている

2. 知らない

→ 5 ページの問9へ



次の問7. 問8へ

(ヘイトスピーチを見聞きした体験)

問7 問6で「1. 知っている」を選んだ方にお聞きします。あなたは、ヘイトスピーチの存在をどこで見聞きしたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 直接見たり聞いたりしたことがある
2. デモ等の様子をインターネットなどで見たことがある
3. テレビ・ラジオや新聞などの報道で見たり聞いたりしたことがある
4. 啓発ポスターや啓発冊子等でそのような行為があることを見たことがある
5. 学校の授業で教わった
6. ヘイトスピーチに関する集会や研修会で知った
7. 家族、友だち等から聞いたことがある
8. その他（具体的に： _____）
9. おぼえていない

(ヘイトスピーチに対する認識)

問8 問6で「1. 知っている」を選んだ方にお聞きします。あなたは、ヘイトスピーチの存在を見聞きしてどのように思いましたか。(○はいくつでも)

1. 特定の人々を排除するのは、許せないと思った
2. 日本に対する印象が悪くなると思った
3. ヘイトスピーチされる側にも問題があると思った
4. 自分には関係ないと思った
5. ヘイトスピーチをする側の主張も一理あると思った
6. 「表現の自由」の範囲内のものだと思った
7. その他（具体的に _____）
8. 特にない

【全員にお聞きします。】

（部落差別（同和問題）を知ったきっかけ）

問9 あなたが、部落差別（同和問題）について初めて知ったきっかけは、何からですか。
（○は1つ）

1. 家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた
2. 親戚の人から聞いた
3. 近所の人から聞いた
4. 職場の人から聞いた
5. 友人から聞いた
6. 学校の授業で教わった
7. テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った
8. インターネットで知った
9. 部落差別（同和問題）に関する集会や研修会で知った
10. 向日市の広報誌や冊子等で知った
11. 部落差別（同和問題）について、知っているが、きっかけは覚えていない
12. その他（具体的に： _____）
13. 部落差別（同和問題）について、知らない

（部落差別（同和問題）に対する認識）

問10 あなたは、次のことについて、現在、部落差別（同和問題）があると思いますか。（①～⑤のそれぞれに○は1つずつ）

	明らかに ある	どちらか といえ ばある	ほとん どない	ない	わから ない
① 日常の交流や交際	1	2	3	4	5
② 就職について	1	2	3	4	5
③ 結婚について	1	2	3	4	5
④ 引っ越しや住宅の購入等に際して	1	2	3	4	5
⑤ インターネットを介した差別的な情報の拡散	1	2	3	4	5

(LGBT等、性的少数者の人権)

問 11 あなたは、LGBT等の人権について、どのようなことが問題だと思いますか。(○は特に問題と思われる番号を3つ以内)



1. 差別的な言動をされること
2. じろじろ見られたり、避けられたりすること
3. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること
4. 性的少数者であることを本人の承諾なしに第三者に伝えること (アウティング)
5. 就職・職場での不利な扱いを受けること
6. 職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること
7. 賃貸住宅への入居が難しいこと
8. パートナーとの関係が公に認められないこと
9. その他 (具体的に: _____)
10. わからない

差別や人権侵害などに関する考え方についてお聞きします。

(人権侵害された経験の有無)

問 12 あなたは、過去5年間に自分の人権を侵害されたと感じたことがありますか。

(○は1つ)

1. ある	2. ない	3. わからない
		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="background-color: #cccccc; padding: 5px 10px;">次の問 13. 問 14 へ</div><div style="background-color: #cccccc; padding: 5px 10px;">7 ページの問 15 へ</div></div>		

(人権侵害された経験の内容)

問 13 問 12 で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。それは、どのような人権侵害でしたか。

(○はいくつでも)

1. あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害
2. 公的機関による不当な扱い
3. 企業・団体による不当な扱い
4. 地域での暴力、脅迫、無理強い、仲間外れ
5. 家庭での暴力や虐待
6. 差別待遇 (信条・性別・出身地・社会的地位・心身の障がいによるものなど)
7. プライバシーの侵害
8. パワーハラスメント (職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ)
9. セクシャルハラスメント (性的嫌がらせ)
10. インターネットによる人権侵害
11. その他 (具体的に: _____)
12. わからない

(人権侵害への対応)

問 14 問 12 で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。人権侵害を受けたと感じた際、あなたはどうか対応されましたか。(○はいくつでも)

1. 相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した
2. 家族や友人など信頼できる人に相談した
3. 公的機関（法務局・府・向日市等の人権相談窓口、警察等）に相談した
4. NPO法人等民間団体に相談した
5. 職場の相談窓口相談した
6. 弁護士等に相談した
7. その他（具体的に： _____）
8. 何にもしないでそのままにした
9. わからない

【全員にお聞きします。】

(人権相談窓口の認知度)

問 15 あなたは、人権に関する事柄で悩んだときなどの対応のため、国（法務局や人権擁護委員）をはじめ地方自治体（京都府や向日市）やNPO法人等の民間団体において人権相談の窓口が開かれているのをご存じですか。（どちらかに○は1つ）

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

(身近な人権問題に関する考え方)

問 16 人権の尊重や侵害については、人によっていろいろと考え方の違いがあります。あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。(①～⑫のそれぞれに○は1つ)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう思わ ない	そう 思わない
① 部落差別（同和問題）は、口に出さずそっとしておけば自然になくなると思うので、学校や職場で積極的に学習や研修を行わなくてもよい	1	2	3	4	5
② 男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児をしたほうがよい	1	2	3	4	5
③ 親の介護が必要になったとき、女性の役割だと決めつけるのはよくない	1	2	3	4	5

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえば そう思わ ない	そう 思わない
④ 子どもが参加する地域行事を決める際に、大人だけで決めて、子どもの意見を聞かなくてよい	1	2	3	4	5
⑤ 認知症で徘徊する高齢者について、介護者が側にいない場合、鍵をかけて家から出られないようにすることはやむを得ない	1	2	3	4	5
⑥ 学校や企業などは、障がいのある人の特性や困りごとを配慮して、教育や就業機会の提供に努めるべきである	1	2	3	4	5
⑦ 日本に住む外国人は、できるだけ日本の文化や習慣に合わせる努力をすべきである	1	2	3	4	5
⑧ 外国人を受け入れない、拒否する趣旨の言動が公然とされること（いわゆるヘイトスピーチ）は許されない	1	2	3	4	5
⑨ 感染症患者については、感染拡大防止のため、プライバシーの保護などが制限される場合があってもやむを得ない	1	2	3	4	5
⑩ 犯罪被害者について、報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなることは問題である	1	2	3	4	5
⑪ L G B T等、性的少数者であることを身近な人にもいえない社会は問題である	1	2	3	4	5
⑫ 刑を終えて出所した人が、更生した後も、インターネットなどで過去の犯罪歴を調べられることがあってもやむを得ない	1	2	3	4	5

（結婚相手の判断条件）

問 17 仮にあなたにお子さんがいた場合、お子さんの結婚しようとする相手が、次のような相手の場合、あなたはどのように思いますか。（①～③のそれぞれに○は1つずつ）

	何も気にしない	親としては気になるが、子どもの意思を尊重する	家族の者や親せきが気にすれば、結婚を認めないこともある	絶対に結婚は認めない	わからない
① 障がいのある人	1	2	3	4	5
② 外国人	1	2	3	4	5
③ 被差別部落（同和地区）出身者	1	2	3	4	5

（インターネットによる人権侵害）

問 18 あなたは、インターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。（○はいくつでも）

1. 他人を誹謗中傷する情報が掲載されること
2. 他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること
3. SNS（LINE やX（旧 Twitter）など）による交流が犯罪を誘発する場となっていること
4. 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること
5. ネットポルノが存在していること
6. プライバシーに関する情報が掲載されること
7. リベンジポルノ（元交際相手などの性的画像を無断でネット上に公開する行為）が行われていること
8. 特定の地域が被差別部落（同和地区）である、または、あったと示唆するような情報が掲載されること

（インターネットによる人権侵害への対応）

問19 インターネットによる人権侵害を改善するためには、あなたはどうすればよいと思いますか。（○はいくつでも）

1. インターネットを利用するときのルールやマナーについての教育、啓発を推進する
2. プロバイダ等に対し個人情報を正しく理解する啓発活動を推進する
3. プロバイダ等に対し積極的に削除を求める
4. 不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する
5. 表現の自由に関わる問題であり、慎重に対応する必要がある
6. プロバイダ等の自主規制に任せる
7. その他（具体的に： _____）
8. わからない

人権問題を理解するための取組についてお聞きします。

（人権研修等への参加状況）

問 20 最近（5年間）、あなたは、学校や職場、市が主催する人権問題に関する研修会や講演会、啓発映画上映会や向日市民平和と人権のつどいなどの人権啓発に関する行事等に参加されたことがありますか。（どちらかに○を1つ）

1. 参加したことがある

2. 参加したことがない

→ 11 ページの問 22 へ

問 20-1 これまで参加された回数は何回ですか。（○は1つ）

1. 1～2回

2. 3～4回

3. 5回以上

↓
次の問 21 へ

（啓発事業参加後の人権問題に関する理解の変化）

問 21 問 20 で「1. 参加したことがある」を選んだ方にお聞きします。あなたは、人権啓発に関する行事等に参加して、人権や人権問題に対する理解・認識は深まりましたか。（○は1つ）

1. 深まった
2. どちらかといえば深まった
3. 変わらない
4. わからない

【全員にお聞きします。】

(効果的な人権啓発手法)

問 22 あなたは、人権問題について理解や認識を深めるためには、どのようなものが役立つと思いますか。(〇は役立つと思われる番号を3つ以内)

1. 市内で行われる研修会、講演会、人権啓発イベント等
2. 職場や職種・業界団体等による研修会、講演会等
3. 小・中学校など学校での人権教育
4. 市の広報誌、冊子
5. 社内報など
6. 新聞の記事・意見広告
7. 雑誌や週刊誌の記事
8. 人権問題に関する書籍
9. テレビ・ラジオ・映画・DVD・ビデオ
10. インターネット (SNS (LINE やX(旧 Twitter)など))
11. 動画配信サイト
12. 実態を見たり、当事者の話を聞く
13. 地域の人権課題をテーマにした住民自らの取り組み
14. 様々な人権問題の解決に取り組むNPO法人等の活動等
15. その他 (具体的に:)
16. わからない

人権が尊重される社会づくりに求められることについてお聞きします。

(人権が尊重される社会づくりに向けた施策)

問 23 あなたは、人権が尊重される社会を実現するために、どのような人権教育や啓発の施策が必要だと思いますか。(〇は特に重要と思われる番号を3つ以内)

1. 学校等における人権教育を充実させる
2. 家庭での人権教育を支援する
3. 公共施設等で行う人権教育・啓発を充実させる
4. 企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する
5. 行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を推進する
6. 行政が人権尊重の視点に立って様々な施策を行う
7. 公務員等人権との関わりの深い職業に従事する人の人権意識を高める
8. 住民やNPO等の団体による人権尊重に向けた取組を支援する
9. 人権侵害を受けた人に対する救済策を充実させる
10. その他 (具体的に:)
11. 特にない
12. わからない

（向日市の人権教育・啓発に対する意見等）

問 24 向日市では、市民の皆様一人ひとりの日常生活の中に人権意識が根付き、人を大切にする社会を築くため、今後も積極的に人権教育・啓発を進めていきたいと考えています。
ご意見やご要望などありましたら、お書きください。

最後に、あなたご自身のことについてお聞きします。

問 25 あなたの性別を教えてください。（○は1つ）

1. 男性	2. 女性	3. 自由記述（ 例：答えたくない どちらともいえない わからない 等
-------	-------	--

問 26 あなたの年齢を教えてください。（○は1つ）

1. 18・19 歳	2. 20～29 歳	3. 30～39 歳	4. 40～49 歳
5. 50～59 歳	6. 60～69 歳	7. 70～79 歳	8. 80 歳以上

問 27 あなたの職業を教えてください。（○は1つ）

1. 勤めている人（従業員30人以上）
2. 勤めている人（従業員30人未満）
3. 公務員
4. パートタイムやアルバイトで勤めている人
5. 会社などの役員
6. 自営業主
7. 家族従事者
8. 家庭内の賃仕事（内職）
9. 家事に従事している人
10. 学生
11. 無職
12. その他（具体的に： ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、**2月14日（金）**までに同封の返信用封筒に入れて、ポストにご投函ください。
（切手を貼る必要はありません。）ウェブで回答された場合は、調査票の返送は不要です。